法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-12-26

# 和仏法律学校講義録

秋山，雅之介 / 山崎，覺次郎 / 谷野，格 / 鈴木，英太郎 / 塚田，達二郎

(出版者 / Publisher)
和佛法律學校
(巻 / Volume)
1-17
(開始ページ / Start Page)
1
(終了ページ / End Page)
75
(発行年 / Year)
1903-07-06

明治三十五年十一月四日第三種郵便物認可　毎月十九回一日五日六日八日十日十一日十二日十三日十五日十六日廿日廿一日廿三日廿五日廿六日廿七日廿八日廿九日三十日發行

明治三十六年七月六日發行

三十六年度　第一學年ノ十七

# 和佛法律學講義錄

第百四拾號

和佛法律學校

# 第一學年第十七號目次


民法總則（自第一章至第三章）（自一三三至一八〇）　法學士　鈴木英太郎

民法總則（自第四章至第六章）（自一二五至一七二）　法學士　塚田達二郎

刑法總論（自一八五至二〇八）　法學士　谷野格

國際公法（戰時）（自一七七至一八四）　法學士　秋山雅之介

經濟學（自二〇九至二二〇）　法學士　山崎覺次郎

雜報　○不法ノ原因ニ基ク給付物返還ノ契約○第一學年試驗問題



090
1903
1-1-17


第二　法人ハ行爲能力ヲ有スルカ

法人ハ行爲能力ヲ有スルヤ否ヤノ問題ニ付テハ法人ノ本質ニ關シテ實在說ヲ採ルト擬制說ヲ採ルトニ因リテ其論決ヲ異ニセサルヲ得ス若シ法人ハ實在スルモノニシテ意思能力ヲ有シ理事ハ法人ノ單純ナル機關ニ過キストセハ法人カ行爲能力ヲ有スルコトハ少シモ疑ナシ之ニ反シテ擬制說ノ如ク實在スルモノニ非スシテ法律ノ假定ニ因リテ始メテ存在スルモノニシテ意思能力ヲ有セス理事ハ法人ノ單純ナル機關ニ非ス法人ノ代理人ニシテ法人ト理事トハ二箇ノ異ナリタル人格者ナリトセハ法人カ行爲能力ヲ有セサルハ明カナリ嘗テ述ヘタルカ如ク予ハ法人ノ本質ニ關シ擬制說ヲ採ルヲ以テ其結果法人ハ行爲能力ヲ有セスト信ス

右ノ如ク法人ハ行爲能力ヲ有セス故ニ法人ハ嘗テ法律行爲ノミナラス不法行爲モ亦之ヲ爲スノ能力ナシ然レトモ法人ハ理事ニ依リテ法律行爲ヲ爲スコトヲ得詳シク言ヘハ理事カ其權限內ニ於テ法人ノ爲メニスルコトヲ示シテ法律行爲ヲ爲セハ直接ニ法人ニ對シテ其效力ヲ生スルモノナリ即チ理事ノ爲ス法

律行爲ハ理事自身ノ行爲ニシテ法人ノ行爲ニ非サルモ其行爲ノ效力ハ直接ニ法人ニ及ブモノナリ(第九九條)然ラハ不法行爲ハ如何向ホ法律行爲ノ場合ノ如ク理事カ其職務ヲ行フニ付キ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ハ法人ハ其責ニ任スヘキモノナルヤ否ヤ換言セハ理事ハ不法行爲ヲ爲スノ權限ヲ有スルヤ否ヤ此問題ニ付テモ法人ノ本質ニ關シ實在說ヲ採ルト擬制說ヲ採ルトニ付キ其論決ヲ異ニス若シ法人カ實在シテ意思ヲ有シ自ラ活動スルモノナレハ理事カ其職務ヲ行フニ付キ爲シタル不法行爲ハ理事ノ不法行爲ニ非スシテ法人自身ノ不法行爲ナリ理事ハ單ニ法人ノ意思機關タルニ過キス故ニ法人カ其不法行爲ニ付テ損害賠償ノ責ニ任セサルヘカラサルハ少シモ疑ナシ然レトモ屢〻述ヘタルカ如ク予ハ我民法ノ解釋上法人ハ實在者ニ非スシテ一ノ擬制ナリ理事ハ法人ノ意思機關ニ非スシテ其法定代理人ナリト信ス故ニ法人實在說ノ謂フ所ヲ以テ本問題ヲ解決スルコト能ハサルヘシ然ラハ如何ニ理事ハ不法行爲ヲ爲ス權限アルヤ否ヤ此點ニ付キ或學者ハ不法行爲ヲ爲ス權限アリトセリ即チ權限內ノ行爲ニシテ不法行爲アリトノ說ナリ此說ハ曾ニ私法學者ノミナラス公法學者中ニモ此ノ如キ說ヲ爲ス者アルカ如シ此說ヲ主張スル學者曰ク例ヘハ收稅官吏ハ租稅ヲ徵收スルノ權限ヲ有ス然レトモ若シ六月ニ徵收スヘキモノヲ五月ニ徵收セハ是レ即チ權限內ノ行爲ナルモ不法行爲タルヲ免レスト此說ニ依レハ理事カ其職務ヲ行フニ付キ爲シタル不法行爲ハ其權限內ニ於テ爲シタルモノナルヲ以テ本人タル法人ハ當然之ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任スヘキナリトセリ然レトモ予ハ權限ヲ此ノ如ク廣義ニ解スヘキモノニ非スト信ス法律上權限トハ常ニ適法ノ行爲ヲ爲スノ權限ニシテ不法行爲ヲ爲スノ權限ノ如キハ法律ノ決シテ認許セサルモノナリト信ス故ニ理事カ不法行爲ヲ爲セハ縱令其職務ヲ行フニ付キ爲シタルモノナルモ其行爲ハ權限內ノ行爲ニ非スシテ理事一箇ノ行爲ナリト信ス故ニ單純ナル理論上ヨリセハ法人ハ理事ノ行ヒタル不法行爲ニ對シテハ其損害賠償ノ責ニ任スヘキモノニ非スト信ス

法人ハ理事ノ爲シタル不法行爲ニ對シテ其責ニ任セストノ說ハ羅馬法以來ノ學說ナリ羅馬ノ法律大家「ウルピヤン」曰ク市町村ハ其官吏ノ不法行爲ニ付キ損

害賠償ノ責任ナシ何トナレハ市町村ハ決シテ不法行爲ヲ爲スコト能ハサルヲ以テナリト說明セリ此說ハ既ニ述ヘタルカ如ク理論上正當ナリト信スルモ此ノ如クスレハ法人ハ常ニ理事カ爲シタル不法行爲ノ責任ヲ免ルル結果ト爲リ實際上ノ不便少カラサルヲ以テ學者及ヒ實際家ハ如何ニカシテ法人ニ損害賠償ノ責任アルモノト說明セント欲シ其方法トシテ顯ハレタルモノノ一ハ法人實在說ノ主張スルモノニシテ法人ハ意思ヲ有ス隨テ不法行爲ノ能力ヲ有スト說ナリ他ノ一ハ權限內ノ不法行爲存ストノ說ナリ然レトモ此二說トモ少クトモ我民法ノ解釋トシテ採用スルコト能ハサルハ既ニ述ヘタルカ如シ其他此說明ノ方法トシテ顯ハレタルモノハ「ウィンドシャイド」氏ノ條理說ナリ氏曰ク法人ハ元來不法行爲ヲ爲スコトヲ得ルヤ換言スレハ理事カ其職務ヲ行フニ付キ爲シタル不法行爲ハ之ヲ法人ノ行爲ト看做シ法人ヲシテ其責ニ任セシムヘキモノナルヤ否ヤ若シ其不法行爲ノ責任ニ對スル責任カ刑罰ナルトキハ全ク消極的ニ答辯セサルヘカラス何トナレハ行爲者以外ノ人ヲ罰スルハ刑罰ノ本質ニ反スルヲ以テナリ然レトモ不法行爲ノ責任ハ單ニ損害賠償ニ止マルトキハ反對ニ答辯セサルヘカラス法人ハ理事ニ依リテ其目的ヲ實行スルコトヲ得ルヲ以テ一方ニ於テ理事ノ行爲ニ依リテ利益ヲ享有スルト同時ニ他方ニ於テ其損害ヲ負擔スルハ極メテ條理ニ適スルモノト說明セリ（[illegible]）我民法第四十四條第一項ニハ「法人ハ理事其他ノ代理人カ其職務ヲ行フニ付キ他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス」ト規定セリ故ニ我民法上ニ於テハ法人カ理事其他ノ代理人ノ不法行爲ノ責ニ任スルコトハ明カナリ然レトモ此規定ハ如何ナル理由ニ基キタルモノナルヤ熟考フルニ第四十四條第一項ニハ「理事其他ノ代理人カ云云」ト規定セルヲ以テ法人實在說カ曰フ如ク法人自身ノ行爲トシテ損害賠償ノ責ニ任スルノ趣旨ニ非サルコト明カナリ又同條ハ法文ノ排列上ヨリ見ルモ理事ノ代理權ヲ規定シタルモノト看ルコト能ハサルヲ以テ理事ノ權限內ノ行爲ニ不法行爲アリトノ理由ニ基キタルモノトモ看ルコト能ハス然ラハ我民法ノ規定ハ「ウィンドシャイド」ノ所謂條理說ニ基キタルモノナルヤ或ハ單ニ實際ノ便宜ニ基キタルモノナルヤ判然セサルモ予ハ同條ヲ解釋スルニ當リ特ニ條理ト謂フカ如キ語ヲ用ヒスシテ實際ノ便宜ヲ慮リタ之ヲ說ケタ

ル規定ナリト說明スレハ足レリト信ス

右ニ述ヘタルカ如ク我民法ニ於テハ實際ノ便宜上ヨリシテ法人ハ理事其他ノ代理人カ爲シタル不法行爲ニ付キ其責ニ任スヘキモノナリ然レトモ法人ノ目的ノ範圍內ニ非サル行爲ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ全ク之ト反對ニシテ法人ハ其責ニ任セサルモノナリ是レ當然ノ理ナリト信ス何トナレハ屢〻述ヘタルカ如ク法人ハ其定マリタル目的ノ範圍內ニ於テノミ權利能力ヲ有スルモノナルヲ以テ他人モ法人ノ理事其他ノ代理人カ其目的ノ範圍內ニ非サル行爲ヲ爲ス場合ニハ法人カ其責ニ任セサルコトハ豫メ期スル所ナルヲ以テ前ニ述ヘタルカ如ク法人ヲシテ其責ニ任セシムルカ如キ實際上ノ必要ナキヲ以テナリ而シテ此場合ニ於テハ其不法行爲ノ責ニ任スヘキ者ハ論理上其不法行爲者カ若クハ之ヲ爲スニ至ラシメタル者ナラサルヘカラス民法ノ規定ニ依レハ法人ノ目的外ノ行爲ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ハ其不法行爲ノ責ニ任スヘキ者ハ其事項ノ議決ヲ贊成シタル社員理事及ヒ之ヲ履行シタル理事其他ノ代理人ナリ而シテ此等ノ人人ハ各自連帶シテ其損害ヲ賠償スル義務アルモノナリ（第四四條第二項）

## 第五款　法人ノ機關

### 第一項　理事

法人ノ機關ナル語ハ學者ニ依リ種種ノ意義ニ用フ例ヘハ前ニ法人ノ觀念ヲ述ヘシ時ニ論シタル如ク法人實在說ヲ採ル學者ハ法人ノ機關ナル語ヲ恰モ自然人ノ手足口鼻ト云フカ如ク法人ヲ離レテ別個ノモノヲ指スニ非スシテ之ヲ組織スル一部分ヲ謂フモノノ如シ然レトモ予カ玆ニ法人ノ機關ト云フハ決シテ此ノ如キ意味ニ於テ謂フニ非ス法人ヨリ獨立シテ別ニ存在スルモノナレトモ其目的ヲ達スル爲メニ活動スルニ必要ナルモノヲ指スモノナリ

法人ハ自然人ノ如ク意思能力ヲ有セス隨テ自ラ行爲ヲ爲スコト能ハサルヲ以テ其目的ノ範圍內ニ於テ活動スルニハ種種ナル機關ノ存在スルヲ要ス我民法ノ上ニ於テ法人ノ機關ト謂フヘキモノハ理事監事及ヒ總會ノ三ナリトス予ハ本項ニ於テ先ツ其理事ニ付テ述ヘントス然レトモ理事ハ人人

法人ニハ必ス理事ヲ置クコトヲ必要トス然レトモ理事ノ人數ハ民法上之ヲ一定セス法人ノ目的トスル事業ノ性質其他ノ狀況ニ依リテ或ハ一人或ハ數人ヲ置クコトヲ得ルモノナリ而シテ數人ノ理事ヲ置キタル場合ニ於テハ定款又ハ寄附行爲ニ別段ノ定ナキトキハ法人ノ事務ハ理事ノ過半數ヲ以テ之ヲ決スヘキモノナリ(第五二條)

理事ハ法人ノ代理人ナルカ又ハ單純ナル機關ニ止マルカ學者間ニ爭アル問題ナリ予カ今代理人ト謂フハ法人ヨリ獨立シタル一ノ人格者ニシテ第三者ニ對スル關係ニ於テハ法人ト代理人トノ關係ニ在ルモノヲ謂フ又予カ單純ナル機關ト謂フハ法人ヨリ獨立シタル人格者ヲ謂フニ非スシテ法人ノ一部ヲ組織スル恰モ自然人ニ於ケル手足口鼻ト云フ如キ法人ノ意思ヲ表示スル機關ニ過キサルモノヲ謂フ若シ法人カ實在スルモノニシテ法人ハ意思及ヒ目的ヲ有シ隨テ利益ヲ享有シ自ラ活動スル能力アリトスル說ヲ採レハ理事ハ勿論法人ノ代理人ニ非スシテ單純ナル機關ナリ之ニ反シテ若シ法人カ法律ノ假定ニシテ實在メルモノニ非ス且意思ヲ有セサルモノトセハ理事ハ法人ノ代理人ト謂フヲ適當ト信ス而シテ予ハ嘗テ述ヘタルカ如ク少クトモ我民法ノ解釋トシテハ法人トハ法律ノ假定ニ依リテ成立スルモノト爲ス說ヲ正當ト認ムルカ故ニ理事ハ我民法上法人ノ代理人ナリト信ス民法ニ於テモ明文上或ハ理事ノ代理權ト謂ヒ或ハ理事其他ノ代理人ト謂ヒテ理事ヲ以テ間接ニ法人ノ代理人ト認メタル所アリ(第五五條、第五七條、第四四條)

右ノ如ク理事ハ法人ノ代理人ナリ然ラハ理事ハ法人ノ法定代理人ナルカ又ハ委任ニ因ル代理人ナルカハ一ノ問題ナリ此問題ヲ決スルニハ理事ノ選任ニ關スル規定ヲ研究スルコトヲ要ス而シテ我民法ノ規定ニ依レハ理事ノ選任ニ關スル規定ハ定款又ハ寄附行爲ニ依リテ定マル(第三七條第五號、第三九條)此定款又ハ寄附行爲ニ定ムル所ハ固ヨリ一樣ナラス社團法人ニ在リテハ總會ニ於テ理事ヲ選任スルモノト爲ス者モアラン是ニ於テカ學者或ハ特ニ其理事カ總會ニ於テ選任セラルル場合ヲ見テ理事ハ法人ノ法定代理人ニ非スシテ委任ニ因ル代理人トセリ若シ法人ニシテ意思能力ヲ有シ總會ノ意思カ法人自身ノ意思ニシテ其意思表示ノ效果トシテ理事カ代理權ヲ得ルモノトセハ之ヲ以テ一ノ

委任ニ依ル代理人ト爲スハ必スシモ不當ニ非ス然レトモ前述セルカ如ク我民法ハ法人ハ法律ノ假定ニシテ實在セス又意思能力ヲ有セス總會ノ意思ハ社員ノ意思ニシテ法人ノ意思ニ非ス故ニ假令總會ノ決議ニ依リ理事ヲ選任スルモノトスルモ理事カ代理權ヲ得ル原因ハ法人自身ノ意思ニ非スシテ直接ニ法律ノ規定ナリト謂ハサルヘカラス而シテ理事ノ選任カ總會ノ決議ニ依ラサル場合ハ其代理權ヲ得ル原因カ直接ニ法律ノ規定ニ非サルコト尚ホ一層明瞭ナリ故ニ我民法上理事ハ法人ノ法定代理人ナリト信ス[illegible]理事ノ權限ハ概括的ニシテ極メテ廣シ民法ノ規定ニ依レハ原則トシテ法人ノ目的ノ範圍内ニ於テ一切ノ行爲ニ付キ代理權ヲ有ス(第五三條)故ニ理事ハ法人ノ代理人トシテ法律行爲タルト法律行爲以外ノ民法上適法ノ行爲ナルト又ハ訴訟行爲タルトヲ問ハス總テ之ヲ爲スコトヲ得而シテ此代理權タルヤ理事カ數人アル場合ニ於テモ各理事單獨ニ之ヲ行使スルコトヲ得ルモノナリ前ニ理事數人アル場合ハ法人ノ事務ハ理事ノ過半數ヲ以テ之ヲ決スルト言ヒシハ法人ノ内部ノ關係ニシテ外部ニ對シテハ理事ハ各自單獨ニ法人ヲ代理スルノ權限アルモノナリ即チ例ヘハ法人カ他人ト取引スルニ當リ法人ノ内部ニ於テ其取引ヲ爲スヘキヤ否ヤハ理事ノ過半數ヲ以テ決スヘキコトナレトモ一旦之ヲ決定シテ其決議ニ基キ他人ト交渉スル場合ハ各理事單獨ニ法人ヲ代表シテ其取引ヲ締結スルコトヲ得此ノ如ク理事ハ極メテ廣濶ナル權限ヲ有スルモノナレトモ定款又ハ寄附行爲ノ趣旨ニ反スルコト能ハス又社團法人ニ在リテハ總會ノ決議ニ從フヘキモノナリ(第五三條)此點ニ於テハ理事ハ委任ニ因ル代理人ト酷タ似タリ是レ理事ヲ以テ法定代理人ニ非スト爲ス所以ナラン然レトモ此ノ如キハ法人ト理事トノ關係上單ニ委任契約ニ等シキ效果ヲ生スルト云フニ止マリ全ク委任契約ト同一ノ關係存在スルモノニ非ス前ニモ述ヘタルカ如ク我民法ニ於テ法人ハ一ノ假定ニシテ意思能力ヲ有セス隨テ定款、寄附行爲、總會ノ決議ハ固ヨリ法人自身ノ意思ニ非ス隨テ法人ト理事トノ間ニ契約成立セス而シテ理事ハ法人自身ニ對シテハ此ノ如ク恰モ委任ニ因ル代理人ノ如キ地位ニ在ルモノナレトモ善意ノ第三者ニ對シテハ絶對ニ法人ノ代理人ナリ縱令定款、寄附行爲又ハ總會ノ決議ニ依リ代理權ヲ制限セラレタルニ拘ハラス理事ハ

制限外ノ行爲ヲ爲シタルモ第三者カ善意ニ之ト取引ヲ爲セハ其行爲ハ有效ニシテ法人ハ之ニ因リ當然拘束セラルルモノナリ(第五四條)

代理ニ關スル通則ニ依レハ法定代理人ハ其責任ヲ以テ復代理人ヲ選任スルコトヲ得(第一〇六條)然レトモ民法ニ規定セル法人ハ公益ヲ目的トスル法人ニシテ其代理人タル所ノ理事ハ其人ヲ信任シテ之ヲ選任シタルモノナルヲ以テ民法ハ法人ノ場合ニ於テ右ノ通則ニ對シテ一ノ例外ヲ設ケタリ即チ法人ノ理事ハ一般ノ法定代理人ト異ナリ定款寄附行爲又ハ總會ノ決議ニ依リ禁止セラレサルトキニ限リ特定ノ行爲ニ付キ復代理人ヲ選任スルコトヲ得(第五五條)故ニ理事ハ定款寄附行爲又ハ總會ノ決議ニ依リ禁止セラレタルトキハ復代理人ヲ選任スルコト能ハス又其禁止セラレサルトキト雖モ理事ノ爲スヘキ一切ノ行爲ニ付キ復代理人ヲ選任スルコトヲ得ス單ニ或特定ノ行爲ニ限ル

法人ノ理事カ死亡其他ノ原因ニ因リ缺ケタルトキハ定款又ハ寄附行爲ニ依リ定マリタル方法ニ依リ更ニ選任スヘキハ勿論ナリ然レトモ其選任ノ爲メ多少ノ時日ヲ要シ之カ爲メ損害ヲ生スル恐アルトキハ法人ノ主タル事務所所在地ノ區裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ依リ所謂假理事ヲ選任スヘキモノナリ(第五六條非訟事件手續法第三五條第一項)

理事ハ原則トシテ法人ノ目的ノ範圍內ニ於テハ一切ノ代理權ヲ有ス然レトモ法人ト理事トノ利益相反スル事項ニ付テハ例外トシテ代理權ヲ有セス而シテ此場合ニ於テハ法人ノ主タル事務所所在地ノ區裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ特別代理人ヲ選任スヘキモノナリ(第五七條非訟事件手續法第三五條第一項)

## 第二項　監事

理事ハ法人ノ代理人トシテ廣濶ナル權限ヲ有シ其目的ノ範圍內ニ於テ一切ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ルコト前述ノ如シ然ルニ本人タル法人ハ單ニ法律ノ假定ニ依リ存在スルモノニシテ自然人ノ如ク意思能力ヲ有スルモノニ非サルヲ以テ其代理人ノ行爲ヲ監督スルコト能ハス故ニ法人ノ爲メ其監督ヲ爲ス機關アルコトヲ要ス而シテ我民法ニ於テ此監督ヲ爲ス機關ヲ監事ト稱スヘシ法人

右ノ如ク監事ハ法人ノ監督機關ナリ然レトモ監事ハ理事ト異ナル總テノ法人ニ之ヲ置クコトヲ必要トセス法人ノ目的タル事業其他ノ狀況ニ依リ監事ヲ置クコトヲ必要トセサルトキハ固ヨリ之ヲ置カサルコトヲ得唯必要ナル場合ニ於テ定款、寄附行爲又ハ總會ノ決議ヲ以テ一人又ハ數人ノ監事ヲ設クルモ得ルモノナリ(第五八條)

理事ハ法人ノ事務執行ノ機關ナルニ反シ監事ハ法人ノ監督機關ナルコトハ前述セリ今監事ノ職務ヲ詳述スレハ左ノ如シ(第五九條)

(一)法人ノ財産ノ狀況ヲ監査スルコト

(二)理事ノ業務執行ヲ監査スルコト

(三)財産ノ狀況又ハ業務ノ執行ニ付キ不整ノ廉アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ總會又ハ主務官廳ニ報告スルコト

(四)右(三)ニ述ヘタル事項ヲ報告スル爲メニ必要ナル場合ハ總會ヲ招集スルコト

監事ノ職務右ノ如シ而シテ監事ハ財産ノ狀況又ハ理事ノ業務執行ニ付キ不整



ノ廉アリタルヲ發見シタルニ拘ハラス官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲スカ又ハ事實ヲ隱蔽セハ其制裁トシテ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處セラル(第八四條第四號)

## 第三項　總會

既ニ述ヘタル理事及ヒ監事ハ社團法人及ヒ財團法人ニ共通ノ機關ナリ予輩ハ本項ニ於テ社團法人ニ特有ナル總會ニ付テ説明セン

總會トハ如何ナルモノナルカニ付テハ法人ノ本質ニ關シ實在説ヲ採ルト擬制説ヲ採ルトニ依リテ其答案ヲ異ニセサルヘカラス若シ實在説ノ曰フカ如ク法人カ實在スルモノニシテ意思アルモノトセハ總會ハ法人ノ意思機關ナラン即チ總會ノ決議ハ法人ノ意思ニシテ總會ハ其法人ノ意思ヲ決スルノ機關ト謂フコトヲ得ン之ニ反シテ擬制説ノ曰フカ如ク法人ハ法律ノ假定ニシテ實在スルモノニ非ス隨テ意思能力ナキモノトセハ總會ナルモノハ法人ノ意思機關ト謂フコト能ハス

總會ハ社團法人ヲ組織スル社員ノ集合體ニシテ各社員ハ其會議ニ與ルノ權ヲ有ス而シテ此總會ニハ通常總會ト臨時總會トノ區別アリ通常總會トハ定期ニ開ク總會ニシテ臨時總會トハ臨時必要ノ爲メ之ヲ招集スル總會ヲ謂フ

總會ハ自ラ開會スルコト能ハス理事其他ノ者ノ招集ニ依リ始メテ開會スルコトヲ得通常總會ハ社團法人ノ理事カ少クトモ毎年一回定期ニ之ヲ開カサルヘカラス(第六〇條)之ニ反シテ臨時總會ハ社團法人ノ理事カ必要アリト認メタルトキハ何時ニテモ之ヲ招集スルコトヲ得又臨時總會ハ總社員ノ五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求シタルトキハ理事ハ之ヲ招集セサルヘカラス但此臨時總會ヲ請求スルコトヲ得ル社員ノ定數ハ定款ヲ以テ之ヲ增減スルコトヲ得(第六一條)其他臨時總會ハ社團法人ノ財產ノ狀況又ハ業務ノ執行ニ付キ不整ノ廉アルコトヲ發見シ其報告ヲ爲ス爲メニ必要ナルトキハ監事之ヲ招集スルコトヲ得(第五九條第四號)

總會招集ノ手續ハ民法ニ依リ定マル即チ其規定ニ依レハ總會ノ招集ハ少クトモ五日前ニ其會議ノ目的タル事項ヲ示シテ定款ニ定メタル方法ニ從ヒ之ヲ爲ササルヘカラス(第六二條)此ノ如ク民法カ招集ノ通知ヲ少クトモ五日前ニ爲ササルヘカラスト爲セシハ一ハ社員ヲシテ會議ノ目的タル事項ニ付キ熟考調査スル所アラシメ尙ホ一ハ社員ヲシテ總會ニ出席スル爲メニ時間ノ繰合等ヲ爲サシムルカ爲メナリ又民法ニ於テ總會ノ招集ハ定款ニ定メタル方法ニ從ヒ之ヲ爲スコトヲ要ストハ例ヘハ定款ノ規定ニ從ヒ或ハ各社員ニ對シ各別ニ郵便ヲ以テ招集ノ通知ヲ爲スカ又ハ一般ニ新聞ニ廣告シテ其通知ヲ爲スカ如キヲ謂フ

總會ノ權限ハ法人內部ノ關係ニ於テ法人ノ事務ヲ決議スルニ在リ嘗テ述ヘタルカ如ク理事ハ主トシテ外部ニ對シテ法人ノ事務ヲ執行スル機關ナリ之ニ反シテ總會ハ法人ノ事務ヲ決議スル機關ナリ即チ總會ハ法人ノ事務ヲ決議シ其決議ニ基キ理事ヲシテ之ヲ執行セシムルモ總會自ラ外部ニ對シテ法人ノ事務ヲ執行スルコトナシ總會ハ常ニ法人ノ內部ノ關係ニ於テ議決機關タルニ止マルモノナリ而シテ總會ハ民法ノ規定ニ依レハ定款ヲ以テ理事其他ノ役員ニ委任シタル事項ヲ除ク外法人ノ總テノ事務ニ付キ決議權ヲ有ス法人ノ事務ハ右

除外シタル外ハ總テ此總會ノ決議ニ依リ之ヲ執行スヘキモノナリ(第六三條)

總會ノ決議ノ目的タル事項ハ少クトモ五日前ニ通知セサルヘカラサルハ既ニ述ヘタリ而シテ總會ノ決議ハ其豫メ通知ヲ爲シタル事項ニ付テノミ之ヲ爲スヲ原則トス然レトモ時トシテハ其決議事項ノ難易輕重又ハ緩急等ニ依リ豫メ通知ヲ爲ササル事項ニ付テモ決議ヲ爲ス必要アルコトアリ故ニ民法ニ於テハ原則トシテ豫メ通知シタル事項ニ付テノミ決議ヲ爲スモノトセルモ例外トシテハ定款ニ於テ或場合ニ於テハ豫メ通知ヲ爲ササル事項ナルモ決議スルコトヲ得トノ別段ノ定アルトキハ其定款ノ規定ニ從フヘキモノナリ(第六四條)

前ニモ述ヘタル如ク總會ナルモノハ社員ノ集合體ニシテ各社員ハ其會議ニ與ル權利ヲ有ス然レトモ各社員ノ表決權ハ如何ナルモノナルヤ即チ各自同一ナルヤ理論上ヨリ之ヲ言ヘハ種種ナル標準ニ依リ各社員ノ表決權ヲ定ムルコトヲ得ヘシ例ヘハ多額ノ出資ヲ爲シタル社員ハ少額ノ出資ヲ爲シタル社員ヨリモ大ナル表決權ヲ有スルトスルカ如シ然レトモ我民法ニ於テハ各社員ノ表決權ハ平等ナルヲ原則トス(第六五條第一項)其理由ハ商事會社ノ如キ營利法人ニ於テハ出資額ノ多少ニ依リ社員ノ表決權ノ大小ヲ定ムルハ適當ナルヤモ知レナルモ民法ニ規定スル所ハ專ラ公益法人ニ關スル規定ニシテ其法人ハ社員ノ利益ノ爲メニ非スシテ公益ノ爲メ設立シタルモノニシテ出資額ノ多寡ニ依リテ社員ノ公義心ノ厚薄ヲ區別スルコト能ハサルヲ以テナラン然レトモ各社員ノ表決權平等ナリトハ原則タルニ止マル定款ニ於テ例外トシテ出資額其他ノ理由ニ依リ各社員ノ表決權ヲ定ムルコト能ハサルニ非ス(第六五條第三項)

各社員ハ總會ニ出席シテ其意見ヲ陳述シ以テ自己ノ表決權ヲ行使スルヲ通常トス然レトモ多數ノ社員中ニ於テハ或ハ疾病ノ爲メ或ハ公務其他ノ事故ノ爲メ總會ニ出席スルコト能ハサル者モアラン此場合ニ於テ總會ニ出席セサル社員ハ書面ヲ以テ表決スルカ又ハ代理人ヲ出席セシムルコトヲ得ルヤ否ヤ獨逸民法ノ如キハ社員カ代理人ニ依リテ其表決權ヲ行使スルヲ禁ス其理由ハ公益法人ノ場合ニ於テハ表決權ノ行使ハ公益ヲ目的トスルモノニシテ其性質上社員一身ニ專屬スルモノニシテ代理人ヲシテ之ヲ行使スルコトヲ得スト爲スカ爲メナラン然レトモ我民法ニ於テハ實際上ノ便宜ニ因リ總會ニ出席セサル社

員ハ書面ヲ以テ表決ヲ爲シ又ハ代理人ニ依リテ其表決權ヲ行使スルコトヲ得(第六五條第二項)然レトモ若シ定款ニ於テ例ヘハ社員ハ代理人ヲ出席セシムルコト能ハスト云フカ如キ別段ノ規定アレハ其規定ニ從ハサルヘカラス(第六五條第三項)

既ニ述ヘタルカ如ク社團法人ヲ組織スル社員ハ何人タリトモ總會ニ與ル權ヲ有ス然レトモ社團法人ト社員トノ或關係ニ於テ議決ヲ爲ス場合ハ其社員ハ表決權ヲ有セス例ヘハ總會ニ於テ法人カ或社員ニ對シテ訴訟ヲ提起スヘキヤ否ヤヲ議決スルトキハ其社員ハ其會議ニ與リ可否ノ意見ヲ述フルコト能ハサルカ如シ(第六六條)

## 第六款　法人ノ監督

法人ニハ理事監事及ヒ總會ノ三機關アリテ其中監事ハ法人ノ監督機關ナルハ既ニ述ヘタリ此ノ如ク監事ハ法人ノ監督機關ナルモ主トシテ理事ノ業務ノ執行ヲ監督スルニ止マルモノニシテ總會其他法人全體ノ監督機關ト謂フコト能ハス加之監事モ亦其監督ヲ十分ニ行ハス或ハ其監督ヲ爲スノ能力不十分ナルコトアリ或ハ又理事ト通謀シテ不正ノ所爲ヲ行フコトナシトセス故ニ他ニ法人ニ對シテ監督權ヲ行フ者アルコトヲ必要トス殊ニ公益法人ニ付テハ其必要大ナルモノナリ故ニ民法ニ於テハ法人ノ監督ニ關スル規定ヲ設ケタリ

法人ノ業務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス(第六七條第一項)主務官廳カ法人ヲ監督スルニハ種種ナル形式ヲ以テ之ヲ爲ス即チ主務官廳ハ定款變更ノ場合ニ於テ適當ト認ムレハ之ヲ認可スルモ不適當ト認メタルトキハ之ヲ認可セス(第三八條第二項)又主務官廳ハ何時タリトモ職權ヲ以テ法人ノ業務及ヒ財產ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得(第六七條第二項)而シテ理事カ其檢査ヲ妨クルカ又ハ不實ノ申立ヲ爲スカ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキハ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處セラル(第八四條第三號、第四號)其他主務官廳ハ法人カ其目的以外ノ事業ヲ爲スカ又ハ設立ノ許可ヲ得タル條件ニ反スルカ其他公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲セハ其許可ヲ取消スコトヲ得(第七一條、第六八條第一項第四號)

右ノ如ク法人ノ業務ハ主務官廳ノ監督ニ屬スルモノナルカ法人ニ且解散シタ

ル後ハ法人ノ解散及ヒ精算ハ其主タル事務所所在地ノ裁判所ノ監督ニ屬ス(第八二條第一項非訟事件手續法第三五條第二項)而シテ此場合ハ裁判所ハ何時ニテモ其監督ニ必要ナル檢査ヲ爲スコトヲ得(第八二條第二項)若シ法人ノ理事カ其檢査ヲ妨クルカ又ハ不實ノ申立若クハ事實ヲ隱蔽シタルトキハ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處セラル(第八四條第三號第四號)

## 第七款　法人ノ解散

### 第一項　解散ノ原因

法人ノ解散トハ法人ニ關スル法律關係全部消滅スルヲ謂フ然レトモ法人ハ解散ノ原因生シタルトキハ直チニ消滅スルヤ否ヤノ問題ニ付テハ後ニ精算ノ說明ノ場合ニ述ヘンニ先ツ法人ノ解散ト稱スル法人ハ法定ノ原因生スレハ之ニ因リテ解散ス而シテ民法上解散ノ原因ト稱スルモノ左ノ如シ

(一)　定款又ハ寄附行爲ヲ以テ定メタル解散事由ノ發生

定款又ハ寄附行爲ニ於テ解散ノ事由ヲ定ムルコトアリ例ヘハ存續期間ヲ定ムルカ或ハ法人ノ存續ヲシテ一定ノ條件ニ繫ラシムル場合ノ如キモノナリ此場合ニ於テハ法人ハ其期間ノ滿了又ハ條件ノ成就ニ因リテ解散ス(第六八條第一項第一號)

(二)　法人ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能　法人ハ總テ或事業ヲ爲スコトヲ目的トス故ニ其目的タル事業ノ成功スルカ又ハ其成功ノ不能ト爲リタルトキハ法人ハ之ニ因リテ既ニ其設立ノ目的ヲ達シタルカ又ハ之ヲ達スルコト不能ト爲リタルモノナルヲ以テ此場合ニ於テ法人解散スルニ至ルハ當然ノ事ナリ(第六八條第一項第二號)

(三)　破產　法人カ自己ノ財產ヲ以テ其債務ヲ完濟スルコト能ハサルニ至リタルトキハ裁判所ハ理事若クハ債權者ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破產ノ宣告ヲ爲スヲ而シテ此ノ如キ場合ニ於テハ理事ハ直チニ破產宣告ノ請求ヲ爲ス義務アリ(第七〇條)若シ其義務ヲ履行セサルトキハ理事ハ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處セラ

ル(第八四條第五號)而シテ右諸家ニ因ル場合トハ職權ニ因ル場合トヲ問ハズ且破產セル法人ハ之ニ因リテ解散ス(第六八條第一項第三號)

民法ニ於テ破產ト曰フハ商法ニ於ケル破產ト同一ニ非ス商法ニ所謂破產トハ商人ニノミ適用セラルヘキモノヲ謂フ(商法施行法第一三八條第一項舊商法第九七八條第一項之ニ反シテ民法ニ於テ破產ト稱スルハ民事ニ付テハ家資分散ヲ謂フモノニシテ家資分散法ノ規定ニ依ルヘキモノナリ(民法施行法第二條明治二十三年八月二十日法律第六十九號家資分散法)

(四) 設立許可ノ取消

法人カ其目的以外ノ事業ヲ爲スカ又ハ設立ノ許可ヲ得タル條件ニ違反スルカ其他公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務官廳ハ其許可ヲ取消スコトヲ得ルモノニシテ法人ハ之ニ因リ解散ス(第七一條,第六八條第一項第四號)

(五) 總會ノ決議

社團法人ハ總會ノ決議ニ因リ解散スルコトヲ得而シテ其總會ノ決議ニ付テハ總社員ノ同意ヲ要ストノ學說アルモ我民法ニ於テハ向ホ定款變更ノ場合ノ如



モノトセルカ如シ獨逸ノ普通法時代ニ於テハ此原則ニ對シテ漸タ一ノ制限ヲ生シ即チ解散シタル法人ノ財產ニシテ國庫ニ歸屬スルニハ定款又ハ寄附行爲ヲ以テ財產ノ歸屬者ヲ定メサルトキ又ハ社團法人ニ在リテハ解散前總會ノ決議ニ依リ其歸屬者ヲ指定セサルトキニ限ルモノトセリ而シテ近世ノ立法ニ於テハ解散シタル法人ノ財產カ國庫ニ歸屬スルノ原則ニ對シテ尙ホ一層ノ制限ヲ加フルノ傾向ヲ生シタリ即チ法人ノ財產カ國庫ニ歸屬スルニハ定款寄附行爲又ハ總會ノ決議ニ依リテ歸屬者ヲ定メサリシノミナラス營利ヲ目的トセサル法人ニ關セサル場合ニ限ルモノトセリ即チ營利ヲ目的トセル法人ニ在リテハ縱令定款又ハ總會ノ決議ヲ以テ解屬者ヲ定メサル場合ニ於テモ法人解散セハ其財產ハ國庫ニ歸屬セスシテ社員ニ歸屬スルモノトセリ是レ即チ近世立法ノ傾向ナリ

我國ニ於テハ舊民法ニ法人ニ關シ一般ノ規定ナカリシモ財產取得編第三百十五條ニ「相續人アラサル財產ハ當然國ニ屬ス」ト規定セルハ前ニ述ヘタル昔シ立法例ニ倣ヒタルモノヽ如シ而シテ新民法ノ規定ヲ見ルニ解散シタル法人ノ財

產ノ處分ニ關スル規定ハ前ニ述ヘタル近世立法例ト符合スルカ如シ即チ新民法ニ依レハ第一ニ法人ノ財產ハ定款又ハ寄附行爲ヲ以テ指定シタル人ニ歸屬ス(第七二條第一項)第二ニ若シ定款又ハ寄附行爲ヲ以テ指定セス又ハ之ヲ指定スル方法ヲ定メサリシトキハ理事ハ主務官廳ノ許可及ヒ社團法人ニ在リテハ總會ノ決議ヲ經テ其法人ノ目的ニ類似セル目的ノ爲メニ其財產ヲ處分スルコトヲ得ルカ故ニ解散シタル法人ノ財產ハ其處分行爲ノ結果權利者ト定マリタル人ニ歸屬ス(第七二條第二項)第三ニ若シ定款又ハ寄附行爲ヲ以テ歸屬權利者ヲ指定セス又ハ理事カ法人ノ財產ヲ處分シテ其權利者ヲ定メサルトキハ法人ノ財產ハ國庫ニ歸屬ス(第七二條第三項)是レ即チ新民法ニ於ケル法人ノ殘餘財產ニ關スル規定ナリ而シテ其他營利ヲ目的トスル社團法人カ解散シタル場合ニ於テ其財產ハ何人ニ歸屬スルヤハ民法ニ規定セサルモ商法ノ規定ニ依リ社員ニ歸屬スルモノナリ故ニ我新民法ノ規定ハ前ニ述ヘタル近世ノ立法例ト略ホ同一ナリト謂フコトヲ得ルナリ

以上述ヘタル法人ノ殘餘財產ノ處分ニ關スル規定ヲ法理上ヨリ觀察スルニ先ク實際ノ便宜ニ基キ總社員ノ四分ノ三以上ノ承諾アレハ解散ノ決議ヲ爲スコトヲ得但定款ニ於テ總社員ノ承諾若クハ社員半數ノ承諾アルトキハ解散ノ決議ヲ爲スコトヲ得ルト云フカ如キ別段ノ規定アレハ其規定ニ從フ(第六八條第二項第六九條)

(六)　社員ノ缺乏

社員ノ缺乏カ法人解散ノ原因ナルヤ否ヤニ付キ二ノ學說アリ一ハ社員ノ缺乏ヲ以テ法人ノ解散原因トセルニ拘ハラス他ノ一ハ之ヲ以テ解散原因トセス即チ此後說ヲ採ル學者ハ曰ク縱令社員缺乏スルモ其缺乏カ一時的ノモノナルトキハ法人解散セス永久ニ社員缺乏シタル場合ニ始メテ法人解散ストセリ我民法ハ前說ヲ採用シ社員ノ缺乏ヲ以テ法人ノ解散原因トセリ(第六八條第二項第二號)而シテ社員ノ缺乏トハ社員全體ノ缺乏ヲ謂フモノニシテ一名タリトモ殘存セハ固ヨリ社員ノ缺乏ト謂フコト能ハス此點ハ商法ニ於テ合名會社ノ場合ニ於テハ社員一名ト爲リタルトキ又ハ株式會社ノ場合ニ於テ株主七人未滿ニ減シタルトキニ法人解散ストセルトニ異ナル所ナリ(商法第七四條第二二二條)

社團法人カ社員ノ缺乏ニ因リテ解散スルカ如ク財團法人カ財產ノ缺乏ニ因リ解散スルモノナルヤ否ヤ理論上ニ於ル問題ナリ然レトモ我民法ノ解釋トシテハ財產ノ缺乏自身ハ直接ニ解散ノ原因ト爲ラス唯其財產ノ缺乏ニ因リ法人ノ目的タル事業ノ成功ノ不能ト爲リタルトキニ間接ニ解散ノ原因ト爲ルヿトアルニ過キス(第六八條第一項第二號)

右ニ揭ケタル原因生スレハ法人ハ解散ス然レトモ其原因中(一)乃至(四)ハ社團法人及ヒ財團法人ニ共通ナルモ(五)及ヒ(六)ハ單ニ社團法人ニノミ特有ナルモノナリ

## 第二項　殘餘財產ノ處分

法人ハ自然人ノ如ク相續人ヲ有セス又遺言ヲ爲スノ能力ヲ有セス故ニ解散シタル法人ノ財產ハ如何ニスヘキヤヲ決セサルヘカラス

散解シタル法人財產ノ處分ニ關スル立法例ヲ考フルニ昔時ス立法ニ於テハ通常ハ解散シタル法人ノ財產ヲ以テ相續人ナキ財產ト爲シ當然國庫ニ歸屬セルラサル場合トヲ問ハス總テ當事者ノ意思ニ基ク權利ニ非スシテ直接ニ法律ノ規定ニ依リテ發生スル權利ト信ス

解散シタル法人ノ財產カ歸屬權利者ノ所有ニ歸スル時期如何是レ亦一ノ問題ナリ若シ財產ノ全部カ其權利タルト義務タルトヲ問ハス歸屬權利者ニ移轉スルモノトセハ法人ノ財產カ解散ト同時ニ其權利者ノ有ニ歸スヘキハ當然ナリ故ニ前述セル昔ノ立法例ノ如ク解散シタル法人ノ財產ヲ以テ恰モ相續人ナキ財產ト同一視スル立法例ニ於テハ法人ノ財產ハ其解散ト同時ニ歸屬權利者ニ移轉スヘキモノナリ然レトモ是レ明カニ我民法ノ規定ト抵觸スルモノト信ス我民法ニ於テハ法人ノ財產全部ノ歸屬者ヲ規定セスシテ單ニ其殘餘財產ノ歸屬者ヲ定ヌタルモノト信ス此點ハ昔ノ立法例ト大ニ異ナル所ナリ故ニ我民法上法人解散スルモ未タ殘餘財產生セサルヲ以テ其解散ト同時ニ歸屬者ニ移轉スルカ如キ理由ナシ我民法ニ依レハ法人ノ財產カ歸屬者ニ移轉スルハ少クトモ所謂殘餘財產確定シタル後ナラサルヘカラス法人ノ殘餘財產トハ後ニモ述フルカ如ク清算ノ結果法人ノ債務ヲ完濟シタル後尙ホ殘留シタル財產ヲ謂フ

モノナリ故ニ我民法ノ問題トシテハ法人ノ殘餘財產カ歸屬者ニ移轉スルトキ其殘餘財產ノ特定シタル時ナルカ或ハ之ヲ歸屬者ニ引渡シタル時ナルカノ點ニ存スヘシ而シテ民法第八十條ヲ見ルニ催告期間ノ後ニ債權ヲ申出タタルトキハ法人ノ債務完濟ノ後未タ歸屬權利者ニ引渡ササル財產ニ對シテノミ請求ヲ爲スコトヲ得ト規定セリ此規定ニ依レハ若シ法人ノ財產カ法人ノ債務完濟後直チニ歸屬者ニ移轉スルモノトセハ期間後ニ申出テタル債權者ハ債務者ニ非サル第三者ノ財產ニ對シテ其權利ヲ行使スルモノト謂ハサルヘカラス然レトモ是レ法理ノ許ササル所ナルヲ以テ予ハ民法第八十條ノ規定ヨリ推測シテ法人ノ殘餘財產カ歸屬者ニ移轉スルハ引渡ノ時ニ在リト信スルナリ

## 第三項　清算

第一　解散後ノ法人ノ性質

法人ノ解散トハ法人ニ關スル法律關係カ全部消滅スルヲ謂フ而シテ法人ハ法定ノ原因生シタルトキハ之ニ因リテ解散スルモノトスルコトハ前ニ述ヘタリ然



ツ解散シタル法人ノ財產カ相續人ナキ財產トシテ當然國庫ニ歸屬スルハ理論上不當ナリト信ス相續人ナキ財產トハ遺言ヲ爲シ相續人ヲ定ムル能力ヲ有スル人ノ財產ニシテ而シテ相續人ナキ場合ヲ謂フモノナリ初ヨリ相續人ヲ定ムル能力ナキ者ノ財產ニシテ相續人ナキ財產若クハ遺產ナルモノアラサルナリ然ルニ法人ハ屢〻述ヘタルカ如ク或法律關係ノ爲メニ法律ノ假定ニ依リテ設ケラレタルモノニシテ自然人ノ如ク相續人ヲ定ムル能力ヲモ付與セラレタルモノニ非ス故ニ解散シタル法人ノ財產ヲ相續人ナキ財產トシテ其財產ヲ當然國庫ニ歸屬スルモノトスルハ法理上誤解ナリト信ス又法人ノ財產カ定款又ハ寄附行爲ニ依リテ定マリタル人ニ歸屬スルモ亦法理上當然ノ結果ニ非ス或ハ曰ク法人ノ設立者カ定款又ハ寄附行爲ヲ以テ歸屬權利者ヲ定メタルトキハ法人ノ財產ハ其者ニ歸屬スルハ當然ナリ是レ他ナシ法人ノ設立者カ其設立行爲ヲ以テ或公益事業ノ存續スル期間ハ自己ノ財產ヲ其目的ニ供シ其事業ヲ廢止シタル後ハ之ヲ他ノ人ニ與フルノ意思ヲ表示セハ法律カ之ニ效力ヲ與フルモ公益上妨ナキノミナラス又此ノ如キ公義心ヲ有スル人ノ意思ヲ保護スルハ公益

事業ノ發達ヲ奬勵スルヲ途タレハナリト然レトモ法人ノ設立者ハ自己ノ財産ヲ條件附ニ法人ノ財産ト爲セルモノニ非ス故ニ法人ノ設立者ト雖モ法人ノ財産ニ關シテハ他人ノ地位ニ在ルモノナリ隨テ縱令法人ノ財産カ嘗テ法人設立者ノ財産ナルモ一旦法人ノ財産ト爲リタル以上ハ法人ノ設立者ト雖モ有效ニ之ヲ處分スルコトヲ得ルモノニ非ス又社團法人ニ於テ定款又ハ總會ノ決議ニ依リ歸屬權利者ヲ定ムルハ法人自ラ其財産ヲ處分スルモノナリト曰フ者アルモ前ニモ述ヘタルカ如ク法人ニ對スル法律ノ假定ハ此ノ如キ範圍ニマテ及フモノニ非ス法人ハ遺言ヲ爲スノ能力ナキヲ以テ其殘餘財産ヲ處分スルノ能力ナキモノト謂ハサルヘカラス又新民法ニ於テ理事カ主務官廳ノ許可及ヒ總會ノ決議ヲ經テ法人ノ財産ヲ處分スルカ如キハ是レ亦法理上當然ノ結果ニ非ス之ヲ要スルニ我民法上法人ノ殘餘財産ニ關スル規定ハ法理上當然ノ原則ヲ謂フモノニ非スシテ立法上ノ便從ヲ圖リテ設ケタルモノト信ス（歸屬權利者ノ權利ノ性質ニ付テハ學者間種種ナル學說アルカ如キモ予ハ一種ノ債權ナリト信ス而シテ其權利ハ定款又ハ寄附行爲ヲ以テ定メタル場合ニ然



ラハ法人ハ其解散原因生シタルトキハ直チニ消滅スルヤ否ヤニ付キ數說アリ法人ノ解散原因生セハ直チニ消滅シテ主格ナキ權利義務生スト說ク者アリ或ハ解散原因ノ發生ト同時ニ法人消滅シ法人ノ財産ノ歸屬者カ一種ノ組合體ヲ組織スト說ク者アリ或ハ又法人ノ解散原因生スルト同時ニ從來ノ法人消滅シ新ニ清算法人ナルモノ成立スト說ク者アリ然レトモ此等ノ見解ハ議論トシテハ兎ニ角就レモ我民法ノ採ル所ノ主義ニ非ス我民法ハ法人ノ解散原因發生スルモ之ニ依リテ法人ハ直チニ消滅スルモノトセス清算ノ目的ノ範圍內ニ於テ尙ホ存續スルモノトセリ（第七三條）

法人ハ法令ノ規定ニ從ヒテ定款又ハ寄附行爲ニ依リ定マリタル目的ノ範圍內ニ於テ存在スルモノナルコトハ嘗テ述ヘタルカ如シ故ニ通常其目的ヲ異ニセハ法人モ亦異ナラサルヘカラス然ルニ解散原因發生前ノ法人ト其以後ノ法人トハ目的ヲ異ニスルコト明カニシテ解散原因發生以後ノ法人ハ單ニ清算ヲ以テ目的トス故ニ前ニ掲ケタル數說中法人ハ解散原因發生ト同時ニ消滅シ清算法人ナル新ナル法人成立スト說ハ一應理由ナキニ非ス純粹ナル理論上ヨリ

セハ頗ル妥當ナル見解ト謂フヘシ然レトモ我民法ノ解釋トシテハ此ノ如キ見解ヲ採用スルコト能ハス第七十三條ニ依レハ解散シタル法人ハ既ニ其目的ヲ變更シテ單ニ清算ノミヲ目的トセルコトハ明カナルモ解散前ト異ナル法人ニ非スシテ解散前ノ法人依然トシテ存續スルコト疑ナシ（法人ハ其以後ハ法人解散シタル法人ハ單ニ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テ存續スルコト右ニ述ヘタルカ如シ然ラハ其清算トハ如何ナルモノナルカ元來法人解散シタル場合ニ其財産ヲ處理スルノ方法二アリ一ハ清算手續ニシテ他ノ一ハ破産手續ナリ故ニ清算ト言ヘハ通常破産ヲ包含セス民法ニ於テモ多數ノ場合ニ於テハ清算ナル文字ハ破産ト區別シタルコト明カナリ而シテ第七十三條ニ解散シタル法人ハ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テ存續スト云フハ等シク破産ヲ除外スルノ精神ナルカ若シ果シテ然ラハ民法上解散シタル法人カ破産ノ範圍内ニ於テ存續ストノ規定更ニナシ然レトモ等シク法人ノ解散原因ニシテ破産ノ場合ト他ノ場合トヲ區別シテ一ノ場合ニ於テハ法人ヲ存續セシメ他ノ場合ニ於テハ全然之ヲ消滅セシムルノ理ナシ法典編纂者ハ或ハ民法ニ於テハ清算ニ關スル事項ノミヲ規



定シ破産ノ場合ニ於テハ解散シタル法人カ存續スルヤ否ヤノ問題ニ付キ破産法若クハ家資分散法ニ規定スルノ考ナリシヤモ知レス（破産法案第五條參照）然レトモ將來ハイサ知ラス現今ニ於テハ家資分散法ハ固ヨリ破産法ニ於テモ此ノ如キ明文ナキヲ以テ破産シタル法人尚ホ存續スヘキヤ否ヤノ問題ハ民法第七十三條ニ依リ決セサルヘカラス予ハ民法中清算ナル文字ハ多數ノ場合ニ於テハ破産ト區別シテ使用セルモ第七十三條ニ所謂清算トハ其意味多數ノ場合ヨリ一層廣ク狹義ノ清算及ヒ破産ヲ包含スルノ意味ナリト信ス故ニ破産後ノ法人ト雖モ尚ホ清算中ノ法人ノ如ク破産ノ目的ノ範圍内ニ於テハ尚ホ存在スルモノト信スルナリ

第二　清算ノ開始

前ニモ述ヘタルカ如ク解散シタル法人ノ財産ヲ以テ恰モ相續人ナキ財産ノ如ク看做シ其財産ハ權利タルト義務タルトヲ問ハス全部國庫ニ歸屬スルトノ昔時ノ立法例ニ於テハ特ニ清算手續ヲ開始スルノ必要ナカルヘシ獨逸民法ニ於テハ法人ノ財産カ國庫ニ歸屬スル場合ニハ清算手續ヲ開始セス我民法ニ於テ

ハ法人ノ財產カ國庫ニ歸屬スル場合タルト然ラサル場合タルトヲ問ハス常ニ清算手續ヲ開始スルモノナリ但我民法ニ於テモ破產ニ依リテ解散シタルトキハ清算手續ニ依ラス破產手續ニ依リ法人ノ財產ヲ處理ス(第七四條)

第三　清算人ノ選任

法人解散セハ特ニ選任スルヲ待タス理事其清算人ト爲ルヲ原則トス然レトモ定款又ハ寄附行爲ニ於テ理事以外ノ者ヲ清算人ト爲ススカ如キ別段ノ定アルトキ又ハ社團法人ニ在リテハ總會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ之ニ從フヘキナリ(第七四條)而シテ法人カ破產ニ因リテ解散セハ清算手續ヲ開始セス隨テ清算人ヲ選任セサルハ勿論ナリ此破產ノ場合ニ於テハ清算人ト類似ノ職ニ在リテ破產手續ヲ實行スル者ハ所謂破產管財人ナリ(舊商法第九八〇條第一項第二號)

右ノ如ク定款又ハ寄附行爲ニ清算人タルヘキ者ヲ指定セス總會ニ於テモ之ヲ選任セス且法人ノ理事欠缺シテ清算人タル者ナクシテ之カ爲メ損害ヲ生スル虞アルトキハ法人ノ主タル事務所所在地ノ區裁判所ハ利害關係人若クハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ選任スルコトヲ得(第七五條、非訟事件手續法第三七條第一三六條)

右ノ如クシテ清算人アルモ其清算人或ハ職務ヲ瀆廢シ或ハ職務ノ執行ニ付キ不正或ハ不當ノ行爲アルト云フカ如キ重要ナル事由アレハ法人ノ主タル事務所所在地ノ區裁判所ハ利害關係人若クハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ解任スルコトヲ得(第七六條、非訟事件手續法第三七條第一三六條)

第四　清算人ノ職務

(イ)　清算人ハ利害關係人ヲシテ法人ノ財產ノ狀況ヲ知ラシムルカ爲メニ解散後一週間內ニ其氏名、住所及ヒ解散ノ原因、年月日ノ登記ヲ爲シ且之ヲ主務官廳ニ屆出ツルコトヲ要ス又清算中ニ就職セル清算人ハ就職後一週間內ニ其氏名住所ヲ登記シテ且之ヲ主務官廳ニ屆出ツヘキモノナリ(第七七

條若シ此登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ清算人ハ過料ノ制裁アリ(第八四條第二號)

(セ)清算中ノ職務

其一　現務ノ結了　法人ノ解散前ニ著手セル事務ハ清算人總テ之ヲ終了スルコトヲ要ス

其二　債權ノ取立及ヒ債務ノ辨濟　法人ノ債權取立及ヒ其債務ヲ辨濟スルコトハ清算人ノ職務中最モ重要ナル部分ナリ清算人ハ各債權者ヲシテ債務ノ辨濟ヲ得セシムル爲メ其就職ノ日ヨリ二箇月內ニ少クトモ三回ノ公告ヲ以テ債權者ニ對シ二箇月ヲ下ラサル一定ノ期間內ニ其請求ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス此公告ニハ債權者カ期間內ニ申出ヲ爲ササルトキハ其債權ハ清算ヨリ除斥セラルルコトヲ附記スルコトヲ要ス(第七九條第一項第二項)尙ホ住所ノ知レタル債權者ニ對シテハ各別ニ催告スルコトヲ要ス(第七九條第三項)而シテ清算人ハ右公告ヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲セハ過料ノ制裁アリ(第八六條第六號)

右ノ如ク清算人カ債權者ニ對シテ債權ノ申出催告ヲ爲シ其催告期間ヲ經過シタルトキハ其申出債權者ニ對シテ債務ヲ辨濟スヘキモノナリ但其催告期間前ト雖モ商法株式會社ノ場合ト異リ辨濟ヲ爲スコトヲ得(商法第二六二條民法第八〇條)又期間內ニ申出ヲ爲ササル債權者ハ清算ヨリ除斥セラルルモ知レタル債權者ハ縱令申出ヲ爲ササルモ之ヲ除斥スルコトヲ得ス(第七九條第二項)尙ホ期間後ニ申出ヲ爲シタル債權者ト雖モ絕對ニ清算ヨリ除斥セラルルモノニ非ス法人ノ債務完濟後未タ歸屬權利者ニ引渡ササル財產アルトキハ之ニ對シテ請求ヲ爲スコトヲ得(第八〇條)

其三　殘餘財產ノ引渡　清算人ハ法人ノ債權ヲ取立テ且債務ヲ完濟シテ尙ホ殘產財產アレハ之ヲ歸屬權利者ニ引渡スヘキモノナリ而シテ何人カ歸屬權利者ナルヤハ既ニ述ヘタル所ナリ

第五　清算人ノ權限　清算人ハ理事ト同シク法人ノ法定代理人ナリ而シテ清算人ノ權限ハ極メテ廣シ即チ清算人カ清算中ノ職務トシテ法人ノ現務ノ結了、債權ノ取立、債務ノ辨濟

及ヒ殘餘財產ノ引渡ヲ爲スヲ爲メニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲スノ權限ヲ有ス(第七八條第二項)故ニ清算人カ右ノ職務ヲ執行トシテ必要ナル場合ニ於テハ例ヘハ法人ノ動產不動產ヲ賣却シ又ハ訴訟行爲ヲ爲シ又ハ他人ト取引ヲ爲スコトヲ得

第六　清算ノ終了

清算手續ヲ了ルニ二アリ一ハ清算カ中途ニシテ其手續ヲ了ル場合ニシテ他ノ一ハ清算手續全部結了スル場合ナリ

清算人ハ清算中ニ法人ノ財產カ其債務ヲ完濟スルニ不足ナルコト明カナルトキハ直チニ破產宣告ノ請求ヲ爲シ其旨ヲ公告セサルヘカラス(第八一條第一項)

清算人カ其破產宣告ノ請求若クハ公告ヲ爲スコトヲ怠ルカ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキハ過料ノ制裁アリ(第八四條第五號第六號)而シテ清算人カ破產宣告ノ請求ヲ爲シ其結果破產裁判所ニ於テ破產ノ宣告ヲ爲セハ清算人ハ破產管財人ニ其事務ヲ引渡シ以テ其任務ヲ了ルモノナリ(第八一條第二項)此場合ニ於テ既ニ債權者ニ支拂ヒ又ハ歸屬權利者ニ引渡シタル物アルトキハ破產管財人ハ之ヲ取戻スコトヲ得(第八一條第三項)

右ニ述ヘタル所ハ清算手續カ中途ニシテ止ミタルモノニシテ清算手續ノ常態ニ非ス變則ナリ常態ヨリ言ヘハ清算ハ清算人カ法人ノ現務ヲ結了シ債權ヲ取立テ債務ヲ辨濟シ且殘餘財產ヲ歸屬權利者ニ引渡スニ依リテ始メテ結了ス而シテ清算カ此ノ如クニシテ結了セハ清算人ハ之ヲ主務官廳ニ屆出テサルヘカラス(第八三條)尙ホ法人ノ監督ハ解散前ニ於テハ主務官廳ニ屬スルニ拘ハラス其解散及ヒ清算ニ付テハ法人ノ主タル事務所所在地ノ區裁判所ノ監督ニ屬スルコトハ嘗テ法人ノ監督ヲ說明スル場合ニ述ヘタリ(第八二條)

## 第三章　私權ノ客體

### 第一節　總論

私權ノ客體又ハ私權ノ目的(Rechtsobjekt)ナル語ハ學者ニ依リ種種ノ意味ニ使用ス或ハ私權ヲ對抗セラルルモノヲ以テ私權ノ客體ト曰フ者アリ(das Ding, worauf eines vermöge des Rechts der Herrschaft oder Berechtigten unterworfen ist)此意味ニ於テ私權

ノ客體トハ常ニ人ナリ何トナレハ私權トハ總テ人ト人トノ關係ニシテ常ニ人ニ對シテ對抗セラルルモノナレハナリ又或ハ人カ其上ニ私權ヲ實行セントス欲スルモノヲ以テ私權ノ客體ト曰フ者アリ(das Ding, worauf das Recht gerichtet ist)而シテ予ハ此章ニ於テ私權ノ客體トハ專ラ此意義ヲ以テ說明ス

私權ノ客體タルモノ種種アリ而シテ其重ナルモノハ人、物、行爲ノ三ナリ即チ親族權ノ客體ハ多クハ人ナリ例ヘハ親權ノ客體ハ子ニシテ夫權ノ客體ハ妻タルカ如シ又物權ノ客體ハ物ナルコト多數ナリ債權ノ客體ハ行爲ナリ例ヘハ建物ニ對スル所有權ノ客體ハ其建物ニシテ賃主カ賃主ニ對シテ有スル債權ノ客體ハ金錢支拂ノ行爲ナリ然レトモ我民法上私權ノ客體ハ常ニ人、物若クハ行爲ノ三ニ限ルモノニ非ス其他ノモノト雖モ私權ノ客體タルモノナキニ非ス例ヘハ或場合ニ於テ權利自身カ更ニ他ノ權利ノ客體ト爲ルコトアリ(第三六二條、第三六三條、第三六九條、第二〇五條)然レトモ私權ノ客體トシテ最モ廣ク適用ヲ見ルモノハ物ナリ何トナレハ前ニ述ヘタルカ如ク物ハ物權ノ客體タルノミナラス元來債權ノ客體ハ行爲ナルモ其行爲ハ物ノ給付ヲ目的トスルコト多數ナルヲ以テ多クノ場合ニ於テハ間接ニ又債權ノ客體ナレハナリ故ニ各種ノ權利ニ共通ナル規定ヲ研究スルニ總則ノ講義ニ於テハ專ラ其物ニ就キ說明セントス

## 第二節　物

### 第一款　物ノ觀念

物トハ何ヲ謂フカ各國ノ法律上必スシモ同一ノ意義ヲ有セス或ハ物トハ權利ノ客體又ハ權利ノ目的ナル意義ニ用ヒタル立法例アリ例ヘハ普魯西民法ノ如シ故ニ普魯西民法ノ意義ニ於テ物トハ有體物ノミナラス權利及ヒ行爲ヲ共ニ包含ス或ハ又物トハ有體物及ヒ權利ヲ併稱スルモノアリ例ヘハ我舊民法ノ如シ(財產編第六條)然レトモ我新民法ニ於テ物トハ此ノ如ク廣義ノ物ニ非スシテ單ニ有體物ノミヲ謂スナリ(第八五條)

有體物トハ何ヲ謂フカ法文上明カニ定義ヲ下シタルモノナシ然レトモ民法ニ於テ有體物トハ宇宙間ニ於テ存在シ一定ノ空間ヲ占ムル物體ヲ謂フモノト信ス故ニ物ノ中ニハ所謂固形物ノミナラス流動物又ハ瓦斯體ノモノアリ

電氣、光、熱等ハ物ナルヤ否ヤハ一ノ問題ナリ殊ニ電氣ニ關シテ屢實際問題ヲ生ス例ヘハ或者カ竊ニ電線ヲ架設シ他人ノ使用セル電流ノ幾部ヲ奪ヒ不正ニ自己ノ用ニ供シタルトキハ之ヲ以テ電氣ヲ竊取シタルモノト謂ヒ得ルヤ否ヤ實際家ハ電氣ヲ以テ一ノ瓦斯體ノ物體トシテ此場合ニ竊盜罪成立スト解スルカ如キ傾アリ獨逸ノ大審院ニ於テハ嘗テ電氣カ物ナルヤ否ヤノ問題ヲ生シ此場合ニ之ヲ有體物ト解シタル實例アリ彼ノ刑法學ノ大家「リスト」私法學ノ大家「デルンブルグ」氏ノ如キモ亦電氣ヲ以テ一箇ノ物トセルカ如シ然レトモ此說ハ實際ノ便宜ハ兎モ角理論上ヨリ言ヘハ頗ル批難ヲ免レサルカ如シ今日ノ物理學者ノ說ニ依レハ電氣ハ物ニ非スシテ一ノ力ナリ所謂「エネルギー」(Energie)ナリ決シテ水素、瓦斯ト云ヘルカ如ク瓦斯體ニ非ス故ニ電氣ヲ以テ物ト爲スハ正當ト謂フコト能ハス「エンデマン」「ガライス」「レーグルスベルグル」等ノ如キハ電氣ヲ以テ有體物ノ一種トセス獨逸ノ大審院ニ於テモ近來電氣ハ物ニ非ストノ新判例ヲ生シタリ我國ニ於テモ本年五月二十一日ニ我大審院ニ於テ電氣ハ竊盜罪ノ目的タルコトヲ得ル旨ノ判決アリタルモ電氣ヲ以テ有體物トセルニ非ス單ニ刑法第三百六十六條ノ所謂物ナルモノノ中ニハ電氣モ包含スルモノト爲スニ止マルカ如シ(大審院明治三十六年(レ)第七百三十八號被告事件判決)

羅馬法ニ於テハ所謂藥合物(Universitas serum)ナルモノアリ我舊民法財產編第十六條第三號ニ於テモ之ヲ規定セリ此藥合物トハ例ヘハ群畜書庫ノ書籍店舗ノ商品ノ如キ增減シ得ヘキ多少類似ノモノヲ謂ス學者中議論アルモ羅馬ニ於テハ此ノ如キ藥合物ハ一ノ物トシテ權利ノ目的ト爲ルコトヲ得タルカ如シ例ヘハ羅馬ニ於テ或群畜又ハ書庫ノ書籍ニ對シテ質權ヲ設定セハ其質權ノ數ハ唯一ニシテ畜類又ハ書籍ノ數ニ應シテ質權ヲ生スルモノニ非ス其群畜又ハ書庫ノ書籍ヲ法律上一ノ物トシテ質權ノ目的トセリ縱令群畜又ハ書籍ノ一部ニ變更アルモ質權ノ目的物ニ變更アリトセス即チ群畜中ノ數頭ノ畜類又ハ書庫ノ書籍數冊ヲ持去リタルトキハ其物ハ質權ノ目的物タルコトヲ免レ其代リニ携ヘ來リタル數頭ノ畜類又ハ數冊ノ書籍ハ質權ノ目的物ト爲リタリ故ニ所謂藥合物トハ思想上一ノ單一ナル權利ノ目的ト看ルニ止マルモノニシテ固ヨリ有體物ニ非ス隨テ其藥合物タルモノハ我民法ニ所謂物ナルモノニ非ス我新民法

ニ於テハ所謂聚合物ヲ認メス故ニ羅馬ニ於ケルカ如ク一箇ノ群畜又ハ書庫ノ書籍ヲ以テ質權ノ目的ト爲スコト能ハス其群畜中ノ各畜類、書庫中ノ各書籍カ質權ノ目的タルコトヲ得ルノミナラス故ニ例ヘハ或書庫ノ書籍ヲ質權ノ目的物ト爲セハ我民法上一ノ質權發生スルニ非スシテ其書籍ノ數ニ應シテ質權ヲ發生スルヲ以テ目的物ニ關スル[illegible]

右ノ如ク我民法ニ於テハ物トハ常ニ有體物ヲ謂フモノニシテ數箇ノ有體物ヲ聚メテ之ヲ一箇ノ單一ナル物ノ如ク聚合物ヲ認メス然レトモ茲ニ注意ヲ要スルハ一樽ノ酒、一俵ノ米ト云フカ如キハ所謂聚合物ニ非ス或意味ニ於テハ一俵ノ米トハ無數ノ米粒ヨリ成立セル聚合物ナルカ如キモ其一粒ノ米ト云フカ如キモノハ經濟上何等ノ價値ナキモノナルヲ以テ今日ノ取引上ノ觀念ニ於テ一俵ノ米ト云フトキハ無數ノ米粒ノ聚合物トハ看做サスシテ之ヲ一ノ有體物ト看做セルナリ隨テ一樽ノ酒、一俵ノ米ト云フカ如キハ一ノ有體物ニシテ我新民法ノ所謂物ナリ

此ノ如ク我民法上物トハ有體物ヲ謂フモノニシテ或國ノ立法例ノ如ク廣ク權利ノ目的ヲ總稱スルモノニ非ナルコト前ニ述ヘタリ有體物ハ勿論私權ノ目的ノ一種ナルモ其他ニ權利又ハ行爲ナルモノモ權利ノ目的ト爲ルコトヲ得此點ヨリ觀レハ權利ノ目的ナル語ハ有體物ヨリモ廣キモノナリ然レトモ有體物ハ總テ權利ノ目的ト爲ルモノニ非ス有體物ニシテ權利ノ目的ト爲ラサルモノアリ即チ或ハ法律ノ明文ニ依リ私權ノ目的タルコト能ハサルモノアリ道路、水路、城砦、官衙ノ如シ或ハ物自身ノ性質權利ノ目的タルコト能ハサルモノアリ光線、空氣、流水、太洋ノ如キモノナリ

人體ハ宇宙間ニ於テ一定ノ空間ヲ占ムルモノナルモ法律上物ニ非スシテ人其モノナリ身體ヲ離レテ人ナシ隨テ身體ハ法律上人ヲ構成スル一部分ナリ然レトモ之カ爲メニ人ノ身體ハ絶對ニ私權ノ客體タルコト能ハスト謂フコト能ハス前ニ總論ニ於テ述ヘタルカ如ク親族權ノ場合ニ於テハ其權利ノ客體タルモノハ人ナリ然レトモ人ノ身體ハ物ト異ナリ財產權ノ客體ト爲ルコト能ハス是レ多クノ學者ノ認ムル所ナリ例ヘハ頭髮、齒、手、足ノ如キモノヲ賣買贈與スルノ契約ハ無效ナリ此ノ如ク人ノ身體ノ一部タルモノハ曾ニ天然ノ物ノミナラス

義足ノ如キモノモ仍ホ身體ノ一部トシテ財産權ノ目的ト爲スコト能ハストスル學者多シ然レトモ凡ソ身體ノ一部ト雖モ一旦分離セハ頭髮手足等皆物ナルヲ以テ何レモ財産權ノ目的タルコトヲ得ルハ勿論ナリ尚ホ之ト同シク人ハ身體ヲ死後或ハ解剖學者ニ賣買贈與スルコトヲ得ルヤ此點ニ付キ學者間議論アリテ一定セス「エンデマン」「デルンブルグ」等ハ人ハ自己ノ死體ヲ處分スルコトヲ得トセリ

## 第二款　物ノ種類

物ハ種種ナル標準ニ依リテ之ヲ區別スルコトヲ得隨テ其種類モ極メテ多シ然レトモ予ハ本款ニ於テ其中ニ付キ最モ重要ナルモノヲ説明セン

### 第一項　動産、不動産

動産、不動産トハ其文字ヨリセハ物ノ區別ニ非スシテ財産ノ區別ヲ如キモ我民法ニ所謂動産、不動産トハ財産ノ區別ニ非スシテ所謂有體物ノ區別ナリ



ル法律關係ハ條件ノ成就未定ノ間ニ於ケル法律關係ニ非ス隨テ當事者カ之ヲ了知シタル時ヨリ無條件又ハ無效ト爲ルニ非スシテ其行爲ノ時ヨリ無條件又ハ無效トシテ其效力ヲ決定スヘキモノナリ例ヘハ既ニ成就セル事實ヲ以テ停止條件トシテ法律行爲ニ附加シタル場合ニ當事者ハ其條件ノ成就シタルコトヲ知リタル時ニ其行爲ノ目的タル權利ヲ取得スルニ非スシテ法律行爲ヲ爲シタル當時ニ直チニ其權利ヲ取得スルカ如キ即チ是ナリ

第五　單ニ債務者ノ意思ノミニ係ル停止條件附法律行爲ハ無效ナリ此點ニ關シテハ既ニ概説シタル所ナリ何故ニ債務者ノ意思ノミニ係ル解除條件附法律行爲ハ無效ト爲サヽルヤ夫レ解除條件附法律行爲ハ其行爲ニ因リ直チニ效力ヲ生シ條件ノ成就ニ因リテ既ニ發生セル效力ヲ失ハシムルモノナルカ故ニ其條件ノ成就ヲ債務者ノ意思ノミニ係ラシムルモ爲メニ法律行爲ノ拘束力ヲ失フコトナキノミナラス債務者カ之ヲ解除セントスル意思ヲ表示セスシテ死亡シタルトキハ條件ハ不成就ト爲ルモノニシテ其行爲ノ效力ハ永久ニ解除セラルルコトナキカ故ナリ

## 第四項　條件ノ成就未定ノ間ニ於ケル法律關係

第二イ　停止條件ノ場合

停止條件附法律行爲ハ條件成就未定ノ間ニ於テハ未タ其行爲ヲ目的トセル權利義務ヲ生セス故ニ條件附債務者ハ條件ノ成就シタルモノト信シテ履行スルモ債務ナキ履行ナルコトヲ證明シテ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得ベク又停止條件附債權者ハ法律行爲ノ目的物ヲ讓渡シ若クハ質入スルコトヲ得スシテ既ニ說明セシ如ク法律行爲ハ存在シ其行爲ニ因リテ當事者間ニ一種ノ權利義務ノ關係ヲ生スルモノナリ即チ普通ニ之ヲ條件附權利義務ト謂フ或ハ曰ク條件附法律行爲ニ依リ當事者ノ有スルモノハ一ノ希望ニ過キスシテ未タ權利ト爲ラサルモノナリト然レトモ我民法ニ於テハ明カニ條件ノ成就未定ノ間ニ於テモ當事者ノ權利義務ヲ認メ之ヲ保護セルヲ以テ之ヲ指シテ單ニ希望ナリト論スルハ其當ヲ得サルモノト謂ハサルヘカラス

(オ)　條件附權利ハ之ヲ處分又ハ相續スルコトヲ得　條件附權利モ一種ノ權利ナルカ故ニ法律ハ之ヲ讓渡シ及ヒ相續シ得ヘキ規定ヲ設ケテ條件附權利者ヲ保護セリ即チ條件附權利者ハ條件ノ成就未定ノ間ニ於テ條件附權利ヲ賣渡シ又ハ當事者ノ一方若クハ相手方カ死亡スルトキハ條件附權利義務ハ他ノ權利義務ト同シク相續人ニ移轉スヘキモノナリ

(ロ)　條件附權利ハ之ヲ保存シ又ハ擔保ニ依リテ之ヲ確保スルコトヲ得　條件附權利者ハ條件ノ成就ニ因リテ不動產上ノ權利ヲ取得スヘキ場合ニ於テハ登記法ノ定ムル所ニ從ヒ假登記ヲ爲シ又條件附法律行爲ノ目的トスル權利カ條件ノ成就前ニ於テ時效ニ因リテ消滅セントスルカ如キ場合ニ於テハ時效ノ中斷ヲ爲シ以テ其權利ヲ保存セシムルコトヲ得ヘシ又債務者ヲシテ條件成就ノ後ニ於ケル義務ノ履行ヲ確實ナラシムルカ爲メニ保證人ヲ立スルノ或ハ質權又ハ抵當權ヲ設定セシムルコトヲ得ヘシ

(ハ)　條件附法律行爲ノ當事者ハ條件ノ成就ニ因リ相手方ノ享有スヘキ利益ヲ害スルコトヲ得ス　條件成就ノ結果トシテ相手方ノ享タルヘキ利益トハ法律行爲ノ效力ヲ生スルニ因リテ相手方ノ有スヘキ權利及ヒ其他ノ利益ヲ謂フ

ニシテ例ヘハ法律行爲ノ目的物カ特定物ナルトキハ契約ノ本旨ニ適スル物ノ引渡ヲ受クルカ如キ又ハ其目的物ノ性質上品質ヲ良好ト爲ルカ爲メニ生スル增價ノ如キ果實ヲ生スルニ因ル利益ノ如シ隨テ其目的物ヲ滅失又ハ毀損シ品質ノ良好ト爲ルヲ妨クルカ如キ果實ヲ生セシメサルカ如キ行爲ヲ爲スコトヲ得サルナリ要スルニ條件附法律行爲ノ當事者ハ條件成就未定ノ間ニ於テ故意又ハ過失ニ因リテ其行爲ノ目的タル物ヲ滅失又ハ毀損シ若クハ權利ヲ變更消滅セシメタルトキハ相手方ニ對シテ其責ニ任セサルヘカラス而シテ此場合ニ於ケル相手方ノ損害賠償請求權ハ條件ノ成就ニ因リテ其效力ヲ生スルモノニシテ條件ノ成就未定ノ間ニ於テハ同シク條件附ノ損害賠償請求權ヲ有スルニ過キサルモノトス(第一二八條獨逸民法第一六〇條參照)

(二)　條件附權利者ハ條件ノ成就未定ノ間ニ於テ條件附義務者カ故意ニ其條件ノ成就ヲ妨ケタルトキハ條件ハ成就シタルモノトシテ其權利ヲ行使スルコトヲ得　條件附義務者カ其義務ヲ免レントシテ故意ニ條件ノ成就ヲ妨クルモ相手方ニ對シテ何等ノ責任ヲ有セサルモノトスルトキハ法律ハ條件附權利ヲ認ムルニ拘ハラス其保護ニ於テ缺クル所アルヲ以テ條件附義務者カ故意ニ其條件ノ成就ヲ妨害シタルトキハ却テ自己ニ不利益ノ結果ヲ受クヘキコトヲ規定シテ條件附權利者ノ利益ヲ保護セリ此點ニ付テハ佛法系ノ法典モ其ニ同一主義ヲ採用セリ

第二　解除條件附法律行爲ニ於テハ法律行爲ノ效力ノ發生ヲ停止スルモノニ非スシテ既ニ發生セル法律行爲ノ效力ノ全部又ハ一部ヲ消滅セシムルヲ以テ目的ト爲スモノナルカ故ニ法律行爲ノ效力ノ消滅ヲ停止スル點ヨリ觀ルトキハ停止條件ト其法律關係ヲ異ニセス隨テ解除條件附權利義務ニ付テハ停止條件ノ場合ニ於ケル理論ヲ適用スルコトヲ得即チ其權利義務ハ之ヲ處分、相續又ハ保存若クハ擔保シ得ヘキカ如キ當事者ノ一方ハ條件ノ成就ニ因リテ相手方ノ受クヘキ利益ヲ害スルコトヲ得サルカ如キ即チ是ナリ

## 第五項　條件ノ成就及ヒ其效力

積極的條件ニ在リテハ條件トシタル事實ノ發生シタル時消極的條件ニ在リテハ其成就ニ付キ期日ヲ定メタルトキハ期日マテニ其事實ノ發生セサルトキハ條件ハ成就シタルモノナリ積極的條件ニ於テ其成就ニ付キ期日ノ定アルトキハ其事實發生セシテ期日ヲ經過シ又期日ノ定ナキトキハ事實ノ發生セサルコトノ確定シタルニ因リテ條件ハ不成就ト爲リタルモノナリ又債權者ノ意思ノミニ係ル隨意條件ニ在リテハ債權者カ條件ヲ成就セシムル意思ヲ表示セスシテ死亡シタルトキハ條件ハ不成就ト爲ルモノナリ[illegible]條件カ成就シタルトキハ停止條件附法律行爲ニ在リテハ其行爲ノ目的タル權利義務ノ關係ヲ生シ解除條件附法律行爲ニ在リテハ條件ノ成就ニ因リテ其行爲ノ效力ヲ失フモノナリ而シテ其行爲ノ效力ヲ生スル時期ニ付テハ佛法系ノ法典ハ條件成就ノ效果ハ行爲ノ時ニ遡リテ效力ヲ生スト爲スト雖モ獨法系ノ法典ハ條件成就ノ效果ハ當事者カ反對ノ意思ヲ表示セサルトキハ法律上當然遡及スルノ效力ヲ生セストスルモノニシテ條件成就ノ時ヨリ將來ニ對シテノミ其效力ヲ生スル主義ヲ採用セリ我民法モ亦此點ニ付テハ獨逸法系ニ屬スル

條件成就ノ效力ハ行爲ノ當時ニ遡リテ其效力ヲ生スルモ付テハ之ヲ法律ノ擬制ナリトノ說ト條件附法律行爲ノ性質上當然ナリトノ說アリ擬制說ノ根據ハ法律ニ斯ル擬制ヲ設ケタル所以ノモノハ條件附法律行爲ノ當事者ノ意思ヲ推測シテ條件カ成就シタル上キハ其行爲ノ當時ニ遡リテ效力ヲ生セシムル意思ナリト看做シタルニ由ルモノナリト云フニ在リ然レトモ停止條件ニ在リテハ條件附法律行爲ノ當事者ノ意思ハ疑ハシキ場合ニハ寧ロ反對ノ推測ヲ下サザルヘカラス何トナレハ條件カ成就スルトキハ其效力ヲ發生セシメントスル意思ハ同時ニ條件カ成就シタル時ニ於テ其效力ヲ生セシメントスル意思ナレハナリ之ニ反シテ解除條件ニ在リテハ既ニ發生シタル法律上ノ效力ヲ消滅セシメ當ク何等ノ法律行爲ナカリシト同一ノ狀態ニ復セシメントスル意思ナルカ故ニ疑ハシキ場合ニ於テハ當事者ノ意思ハ法律行爲ノ當時ニ遡リテ解除ノ效力ヲ生セシムルモノト解セサルヘカラス若シ解除條件ノ場合ニ遡及力アリトセハ條件ノ成就ト同時ニ先ノ法律行爲ノ效力ハ當然消滅スルヲ以テ條件ノ成就前ニ其目的物ニ關シテ爲シタル取引ハ他人ノ物ヲ取引シタル結果ト爲リ條

件附權利者ハ之ヲ讓受ケタル第三者ニ對シテ自己ノ所有物トシテ之ヲ取戻シ
コトヲ得ヘク又條件成就前ニ其物ニ關シテ爲シタル一切ノ處分ハ權限ナキ處
分ト爲リ取得者ハ條件附權利者ニ對シテ條件成就ニ因リ其物ヲ返還セサルヘ
カラサルモ至リ取引ノ安全ヲ害スルノミナラス多クノ場合ニ於テハ當事者ノ
眞意ト認ムルコトヲ得サルヲ以テ法律ノ擬制ヲ設ケテ之ヲ認ムルハ理由ナシ
トス次ニ條件成就ノ效力ヲシテ既往ニ遡ラシムルハ條件附法律行爲ノ要件ナ
リト爲スノ說ハ條件附法律行爲ハ行爲ノ當時ニ既ニ存在スルカ故ニ條件カ成
就シタルトキハ行爲ノ成立シタル時ヨリ其效力ヲ生スヘキハ當然ナリト云フ
ニ在リ然レトモ法律行爲ノ成立ト其效力ヲ生スル時期トハ必ス同一ナラサル
ヘカラサル理由ナキノミナラス成立セル行爲ト其行爲カ效力ヲ生スル事項ト
ハ別個ノ事項ニ屬スルカ故ニ之ヲ混同シテ互ニ分離スルコトヲ得サルモノトス
シテ行爲ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生セシメサルヘカラスト斷定スルハ未タ其研
究ヲ盡シタルモノニ非ス[illegible]我民法ニ於テハ停止條件附法律行爲ハ條件成就ノ時ヨリ其效力ヲ生スルモノ



ナルヲ故ニ若シ其行爲カ權利ノ設定又ハ移轉ヲ目的トシタルモノナルトキハ條
件ノ成就ト同時ニ其效力ヲ生スルモノナリ例ヘハ停止條件附賣買ニ於テ條
件カ成就シタルトキハ買主ハ其成就ノ時ヨリ賣買ノ目的物ニ付テ所有權ヲ有
スルモノナリ即チ條件成就ハ既往ニ遡リテ其效力ヲ生スルモノニ非ス故ニ條
件成就前ニ於テハ目的物ヨリ生スル果實其他ノ產出物ハ條件附債務者ニ於テ
取得スヘキ權利ヲ有シ又條件成就前ニ其目的物ヲ處分スルモ條件附義務者ハ
他人ノ物ヲ處分シタルニ非サルヲ以テ條件カ成就シタル場合ニハ權利者ハ義
務者ニ對シテ損害賠償ノ請求ヲ爲シ得ルハ勿論アリト雖モ第三者ニ對シテ其
目的物ノ引渡ヲ請求スルコトヲ得ス又特定物タル目的物カ條件成就前ニ滅失
シタルトキハ條件ハ成就シタルニ拘ハラス其行爲ハ目的物ノ欠缺セルモノナ
ルヲ以テ不成立ト爲ル然レトモ目的物カ債務者ノ責ニ歸スヘキヲサル事由ニ
因リテ毀損シタルトキハ其毀損ハ債權者ノ負擔ニ歸セシム(第五三五條參照)
解除條件附法律行爲ニ在リテハ條件成就ノ時ヨリ效力ヲ失ヒ既ニ成立シタル
法律行爲ノ效力ヲ將來ニ對シテ消滅セシムルモノナリ故ニ條件成就前ニ其目

的物ニ付テ第三者ノ取得シタル權利ハ有效ニ存續ス例ヘハ第三者カ條件成就前ニ其目的物ニ付キ質權ヲ取得シタルトキハ條件成就スルモ其質權ハ消滅セサルカ如シ又條件成就前ニ取得シ費消シタル果實其他ノ產出物ニ付テハ前所有者ハ之ヲ返還スルコトヲ要セス又條件成就前ニ於ケル目的物ノ滅失毀損スル危險ハ條件附義務者ニ於テ之ヲ負擔セサルヘカラス（民法第六百八十七條）

當事者カ條件成就ノ效果ヲ既往ニ遡ラシムル意思ヲ表示シタルトキハ固ヨリ其意思ニ從ヒテ行爲ノ效果ヲ定ムヘキモノナリ而シテ其效力ヲ遡及セシムル意思ハ之ヲ明示スルコトヲ要セスシテ其當時ノ事情ニ依リ當事者ノ意思ヲ知ルコトヲ得ルヲ以テ足レリトス所謂遡及力トハ條件成就ノ時ヨリ行爲ノ效力ヲ生セシムルニ非スシテ行爲ノ當時ニ遡リ其效力ヲ發生セシムルモノナリ例ヘハ條件附賣買ニ於テ當事者カ條件成就ノ效果ヲ遡及セシムヘキコトヲ表示シタルトキハ條件成就ニ因リテ權利ヲ得タル者ハ條件附法律行爲ヲ爲シタル後ニ於テ其目的物ニ關シテ賣主ノ爲シタル處分ニ對抗スルコトヲ得ルノミナラス自己ノ所有權ヲ主張シテ第三者ニ對シ其物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得然



レトモ其目的物カ動產ナルトキハ之カ引渡ヲ受ケサルトキハ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルヲ以テ直接ニ第三者ニ對シテ其物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス又第三者カ條件成就前條件附義務者ヨリ條件附法律行爲ノ目的タル特定ノ動產ヲ正權原ニ且過失ナクシテ占有シタルトキハ條件ノ遡及力アルニ拘ハラス條件附權利者ハ條件ノ成就ヲ理由トシテ第三者ニ對シテ其物ノ引渡ヲ請求スルコトヲ得サルヘキヤ言ヲ俟タス又其目的物カ不動產ニシテ條件成就ノ效果ヲ既往ニ遡ラシムヘキ旨ヲ附記シテ之ヲ登記シタルトキハ條件附權利者ハ條件ノ成就ニ依リテ廣タ之ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得又條件附抵當權ヲ設定シ當事者カ條件成就ノ效果ヲ其行爲ノ時ニ遡ラシムル意思ヲ表示シタルトキハ其權利ノ順位ハ登記ノ順位ニ依ルヘキハ勿論ナリト雖モ條件カ成就シタルトキハ其時以後ニ登記セラレタル抵當權ニ對シテモ優先スルノミナラス其行爲後條件成就前ニ登記セラレタル抵當權ニ對シテモ優先スルコトヲ得ヘシ

茲ニ注意スヘキハ條件成就ノ效果ヲ其行爲ノ時ニ遡ラシムルハ條件附權利者ヲシテ既往ニ遡リ法律行爲ノ目的物ヲ使用收益セシムル權利ヲ取得セシムル

モノニ非サルコト是カ爲メ錢レ用モ當事者双方ノ意思カ表示シテ條件成就ノ時ニ條件成就未定中ニ於タル物ノ使用收益權ヲ與フルハ固ヨリ妨ナキモノナルヲ以テ唯疑ハシキ場合ニ於テ條件附權利者ハ條件成就前ニ於テル其目的物ノ使用又ハ收益ヲ爲ス權利ヲ有セサルモノト解釋スヘキ

## 第一款　期限

### 第一項　期限ノ性質

期限トハ法律行爲ノ履行又ハ效力ノ消滅ヲ生スヘキ將來ノ日時ヲ謂フ而シテ期限ニハ確定セルモノト然ラサルモノトアリ例ヘハ何年何月何日ト云フカ如キハ其到來スヘキ日時ノ確定セルモノナルカ故ニ之ヲ確定期限ト謂ヒ或家屋ノ荒廢スルマテト云フカ如キ某カ死亡スルマテト云フカ如キ日時ノ確定セサルモノヲ不確定期限ト謂フ而シテ期限ヲ法律行爲ノ履行ニ繫ラシメタルトキハ之ヲ停止期限ト謂ヒ法律行爲ノ效力ヲ消滅ニ繫ラシメタルトキハ之ヲ消滅期限ト謂フ通常權利ノ設定又ハ移轉ヲ目的トスル法律行爲ハ總テ期限ヲ附スルコトヲ得ト雖モ親族上ノ關係ヲ生スル養子縁組婚姻等ノ法律行爲ニハ消滅期限ヲ附スルコトヲ得サルハ言ヲ俟タサル所トス

期限ト條件トハ互ニ相類似スト雖モ二者全ク其性質ヲ異ニス即チ停止期限ニ在リテハ行爲ノ當時ニ既ニ發生シタル義務ノ履行ヲ猶豫スル爲メニ債務者ニ與ヘタル時ナルヲ以テ單ニ義務ノ履行ヲ停止スルニ過キス然ルニ停止條件ハ義務ノ履行ヲ停止スルモノニ非スシテ法律行爲ノ效力ノ發生ヲ止ムルモノナレハ條件成就前ニ在リテハ行爲ノ目的タル權利義務ノ關係ヲ生セサル點ニ於テ期限ト其性質ヲ異ニス且條件ハ其成就スルヤ否ヤハ未定ノモノナリト雖モ期限ハ必ス到來スヘキモノナリ又消滅期限ニ付テハ期限ノ到來シタル時ニ於テ法律行爲ノ效力ヲ消滅セシムルモノナルヲ以テ解除條件成就ノ時ヨリ法律行爲ノ效力ヲ失フト同一ナリト雖モ解除條件ハ其成否未定ナルニ反シテ期限ハ必ス到來スヘキモノナリ

法律行爲ニ始期ヲ附シタルトキハ其期限到來前ハ其行爲ヨリ生スル義務ノ履行ヲ求ムルコトヲ得スト雖モ權利義務ノ關係ハ其行爲當時ヨリ存在スルモノ

ナルカ故ニ期限ノ利益ヲ有スル者ハ之ヲ抛棄シテ期限到來前ニ於テ義務ノ履行ヲ爲スコトヲ得ベキハ勿論ナリ然レトモ物權ノ設定又ハ移轉ヲ目的トスル始期附法律行爲ヤ期限ノ到來スルマテハ物權的效力ヲ生セス例ヘハ質權設定ノ如キ其設定行爲ニ始期アルトキハ其期限ノ到來セサルニ於テハ其效力ヲ生セス隨テ其期限前ニ質權ヲ主張スルコトヲ得ス其他地上權永小作權地役權ノ如キ之カ設定ヲ目的トスル法律行爲ニ始期ヲ附シタルトキハ其效力ハ期限ノ到來スルニ依リテ始メテ生スルモノトス要スルニ期限附法律行爲ニ於テハ其期限ノ到來スルニ非サレハ物權的效力ヲ生スルコトナシ然レトモ債權的ノ效力ハ其法律行爲ノ存在ト同時ニ直チニ發生スルモノナルコトヲ忘ルヘカラス又法律行爲ニ終期ヲ附シタルトキハ法律行爲ノ生命ヲ定メタルモノナルヲ以テ期限ノ經過ト共ニ其行爲ノ效力ノ消滅スヘキハ當然ナリ例ヘハ一箇年ヲ期シタル保險契約ハ一箇年ノ滿了ト共ニ其效力ヲ失フ如キ即チ是ナリ

## 第二項　期限ノ利益

期限ハ債務者ノ利益ノ爲メニ定メタルモノト債權者ノ利益ノ爲メニ定メタルモノト又債權者債務者雙方ノ利益ノ爲メニ定メタル益カ何人ニ屬スルカハ之ヲ概括的ニ說明スルコトヲ得ス宜シク各法律關係ニ就キ事實問題トシテ之ヲ決セサルヘカラス例ヘハ無利息ノ貸借ノ期限ノ如キハ債務者ノ利益ノ爲メニ定メタルモノナルヘク無報酬ノ寄託契約ノ期限ノ如キハ債權者ノ利益ノ爲メニ定メタルモノナルヘク又利息附貸借ノ期限ノ如キハ債權者債務者雙方ノ利益ノ爲メニ定ムルヲ通例トスルカ如シ蓋シ期限ハ債務ノ履行ヲ猶豫スルモノナルカ故ニ疑ハシキ場合ニハ期限ハ常ニ債務者ノ利益ノ爲メニ定メタルモノト推定スヘキモノナルヲ以テ反證アラサル限ハ期限ノ利益ハ債務者ニ於テ之ヲ有スルモノト斷定セサルヘカラス(第一三六條第一項)而シテ當事者一方ノ利益ノ爲メニ定メタル期限ナルトキハ其利益ヲ有スル者ニ於テ單獨行爲ヲ以テ之ヲ抛棄シ期限到來前ニ於テ義務ノ履行ヲ爲シ又ハ權利ヲ行使シ若クハ法律行爲ノ效力ヲ消滅セシムルコトヲ得ヘシ之ニ反シテ當事者雙方ノ利益ノ爲メニ定メタルモノナルトキハ當事者ノ合意ニ因ルニ非

サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス何トナレハ自己ノ利益ハ自由ニ之ヲ拋棄スルコトヲ得ヘシト雖モ自己ノ利益ヲ拋棄スルカ爲メニ他人ノ利益ヲ害スルコトヲ得サレハナリ

債務者ノ利益ノ爲メニ定メタル期限ハ債務者ニ於テ自由ニ之ヲ拋棄スルコトヲ得ヘキハ前ニ述ヘタルカ如シト雖モ左ノ場合ニ於テハ債務者ハ期限ノ利益ヲ主張シテ債務ノ履行ヲ拒ムコトヲ得ス

(イ)　債務者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ

債務者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ財産上ノ信用ヲ失ヒタルモノニシテ之ニ期限ノ利益ヲ與フルトキハ債權者ノ利益ヲ保護スル上ニ於テ其當ヲ得サルノミナラス破産ハ各債權者ニ對シテ配當手續ヲ爲ササルヘカラサルヲ以テ若シ破産宣告ノ時ニ於テ未タ滿期ニ到ラサル債權アルトキハ其滿期日ニ至リ之ヲ辨濟スヘキモノトスルトキハ其手續ノ完了ニ付キ多クノ日數ヲ要シ各債權者ノ利益ヲ害スルヲ以テ債務者ノミヲ保護シ期限ノ利益ヲ主張スルコトヲ許スヘキ理由ナケレハナリ玆ニ所謂破産ニハ家資分散ヲ包含ス

(ロ)　債務者カ擔保物件ヲ毀損シ又ハ之ヲ減少シタルトキ

債務者カ擔保物件ヲ供スル場合ハ常ニ債務者ハ對人信用ナキ場合ナルヲ以テ債權者ノ信用ノ基礎ト爲ルモノハ債務者ニ非スシテ擔保物件ナリ即チ此場合ニハ債權者ハ債務ノ履行ヲ確保スヘキ擔保物アルヲ以テ債權ノ取立ニ付キ期限ヲ附シ辨濟ヲ猶豫スルニ過キス然ルニ債務者カ債權者ノ信用ノ基礎ト爲シタル物件ノ全部又ハ一部ヲ毀損シ若クハ減少スルトキハ履行ハ不確實ト爲リ期限ノ利益ヲ與ヘタル理由ヲ失フモノナルヲ以テ法律ハ此場合ニ於テハ債務者ヲシテ期限ノ利益ヲ主張スルコトヲ許サス

(ハ)　債務者カ擔保義務ヲ履行セサルトキ

此場合ニ於ケル債權者ノ信用モ亦對物的ノモノナルヲ以テ擔保ヲ提供スル義務例ヘハ質權又ハ抵當權ヲ設定スヘキ義務ヲ負擔シ之ヲ履行セサルトキハ(ロ)ノ場合ト同シク期限ノ利益ヲ與ヘタル根據ヲ失フモノナルヲ以テ法律ハ債務者ノ有スル期限ノ利益ヲ剝奪セリ法文ニハ「債務者カ擔保ヲ供スルトアルヲ以テ質權又ハ抵當權等ノ對物擔保ヲ提供スヘキ義務ヲ有スル場合ニ限ルヘキ

ノナリト解スル者アリト雖モ法理上對物擔保ノ提供ヲ怠リタル場合ノミニ限リ期限ノ利益ヲ奪フヘキ理由ナキノミナラス債務者カ保證人ヲ立ツヘキ義務アル場合ニモ亦擔保ヲ供スルニ該當スヘキモノナルコトハ第四百五十八條ニ(保證人ヲ立ツルコト能ハサルトキハ他ノ擔保ヲ供シテ之ニ代フルコトヲ得)トアルヲ以テ之ヲ觀ルモ明カニシテ法律ハ保證人ヲ立ツルコトヲ以テ擔保ヲ供スル一方法ト認メタルモノト謂ハサルヘカサレハナリ

## 第二章　期間

權利ノ得喪變更若クハ義務ノ履行ハ或期間ニ關係スル場合尠シトセス例ヘハ一定ノ期間內ニ或行爲又ハ意思ヲ表示セサルトキハ其行爲ヲ取消シ又ハ追認シタルモノト看做スカ如キ(第一九條、第一一四條參照)一定ノ期間內ニ或義務ヲ履行セサルトキハ法律ノ制裁アルカ如キ(第四五條、第四六條、第四八條、第七七條、第八四條參照)一定ノ期間內或物ヲ占有スルトキハ時效ニ因リテ權利ヲ取得スルカ如キ(第一六二條、第一六三條、第一九五條參照)一定ノ期間權利ヲ行使セサレハ權利消滅ノ效力ヲ生スルカ如シ(第一二六條、第一六七條乃至第一七四條參照)

隨テ期間ニ關スル計算ヲ確定スルハ權利ノ得喪變更若クハ義務ノ履行、不履行ノ分界ヲ明カニスルニ付キ重要ナル事項ナルヲ以テ民法ハ特ニ總則ニ於テ期間ニ關スル規定ヲ設ケ他ノ法令、裁判所ノ命令又ハ當事者ノ特別ノ意思表示ニ因リ特ニ期間ノ計算ヲ定メサル場合ニ於テ之ヲ適用スヘキモノトセリ

期間ノ計算ニ付テハ二ノ方法アリ第一ハ曆法的計算ニシテ曆ニ定メタル計算方法ニ依ルモノナリ即チ日ハ午前零時ヨリ午後十二時マテ月ハ其月ノ初日ヨリ末日マテ年ハ一月一日ヨリ十二月末日マテニシテ閏年ナルト否トヲ問ハス而シテ其計算ハ日ヲ單位トシ時、分、秒等ヲ算出セス第二ハ自然的計算法ニシテ或事實ノ發生シタル時ヨリ一日ハ二十四時間、一年ハ三百六十五日ト云フカ如ク計算スルモノナリ而シテ此二ノ方法中其一ニ偏スル立法例ナク我民法ハ日又ハ時ヲ以テ定メタル期間ノ計算ニ付テハ自然的計算法ヲ採リ週、月、年ヲ以テ定メタル期間ノ計算ニ付テハ曆法的計算法ニ從フモノトセリ

期間ヲ定メルニ時ヲ以テスル場合ニハ瞬間ヨリ起算シ一定ノ時ニ滿チタル

時ヲ以テ期間ハ滿了ス又期間ヲ定ムルニ日、週、月又ハ年ヲ以テシタル場合ハ其事實ノ發生シタル初日ハ之ニ算入セサルヲ原則トス是レ初日ヲ算入スルトキハ多クハ端數ヲ生シ計算ノ煩雜ヲ來スヲ以テナリ然ニ右ノ場合ニ於テモ期間ノ初日カ端數ヲ生セスシテ午前零時ヨリ始マルトキハ初日ヲ算入シ期間ノ末日ノ終ヲ以テ滿期日トス若シ又期間ノ末日カ大祭日、日曜日又ハ地方一般ノ休日ニシテ其日ニ取引ヲ爲ササル慣習アルトキ例ヘハ取引所ノ取引ノ如ク又銀行營業ノ如シ是レ滿期日カ取引ヲ爲ササル日ニ該當スルトキハ其日ヲ滿期日トシ權利ノ得喪又ハ義務ノ履行、不履行ヲ定ムヘキ分界ト爲ストキハ當事者雙方ヲシテ甚シキ不利益ノ結果ヲ被ラシムルヲ以テナリ又期間ヲ定ムルニ週、月又ハ年ヲ以テシタル場合ニハ週、月、年ノ始ヨリ期間ヲ計算セサルトキハ最後ノ週、月又ハ年ニ於テ最初起算ヲ始メタルトキニ相當スル日ノ前日ノ滿了ヲ以テ滿期日ト爲スカ如シ月又ハ年ヲ以テ期間ト定メタル場合亦同シトス然レトモ月ニハ二十八日、三十日若クハ三十一日ヲ以テ滿了スルモノアルヲ以テ最後ノ月ニ於テ應當日ナキトキハ其月ノ末日ヲ以テ滿期日トス例ヘハ一箇月ノ期間ニ於テ三月三十一日ヲ以テ起算點トスルトキハ四月ニハ三十一日ナキカ故ニ四月三十日ヲ以テ滿期日ト爲スカ如シ

以上述ヘタル期間計算法ハ元來補充的規定ナルヲ以テ期間ノ計算ニ關シ法令、裁判所ノ命令又ハ當事者ノ意思表示ニ依リテ特ニ期間ノ計算ヲ定メタルトキハ固ヨリ其計算法ニ從ヒテ期間ヲ定メサルヘカラス

## 第三章　時效

### 第一節　時效ノ性質

時效トハ法律ノ定メタル要件ヲ具備シ法定ノ期間ヲ經過スルニ因リ權利ヲ取得シ又ハ消滅セシムル制度ヲ謂フ時效ニハ取得時效、消滅時效ノ二種アリ取得時效トハ法定ノ期間占有ヲ繼續スルニ因リテ權利ヲ取得セシムル效力ヲ生スルモノヲ謂ヒ消滅時效トハ法定ノ期間權利ヲ行使セサル事由ニ因リテ其權利ヲ喪失セシムル效力ヲ生スルモノヲ謂フ或法律ニ於テハ時效ヲ以テ法律上ノ推定ノ一トシ之ヲ證據編中ニ規定スルモ

ノ名リ佛蘭西法系ノ法典ノ如キ即チ是ナリ而シテ其理由ニ曰ク時效ハ他ノ權利ノ得喪ノ場合ト異ナリ法律上當然ニ其效力ヲ生スルモノニ非スシテ當事者カ之ヲ援用スルニ依リテ其效力ヲ生シ裁判所ハ職權ヲ以テ之ヲ調査シ裁判ヲ下スコトヲ得ス隨テ既ニ消滅時效ニ罹ル債權ニ對シテモ辨濟ヲ爲シタルトキハ其辨濟ハ有效ナルノミナラス債務ナキヲ理由トシテ辨濟ノ無效ヲ主張スルコトヲ許ササルナリ又債務者カ其債務アルコトヲ認諾スルトキハ債務ハ消滅セサル點ヨリ之ヲ觀レハ明カニ反證ヲ許スヘキ法律上ノ推定ニシテ法律ノ力ニ依リ權利ノ取得又ハ消滅ヲ生セシムルモノニ非スト然レトモ此等ノ理由アルカ故ニ時效ノ規定ヲ以テ權利ノ取得又ハ喪失ニ關スル法律上ノ推定ナリト論スルハ誤謬ノ甚シキモノニシテ且時效ノ性質ニ關スル觀念ヲ誤ルモノト謂ハサルヘカラス蓋シ時效ノ制度ヲ認メタル法律上ノ理由ハ第一、或權利ノ所屬ヲ永タ不確定ノ狀態ニ繼續セシムルハ國家經濟上有害ナルコト第二、或法律上ノ事實ノ發生ヨリ永タ日月ヲ經過セハ多クノ場合ニハ證據ハ漸次湮滅シ其權利ノ眞實ナル狀態ヲ知ルコト難タ當事者間ニ徒ニ紛爭ヲ生スルノ虞アルコト

第三、若シ時效ノ制度ヲ認メサルトキハ各人ハ永久ニ權利ノ取得又ハ消滅ニ關スル證據ヲ保存セサルヘカラス是レ徒ニ手數ノ煩雜ヲ增スノミナラス之ヲ各人ニ對シテ求ムルコトハ到底不能ノ業ナルコト第四、久シク其權利ヲ行使セス及ヒ之カ保存行爲ヲ爲ササル者ハ法律カ永久ニ其權利ヲ保護スルノ必要ナキ等ノ理由ニ基クモノナリ

右ニ述ヘタル理由ニ因リ時效ノ制度ヲ認メタルモノニシテ之ニ依リテ各人ノ私法上ノ權利ヲ保護シ併セテ公ノ秩序ヲ維持セシカ爲メナリ隨テ私法上ノ時效ハ純然タル公法上ノ時效ト其性質ヲ異ニス例ヘハ刑事上ノ時效ハ當事者カ之ヲ拋棄スルコトヲ許サス故ニ縱令犯罪人ニ於テ其時效ヲ援用セサルモ裁判官ハ職權ヲ以テ之ヲ調査セサルヘカラス之ニ反シテ私法上ノ法律關係ハ公益ヲ害セサル限ハ當事者ノ意思ニ從フヘキモノナルヲ以テ當事者カ消滅時效ニ因リテ義務ヲ免レタルニ拘ハラス其義務ヲ盡サントシ若クハ取得時效ニ因リテ權利ヲ取得シタルニ拘ハラス他人ノ物ナルコトヲ知リタルカ爲メニ返還セントスルトキハ之ヲ返還セシメ又ハ其義務ノ履行ヲ爲サシムルコトハ毫モ公

ノ秩序ヲ害スルモノニ非サルヲ以テ固ヨリ其意思ニ任セシムヘキモノトス

時效ハ時ノ經過ニ因リテ權利ヲ取得セシメ又ハ義務ヲ消滅セシムル效力ヲ生スルモノナルカ故ニ時效ニ因リテ權利ヲ取得シ又ハ義務ヲ免レタルトキハ時效ノ效力ヲ生シタル時即チ時效完成ノ時ヨリ其效力ヲ生スヘキモノナルカ如シト雖モ元來時效ノ制度ヲ認メタル理由ハ前ニ述ヘタル如ク永久ニ繼續シテ存在スル事實ハ成ルヘク其狀態ニ於テ法律關係ヲ確定セシメ以テ現狀ヲ維持セントスルニ在ルカ故ニ其事實ノ發生シタル日ニ遡リテ其效力ヲ與ヘサルトキハ時效ノ制度ノ趣旨ヲ貫クコトヲ得ス是ヲ以テ何レノ立法例ニ於テモ時效ノ效力ハ其起算日ニ遡ルヘキモノト規定セリ即チ時效ニ因リテ權利ヲ取得シタル者ハ時效期間ノ進行ヲ始メタル時ヨリ其權利ヲ取得シタルモノト爲シ債務ヲ免レタル者ハ時效ノ進行ヲ始メタル時ヨリ其效力ヲ生スヘキモノトス(第一四四條)

茲ニ注意スヘキハ權利ノ消滅期間及ヒ法定ノ不變期間ト時效トヲ混同スヘカラサルコト是ナリ或權利ハ創設ノ時ニ於テ其消滅期間ヲ以テ限定セラレ一定ノ期間ノ滿了ニ因リテ消滅スルモノアリ又法定ノ期間ヲ經過スルニ因リテ當然消滅スルモノアリ若クハ或權利ハ法定期間內ニ之ヲ行使セサレハ消滅スルカ如シ然レトモ此等ノ權利ノ消滅ハ時效ニ因ルモノニ非スシテ當事者ノ意思又ハ法律ノ規定ニ依リ若クハ權利自體ノ性質ヨリシテ時ノ經過ニ因リ當然消滅スルモノナリ故ニ時效ノ如ク之ヲ中斷シ又ハ停止セシムルコトヲ得ス裁判所ハ當事者ノ援用ヲ待タスシテ職權ヲ以テ之ヲ審査シテ裁判セサルヘカラス

## 第二節　時效ニ關スル通則

### 第一款　時效ノ援用及ヒ時效ニ罹ルヘキ權利

時效ハ裁判所ノ職權ヲ以テ調査シ之ヲ理由トシテ裁判スルコトヲ得ス必ス當事者ノ援用ヲ待チテ始メテ之ヲ適用セサルヘカラス而シテ時效ノ利益ハ時效ノ完成シタルカ爲メニ其利益ヲ受クル者ハ總テ之ヲ援用シテ其權利ヲ主張シ義務ノ消滅ヲ對抗スルコトヲ得ヘシ例ヘハ消滅時效カ成就シタル債務ニ付テハ主タル債務者カ時效ノ利益ヲ援用セサルトキハ從タル債務者ハ之ヲ援用シ

ヲ其債務ヲ免ルルコトヲ得ヘク又債務者ハ自己ノ債權ヲ保全スルカ爲メニ必要ナルトキハ債務者ニ代リテ時效ノ利益ヲ援用スルコトヲ得又連帶債務者ノ一人ノ爲メニ時效カ完成シタルトキハ他ノ連帶債務者ニ於テモ之ヲ援用シ其負擔部分ニ對スル債務ヲ免ルルコトヲ得ルカ如シ(第四二三條、第四三九條參照)

時效ハ訴訟事件カ第一審又ハ第二審ニ繫屬セル間ニ限リ之ヲ援用シテ權利ノ取得又ハ消滅ヲ主張スルコトヲ得ヘシト雖モ上告審ニ於テハ最早之ヲ主張スルコトヲ得ス何トナレハ上告審ニ於テハ法律ノ適用ニ關スル裁判ヲ爲スモノナルヲ以テ法律ヲ適用セサルカ又ハ不當ニ法律ヲ適用シタル場合ニ限リ其當否ヲ審査スヘキモノニシテ新ニ時效ニ關スル申立ヲ爲ストキハ事實ニ關スル主張ヲ爲スニ外ナラサレハナリ

舊民法ニ於テハ公有ノ財產不融通物又ハ讓渡スコトヲ得サル物ハ時效ニ罹ルコトヲ得スト規定セリ然レトモ不融通物又ハ讓渡スコトヲ得サル物ハ即チ私權ノ目的ト爲ルコトヲ得サル物ニシテ是レ特ニ法律ヲ規定ヲ待タスシテ時效ニ因リ之ヲ取得スルコトヲ得サルハ明白ナリトス之ニ反シテ私權ノ目的ト爲スコトヲ得ル有體物ナル以上ハ公有財產タルト私有財產タルトヲ問ハス時效ニ因リテ之ヲ取得シ得ルヤ勿論ナリ故ニ民法ハ此等ノ區別ヲ設ケス財產權ハ總テ時效ニ罹ルコトヲ得ヘキモノトセリ(第一六三條參照)

財產權トハ金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキモノヲ目的トスル權利ニシテ親族上ノ權利其他人格ニ關スル權利ノ如キハ包含セラレサルヲ以テ人格權、親族權ノ如キモノハ時效ニ因リテ之ヲ取得スルコトヲ得ス又繼續且表見ノ性質ヲ有セサル地役權ハ財產權ナリト雖モ時效ニ因リテ取得スルコトヲ得ス(第二八三條參照)然レトモ消滅時效ニ罹ル權利ハ財產權ニミナラス財產ヲ目的トセサル債權、無能力者又ハ環疵アル意思表示ヲ爲シタル者ノ有スル取消權、家督相續回復請求權、相續ノ承認又ハ拋棄ノ取消權ノ如キモノモ時效ニ因リテ消滅スヘキモノナリ第一二六條、第三九九條、第九六六條、第一〇二二條參照但扶養ヲ受クル權利、相隣者間ノ權利、組合ヲ脫退スルノ權利又ハ組合ノ解散ヲ請求スル權利ノ如キモノハ時效ニ罹ルヘキモノニ非ス獨逸民法ニ於テハ登記簿ニ登記セラレタル權利ハ時效ニ罹ラシメスト雖モ我民法ハ登記ヲ以テ第三者ニ對スル公示方法

ト爲スニ過キサルカ故ニ登記セラレタル權利タルト否トニ因リ時效ニ權ルト否トヲ區別スル理由ナキヲ以テ此點ニ關シテハ獨逸民法ト其主義ヲ異ニス(第六七八條、第六八二條、第九六三條、獨逸民法第九〇二條參照)

舊民法ハ自己ノ財產ニ付テ行使スルコトヲ得ル法律上ノ權能ハ消滅時效ニ因リテ喪失スルモノニ非サル旨ヲ規定セリ然レトモ舊民法ノ所謂權能ナルモノハ自己ノ所有物ヲ用方ニ從ヒ使用スル働ヲ謂フモノニシテ之ヲ行使シテ外部ニ表ハレタルトキ權利ト爲ルモノナリト云フニ在リト雖モ此區別ハ甚タ漠然タルモノニシテ權利ノ效力ヲ名ケテ權能ト謂フカ如シト雖モ此等ノモノハ所謂權利ノ作用ニ外ナラサルカ故ニ强ヒテ之カ區別ヲ爲スノ必要ナシト謂ハサルヘカラス又權利ノ作用ニ付テハ其權利ト分離シテ時效ニ罹ルヘキ理由ナキハ言ヲ俟タサル所トス

## 第二款　時效ノ抛棄

時效ノ制度ヲ設ケタル理由ハ既ニ述ヘタル如ク公ノ秩序ヲ保ツコト及ヒ私益ヲ保護スルコトヲ以テ目的トスルモノナルカ故ニ此制度ノ適用ヲ免レントシテ豫メ時效ノ利益ヲ抛棄スル意思表示ハ公ノ秩序ニ關スル規定ノ適用ヲ避ケントスルモノナルカ故ニ其意思表示ハ之ヲ無效トセサルヘカラス然レトモ既ニ成就シタル時效ノ利益ヲ抛棄スルハ時效ノ制度ノ適用ヲ免レントスルモノニ非スシテ之ヲ抛棄スル者自身ノ受クヘキ利益ヲ抛棄スルモノナルヲ以テ之ヲ禁スヘキノ理由ナシトス茲ニ注意スヘキハ時效ノ利益ハ消滅時效ニ在リテハ法定期間ノ經過ニ因リテ權利ノ消滅ニ關スル利益ヲ謂フモノニシテ債權債務ノ關係ニ於テハ時效ノ利益ハ債務者ニ在リテ債權者ニナキモノナルコト是ナリ故ニ例ヘハ債權消滅時效ノ期間ヨリ長キ期間ヲ定メテ債權消滅ノ期間ヲ延長セシムルモ其契約ハ豫メ時效ノ利益ヲ抛棄スルモノナルヲ以テ無效ナリト雖モ之ニ反シテ消滅時效ノ期間ヨリ短キ期間ヲ定メテ債權ノ消滅ヲ約スル場合ハ豫メ時效ノ利益ヲ抛棄スルモノニ非サルヲ以テ有效ナルハ勿論ナリ例ヘハ若シ債權者カ期間到來ノ後五年限ニ請求セサルトキハ其債權ハ消滅スヘシト約スルカ如キハ是レ時效ノ利益ヲ抛棄シタルモノニ非スシテ時效ニ因リ

ヲ權利ノ消滅スヘキ以前ニ於テ特ニ債權ノ消滅スヘキコトヲ約シタルニ外ナラサレハナリ

時效ノ利益ヲ拋棄スルノ方法ハ意思表示ノ一般ノ原則ニ依リ明示又ハ默示ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得默示ノ拋棄トハ例ヘハ裁判所ニ於テ時效ヲ援用セサルカ如キ又ハ任意ニ債務ヲ履行シ又ハ債務ヲ履行スルコトヲ諾スルカ如キヲ謂フ時效ノ利益ヲ拋棄スル意思表示ハ權利ノ無償處分若クハ義務ヲ無償ニテ負擔シタルモノニ非ス或法律關係ニ付テ既ニ成就シタル時效ノ利益即チ時效ヲ援用シテ權利ノ取得又ハ消滅ヲ主張シ得ヘキ利益ヲ拋棄スルニ過キス法律ノ規定ニ依リ取得シタル利益ヲ拋棄シ又ハ消滅シタル義務ヲ履行シタルモノニ非スシテ既ニ經過シタル事實ニ付テ時效ノ成就シタル期間ニ依リ生スル自己ノ主張シ得ヘキ利益ノ拋棄ニ外ナラサルナリ故ニ其利益ノ拋棄ノ結果トシテ裁判所ハ其權利又ハ義務ニ關シテハ時效ニ關スル規定ヲ適用シテ裁判スルコトヲ得サルニ外ナラス

時效ノ拋棄ハ之ヲ拋棄シタル者及ヒ其相續人ニ對シテノミ效力ヲ生スルモノニシテ他ノ利害關係人ニ何等ノ影響ヲ及ホスモノニ非ス隨テ主タル債務者カ時效ノ利益ヲ拋棄スルモ其保證人ハ之カ爲メニ時效ノ利益ヲ喪失スルコトナク又連帶債務者ノ一人カ時效ヲ援用セサルモ他ノ連帶債務者ハ之ヲ援用シテ其負擔部分ノ債務ヲ免ルルコトヲ得ヘシ(二十八年大審院判例第二四二號第三四五號參照)

## 第三款　時效ノ中斷

### 第一項　時效中斷ノ意義及ヒ事由

時效ノ中斷トハ時效カ進行ヲ始メタルヨリ完成ニ至ラサルニ當リ既ニ經過シタル期間ノ效力ヲ消滅セシムルコトヲ謂フ故ニ未タ時效ノ進行ヲ始メサル權利ニ付テハ中斷アルコトナク又既ニ完成シタル時效ニ對シテハ中斷ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ス抑モ時效ノ完成ニハ繼續シテ法定期間ノ經過スルコトヲ必要トスルモノナルヲ以テ中斷行爲アリタルトキハ既ニ經過シタル期間ハ法律上其效力ヲ失ヒ新ニ進行スヘキ期間ニ通算セラルルコトナシトス

法律ニ於テ時效ノ中斷ヲ認メタル所以ノモノハ將ニ完成セントスル時效ニ對シテ自己ノ利益ヲ保存スルカ爲メニ周到ノ注意ヲ以テ時效ノ進行ヲ中斷スルヲ行爲ヲ爲シタル者ニ對シテハ强ヒテ時效ノ規定ヲ適用シ權利ヲ消滅セシムベキ理由ナキノミナラス權利ノ保存ヲ圖ル者ハ其權利ヲ證明スベキ證書帳簿等ノ保存ヲ完ウスルモノナルカ故ニ時效ニ因リテ此等ノ權利ヲ消滅セシムベキ必要ナケレハナリ

舊民法ニ於テハ時效ノ中斷ニ自然ノ中斷、法定ノ中斷ノ二種ヲ認メタリ所謂自然ノ中斷ナルモノハ占有者カ一年以上占有ヲ奪ハレタルモノヲ謂ヒ法定ノ中斷トハ時效ノ利益ヲ受クベキ者ニ對シテ爲シタル或行爲ヲ認メ法律カ之ニ中斷ノ效力ヲ付スルモノヲ謂ヘリ然ルニ現行民法ニ於テハ中斷ニ關シテ此種ノ區別ヲ認メス然レトモ所有權ノ取得時效ニ在リテハ占有者カ目的物ヲ占有スルコトヲ要件トスルモノナルカ故ニ占有者カ任意ニ其占有ヲ中止シ又ハ他人ノ爲メニ占有ヲ奪ハレタルトキハ時效中斷ノ效力ヲ生スルモノトセリ(第一六九條參照)又所有權以外ノ財產權ニ對スル取得時效ニ付テハ自己ノ爲メニスル



意思ヲ以テ權利ヲ行使スルコトヲ要件トスルモノナルカ故ニ權利不行使ノ事實アルトキハ時效ハ中斷セラルルモノナリ(第一六五條參照)又消滅時效ニ付テハ權利者カ其權利ヲ行使スルニ因リテ中效中斷ノ效力ヲ生スルモノトス(第二九〇條參照)

時效ハ取得時效タルト消滅時效タルトヲ問ハス左ノ事由ニ因リテ中斷ス第一、請求第二、差押、假差押、假處分第三、承認即チ是ナリ

第一　請求

請求トハ廣キ意義ヲ有スルモノニシテ裁判上又ハ裁判外ノ請求ノ中其何レニ屬スルヲ問ハサルナリ然レトモ左ノ場合ニ於テハ請求ハ時效中斷ノ效力ヲ生セス

(イ)　裁判上ノ請求ハ訴ノ却下又ハ取下ノ事由アリタルトキ　裁判上ノ請求トハ訴ヲ提起シテ其權利ヲ主張スルモノニシテ時效中斷ノ效力ヲ生スルヲ原則トスルモノナリト雖モ裁判所ニ於テ請求ヲ理由ナシトシテ却下シ又ハ訴訟カ管轄違ナルトキ若クハ訴訟ノ形式上ノ要件ヲ缺タカ爲メ又ハ原告カ出廷セサ

ルカ爲メ訴ヲ却下シタルトキ又ハ原告カ訴ヲ拋棄シ若シハ訴訟ヲ休止スヘキ合意ヲ爲シ一年内ニ口頭辯論期日ノ申立ヲ爲ササルカ如キ訴ノ取下ノ效力ヲ生シタルトキハ請求ハ時效中斷ノ效力ヲ生セス(民事訴訟法第一八八條、第二二九條、第二四七條、第四二七條參照)

(ロ)　支拂命令ヲ以テ請求スル場合ニ權利拘束カ其效力ヲ失ヒタルトキ　支拂命令ハ督促手續ニ依リ裁判所カ債務者ニ對シテ發スル命令ナリ而シテ其權利拘束ノ效力ハ支拂命令カ債務者ニ送達セラレタル時ニ始マルモノニシテ債權者ニ對シテ債務者ヨリ支拂命令ニ付テ異議ヲ申立テタルコトノ通知書カ送達アリタル日ヨリ起算シ一箇月内ニ管轄裁判所ニ訴ヲ提起セサルトキハ其支拂命令ハ權利拘束ノ效力ヲ失フモノナリ而シテ支拂命令ニ依リテ請求スルニ拘ハラス其權利拘束ノ效力ヲ失ハシムルハ債務者ニ對シテ權利ヲ主張スル意思不十分ナルモノト認ムルコトヲ得ヘク又ハ支拂命令ハ之カ爲メニ法律上ノ效力ヲ失フモノナルカ故ニ之ヲシテ時效中斷ノ效力ヲ生セシムヘキ理由ナキヲ以テナリ(民事訴訟法第二八七條、第三九一條參照)

(ハ)　和解ノ爲メノ呼出ニ出頭セサルトキ又ハ出頭スルモ和解ノ調ハサル場合ニ一箇月内ニ訴ヲ起ササルトキ　和解ノ爲メニ當事者ヲ裁判所ニ呼出スモ出頭セス又ハ出頭スルモ和解ノ調ハサルトキハ一箇月内ニ訴ヲ起ササルヘカラス然ルニ此期間ヲ經過スルモ尚ホ訴ヲ起ササルハ原告ハ自己ノ請求ヲ貫クヘキ意思アルモノト認ムルコト能ハサルヲ以テ時效中斷ノ效力ヲ付セサルナリ又任意出頭ノ場合ニ於テモ和解ノ調ハサルトキハ訴ヲ却下セラレタルト同シク時效中斷ノ效力ヲ生スヘキ理由ナケレハナリ(民事訴訟法第三八一條參照)

(ニ)　破產手續ノ參加ハ債權者カ之ヲ取消シ又ハ其請求カ却下セラレタルトキ　債務者カ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ債權者ハ破產法ノ定メタル所ニ從ヒ其配當ニ參加スルコトヲ得而シテ其手續ヲ爲スハ自己ノ權利ヲ請求スル意思表示ナルヲ以テ之ニ時效中斷ノ效力ヲ生セシムルハ當然ナリ然ルニ債權者ノ爲シタル破產手續ノ參加カ破產裁判所ニ於テ請求ノ理由ナキモノトシテ却下セラルルカ又ハ債權者自ラ其參加ヲ取消シタルトキハ其請求ハ法律上效力ヲ失フモノナルカ故ニ之ニ對シテ時效中斷ノ效力ヲ付スヘキ理由ナケレハナリ

（第一五二條參照）

（ホ）催告ヲ爲シタル六箇月內ニ裁判上ノ請求和解ノ爲メニスル呼出又ハ任意出頭破產手續參加差押假差押假處分ヲ爲サザルトキ　催告ハ書面又ハ口頭ヲ以テ各人ノ任意ニ爲ス請求ナリト雖モ現行法ニ於テハ催告ノミヲ以テ中斷ノ效力ヲ生セシメス故ニ催告ヲ爲シタルトキハ更ニ六箇月ノ期間內ニ訴ヲ起シ和解ノ爲メニ相手方ヲ呼出シ又ハ相手方ノ任意出頭破產手續參加假差押又ハ假處分ヲ爲スコトヲ要ス故ニ此等ノ手續ヲ履ミ始メテ催告ハ時效中斷ノ效力ヲ生スヘキモノナリ

第二　差押假差押假處分

差押トハ强制執行ノ爲メ債務者ニ屬スル特定物又ハ權利ノ處分ヲ禁スル裁判所ノ命令ナリ假差押又ハ假處分トハ强制執行ヲ保全スルカ爲メニ債務者ノ特定物又ハ其權利ノ處分ヲ禁止スル裁判所ノ命令ナリ此等ノ裁判所ノ命令アリタルトキハ時效中斷ノ效力ヲ生スルモノナリト雖モ其命令カ法律ノ規定ニ從ハサルカ爲メニ取消サレ又ハ權利者ノ請求ニ因リテ裁判所ニ於テ之ヲ取消シ



タルトキハ差押假差押又ハ假處分ナキモノト同樣ナルカ故ニ時效中斷ノ效力ヲ生セシメサルモノトス故ニ例ヘハ債權者カ一定ノ期間內ニ訴ヲ起サザルカ爲メニ債務者ノ申立ニ因リ差押ヲ取消シタルカ如キ又假差押假處分カ違法ナルカ故ニ裁判所カ之ヲ取消シタルカ如キ場合ハ時效中斷ノ效力ヲ生セス又差押假差押及ヒ假處分ハ時效ノ利益ヲ受クル者ニ對シテ之ヲ爲シタルニ非スシテ第三者ニ對シテ之ヲ爲シタル場合ニハ時效ノ利益ヲ受クル者ニ對シテ之ヲ通知スルニ非サレハ時效中斷ノ效力ヲ生スルコトナシ（第一五四條第一五六條）

第三　承認

承認トハ相手方ノ權利ヲ認ムル意思表示ニシテ明示又ハ默示ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得默示ノ承認トハ擔保ヲ提供スルカ如キ利息ヲ支拂フカ如キ所有者ノ請求ニ應シテ地代小作料等ヲ支拂フカ如キ即チ是ナリ承認ハ存在セル權利ヲ認ムルモノニシテ權利ヲ創設スル行爲ニ非ス之ニ因リテ時效中斷ノ效力ヲ生スト雖モ新ニ義務ヲ負擔スルモノニ非ス即チ承認ハ新權利ノ得喪ヲ生スルモノニ非サルカ故ニ權利ノ處分能力ヲ有セサル未成年者準禁治產者ト雖モ單獨

ニ之カ承認ヲ與フル所ニトスル得ル權利處分ハ權限ナキ代理人ニ關シテモ有效ニ之カ承認ヲ爲シ得ベキモノトス(第一四七條第一五六條參照)

## 第二項　時效中斷ノ效力

時效中斷ノ效力ハ既ニ經過シタル時效期間ノ效力ヲ消滅セシメ中斷事由ノ繼續スル間ハ時效ノ進行ヲ停止シ中斷事由ノ終ルト同時ニ更ニ其進行ヲ始ムルモノナリ故ニ例ヘハ差押ノ場合ニ於テハ一切ノ執行行爲ヲ終リタル時ニ更ニ時效ノ進行ヲ始ムルカ如キ裁判上ノ請求ニ因リテ中斷シタル時效ハ裁判ノ確定シタル時ヲ以テ中斷事由ハ終了シタリト爲スカ故ニ其時ヨリ更ニ時效ノ進行ヲ始ムルカ如キ即チ是ナリ(第一五七條)時效中斷ノ事由ハ終了ニ因リテ更ニ進行ヲ始ムルニハ法文ニハ其中斷ノ事由ノ終了シタル時又ハ裁判ノ確定シタル時トアルヲ以テ一タヒ中斷セラレタル時效期間ノ計算方ハ時ヨリ時ニ變シタルカ如キ疑ヲ懷ク者アルヘシト雖モ時效期間ノ計算ハ年ヲ以テスルモノナルカ故ニ此場合ニ於テモ亦第百四十條ノ規定ニ從ヒ時效期間ヲ計算スヘキモノト解セサルヘカラス

時效ノ中斷ハ特定人ニ對スル行爲ニ依リテ生スル法律關係ナルカ故ニ對人的效力ヲ有スルニ過キスシテ決シテ對物的關係ヲ生セス隨テ人ニ對シテ中斷シタル效力ノ及フヘキ範圍ハ當事者及ヒ其承繼人ニ限定セラルルヲ原則トス故ニ其效力カ當事者及ヒ承繼人以外ニ及ホス場合ニハ法律ノ特別規定ヲ要スヘキモノナリ而シテ其特別規定ハ左ノ如シ

(イ) 共有者ノ一人カ時效ノ中斷ヲ爲シタルトキハ他ノ共有者ハ之ヲ援用スルコトヲ得但共有者ニ對スル時效ノ中斷ハ地役權ヲ行使スル各共有者ニ對シテ之ヲ爲スニ非サレハ其效力ヲ生セス(第二五二條、第二八四條參照)

(ロ) 不可分債權者ノ一人カ爲シタル請求カ時效中斷ノ效力ヲ生スルトキハ他ノ債權者モ其效力ヲ援用スルコトヲ得ヘシ(第四二八條參照)

(ハ) 連帶債務者ノ一人ニ對スル履行ノ請求カ時效中斷ノ效力ヲ生スルトキハ他ノ債務者ニ對シテモ其效力ヲ主張スルコトヲ得ヘシ(第四三四條參照)

(ニ) 主タル債務者ニ對スル時效ノ中斷ハ保證人ニ對シテモ其效力ヲ生ス(第四

五七條參照

## 第四款　時效ノ停止

時效ノ停止トハ既ニ經過シタル時效期間ノ效力ヲ消滅セシムルニ非スシテ一定ノ期間時效ノ成就ヲ妨クルコトヲ謂フ隨テ時效ノ停止期間ハ之ヲ時效ノ期間ニ算入セス而シテ時效ノ停止ニハ其進行ノ中途ニ於テ或事由ノ生シタルカ爲メニ一時時效ノ進行ヲ止メ或事由ノ終了ト同時ニ先ニ經過シタル期間ヲ以テ新ニ進行スル期間ニ合算シ時效ノ成就ヲ定ムルモノトシテ民法ハ時效期間ノ滿了ノ場合ニ於テノミ其停止ヲ認メ其他ノ場合ニハ時效ノ進行ヲ停止スルコトナシ

時效ノ停止ヲ設ケタル理由ハ自己ノ過失又ハ怠慢ニ因ルニ非スシテ權利ヲ行使シ又ハ之ヲ保全スルヲ得サル場合ニ時效ヲ進行セシメ之ヲ完成セシムルトキハ其者ノ權利ヲ保護スル所以ノ途ニ非サレハナリ隨テ從來未成年者又ハ禁治產者ノ權利ハ一般ニ時效ノ進行ヲ停止セシメ其保護ヲ全ウセントシタル立



法例アリ然レトモ未成年者又ハ禁治產者ニハ法定代理人アルヲ通常トスルモノニシテ此等ノ無能力者ヲ代表シテ其權利ヲ行使シ及ヒ其保存行爲ヲ爲スヘキモノナリ故ニ若シ此法定代理人カ過失懈怠等ニ因リ時效ヲ成就セシメタルトキハ無能力者ハ法定代理人ニ對シテ之カ損害ヲ賠償スルコトヲ得ルカ故ニ一般ニ禁治產者又ハ未成年者ノ權利ニ付テ時效ノ進行ヲ停止スヘキ理由ナシ却テ之ヲ停止スルカ爲メニ或權利ヲシテ永ク不確定ノ狀態ニ在ラシムルハ法律カ時效ノ制度ヲ設ケタル趣意ニ反スルニ至ル故ニ民法ハ時效停止ノ場合ヲ制限シテ左ノ四種トセリ（第二〇六條參照）

第一　未成年者又ハ禁治產者カ時效期間滿了前六箇月內ニ法定代理人ヲ有セサリシトキ

此場合ニ於テハ未成年者又ハ禁治產者カ法定代理人ヲ有セサルカ爲メニ無能力者ニ代リテ其利益ヲ保護スル者ナク無能力者自身ハ制度上又ハ事實上其利益ヲ防衛スルコトヲ得サルカ故ニ法律ハ相當期間內ニ時效ノ完成スルコトヲ止メ其權利ヲ保護セリ即チ未成年者又ハ禁治產者カ法定代理人ヲ有セサルヲ

ト、時效ノ期間ハ遲クトモ六箇月內ニ滿了スヘキコトノ二要件ヲ具ヘタルトキハ時效ノ進行ハ停止セラルルモノニシテ其停止スヘキ事由ハ此者カ能力者トヽリ若クハ法定代理人カ就職シタル時ヨリ六箇月間繼續スルモノナリ隨テ未成年者又ハ禁治產者カ法定代理人ヲ有セサルコトアリト雖モ時效期間六箇月內ニ滿了セサルトキハ時效ノ進行ハ毫モ停止セラレス又未成年者若クハ禁治產者カ他人ニ對シテ完成スヘキ時效ハ之カ爲メニ其進行ヲ停止セラルルコトナシ(第一五八條獨逸民法第二〇六條參照)

第二　無能力者カ其法定代理人ニ對シ權利ヲ有スルトキ又ハ妻カ夫ニ對シテ權利ヲ有スルトキ

無能力者カ其法定代理人ニ對シテ有スル權利ハ代理關係ノ繼續セルニ拘ハラス時效ニ因リテ消滅スルモノトスルトキハ法定代理人ハ故意ニ其權利ヲ行使セスシテ時效ヲ完成セシメ之カ爲メニ無能力者ノ失權ヲ生セシムルコトナシトセス故ニ後見ノ關係、無能力者ノ財產管理ノ關係ノ繼續セル間ハ時效ヲ完成セシメ、スシテ後任後見人又ハ能力者ト爲リシ者ヲシテ時效ニ罹ラシムルト否

トヲ決定セシムルカ爲メニ必要ト認メタル期間即チ無能力者カ能力者ト爲リ又ハ後任ノ法定代理人カ就職シタル時ヨリ六箇月內ハ時效ノ完成ヲ停止スルモノナリ又妻カ夫ニ對シテ有スル權利ハ夫婦關係ノ存續セル間ニ時效ニ罹ラシムルトキハ夫ハ妻ニ對シテ有スル許可權又ハ夫權ヲ濫用シテ其不利益ヲ圖ルコトナシトセス故ニ此權利ハ結婚ヲ解消シテ夫權ノ羈絆ヲ脫シテヨリ六箇月ヲ經過セサレハ時效ニ因リテ消滅セサルモノトセリ法文ニハ無能力者カ法定代理人ニ對シテ有スル權利又ハ妻カ夫ニ對シテ有スル權利ト限定セルカ故ニ法定代理人カ無能力者ニ對シテ有スル權利又ハ夫カ妻ニ對シテ有スル權利ハ同條ニ包含セサルモノニシテ此等ノ權利ニ對シテハ時效ノ進行停止スルコトナシト解釋セサルヘカラス(第一五九條)

第三　時效ニ罹ルヘキ權利カ相續財產ニ關スルトキ

相續ハ場合ニ依リテハ裁判確定セサレハ相續人ノ確定セサルコトアリ又相續人曠缺ノ爲メニ管理人ヲ選任シ相續財產ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトアリ或ハ相續財產ニ付テ破產ノ宣告ヲ受クルコトアリ然ルニ相續財產ニ付テ相

續人確定セス又ハ管理人若クハ破產管理人ノ選任アラサルニ拘ハラス時效ヲシテ完成スルモノトセハ權利ノ保存行爲ヲ爲スヘキ者ナキ合場ニ其權利ハ既ニ時效ニ因リテ消滅スルニ至リ無能力者カ法定代理人ヲ有セサリシ場合ニ無能力者ニ對シテ時效カ完成スルト同樣ナルカ故ニ之ニ對シテ時效ノ停止ヲ認メ其權利ヲ保護セリ隨テ法律ハ相續財產ニ付テ保存行爲ヲ爲スコトヲ得ヘキ者即チ相續人ノ確定シタルカ其財產ノ管理人カ選任セラレタルカ又ハ破產ノ宣告アリテ破產管財人ノ定マリタル時ヨリ六箇月內ハ時效ハ成就セサルモノトセリ(第一六〇條第一〇五二條商法第一七〇條參照)

第四　時效期間滿了ノ時ニ當リ避クヘカラサル事變ノ爲メニ時效ヲ中斷スルコト能ハサルトキ

時效ハ中斷セントスルモ天災其他ノ事變ニ因リ中斷行爲ヲ爲スコト能ハサルカ爲メニ時效ヲ完成セシムルトキハ恰モ時效期間ヲ短縮スルト同樣ニシテ權利者ヲ保護スル所以ニ非ス故ニ天災戰爭等ノ事由ニ因リ時效中斷ヲ爲スコト能ハサルコト及ヒ時效期間滿了ノ時ニ當リ右等ノ事變ニ遭遇シタルコト此二要件ヲ具備スルトキハ時效ハ停止セラルルモノニシテ其停止期間ハ妨害ノ止ミタル時ヨリ二週間以內トセリ民法ニハ時效期間滿了ノ時トアルヲ以テ期間滿了前ニ起リタル事變ニシテ期間滿了ノ時ニハ中斷行爲ヲ爲スニ付テ妨害ト爲ルヘキ事變アラサルトキハ時效停止ノ效力ヲ生セサルモノナリ然レトモ第百六十一條ハ事變ノ爲メニ時效ヲ中斷スルコト能ハサル場合ニ時效ノ完成スルコトヲ停止シ之ニ依リテ權利者ノ權利ヲ保護センコトヲ目的トスルモノナルカ故ニ時效期間滿了前ニ中斷ノ行爲ヲ妨クル事變ハ止ミタリトスルモ其殘存日數ハ中斷行爲ヲ完了スルニ足ラサルトキハ尙ホ本條ノ適用ヲ受クヘキモノト解セサルヘカラス(第一六一條)

## 第三節　取得時效

取得時效ノ定義及ヒ要件

取得時效トハ法律上ノ要件ニ從ヒ一定ノ期間占有又ハ準占有ヲ爲スヲ因リテ財產權ヲ取得スル效果ヲ生スル時效ヲ謂フ從來多クノ立法例ニ於テハ所有權

以外ノ財産權ニ付テハ取得時效ヲ認メスト雖モ我民法ニ於テハ地役權ヲ除クノ外ハ苟モ財産權ナル以上ハ時效ニ因リテ之ヲ取得スルコトヲ得トセリ而シテ所有權ノ取得ニ付テハ其物ノ占有ヲ必要トスルモ其他ノ財産權ニ付テハ事實上其目的物ノ占有ヲ必要トセス唯自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ財産權ヲ行使スルコト即チ準占有ヲ爲スニ因リテ其權利ヲ取得スヘキモノナリ所有權ノ取得時效ハ同時ニ他人ノ權利ヲ消滅セシムル效果ヲ生スト雖モ他ノ財産權ノ取得ハ必スシモ他人ノ權利ヲ消滅セシムルモノニ非ス例ヘハ質權、地役權等ノ取得ハ必スシモ其目的物ノ所有權ノ得喪ニ關係ナキモノナルカ故ニ時效ニ因リテ質權ヲ取得スルモ其質權ノ目的タル物ノ上ニ行ハルル他ノ權利ハ何等ノ影響ヲ受ケサルカ如シ又舊民法ニ於テハ動産ニ關シテハ所謂瞬間時效ヲ認メタリト雖モ時效ハ時ノ經過ニ因リ權利ヲ取得セシムルモノナルカ故ニ瞬間時效ナルモノハ其觀念ニ於テ既ニ相牴觸スルヲ以テ現行民法ハ之ヲ認メス

民法ハ取得時效ニ付テハ動産ト不動産トノ區別ヲ設ケスシテ原則トシテハ二十年間一定ノ性質ノ占有ヲ爲シ所有權以外ノ財産權ニ付テハ同一期間一定ノ性質ノ準占有ヲ爲スニ因リ其權利ヲ取得スヘキモノトセリ即チ取得時效ハ第一、法定ノ期間ヲ經過シタルコト第二、一定ノ性質ノ占有ヲ繼續セルコトノ二要件ヲ備ヘサルヘカラス

第一、法定ノ期間ヲ經過シタルコト

取得時效ニ必要ナル期間ハ占有又ハ準占有ヲ始メタルヨリ二十年ヲ通則トス然レトモ占有又ハ準占有ノ始メ善意ニシテ且過失ナキトキハ其期間ハ十箇年ニ短縮セラルルモノニシテ其期間ノ經過ニ因リ所有權又ハ所有權以外ノ財産權ヲ取得スルコトヲ得ヘシ

第二、一定ノ性質ノ占有ノ繼續スルコト

占有トハ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ物ヲ所持スルコトヲ謂フ即チ占有ニハ第一ニ物ノ所持第二ニ自己ノ爲メニスル意思ノ二要件ヲ必要トス此ノ如ク占有ニハ物ノ所持ヲ必要トスルカ故ニ有體物ニ付テハ占有アリト雖モ權利ニ付テハ占有ナルモノナシ故ニ法律ハ特別ノ規定ヲ設ケ即チ準占有ナルモノヲ認

メ權利ノ行使ヲ以テ有體物ノ占有ニ倣ヒ占有ニ關スル規定ヲ準用セリ(第二〇五條參照)

次ニ一定ノ性質ヲ有スル占有トハ單ニ占有ナル事實ヲ以テ足レリトセス法定ノ要件ヲ具ヘタル占有ナルコトヲ要スルモノナリ即チ左ノ如シ

(イ)　所有ノ意思ヲ以テ占有スルコトヲ要ス　時效ニ導ク占有ハ所有ノ意思ヲ以テスルコトヲ要スルモノニシテ若シ此意思ナキトキハ時效ハ完成スルコトナシ又始メ所有ノ意思ナクシテ占有シタル場合ハ單ニ自己ノ意思ヲ改ムルヲ以テ足レリトセスシテ自己ニ占有ヲ爲サシメタル者ニ對シテ所有ノ意思アルコトヲ明示スルカ又ハ新ナル權原ニ因リテ所有ノ意思ヲ以テ占有ヲ始ムルニ非サレハ占有ハ其性質ヲ變スルモノニ非ス(第一七五條參照)是レ羅馬法以來當事者ハ自ラ占有ノ原因ヲ變更スルコトヲ許サス」トノ原則ニ基クモノナリ所有權ニ付テハ右述ヘタルカ如シト雖モ其以外ノ財產權ニ付テハ所有ノ意思ヲ必要トスル理由ナキヲ以テ單ニ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ其權利ヲ行使スルヲ以テ足レリトス

其法意ハ違法ノ攻擊ヲ云フニ在ルコトヲ因其ヲ疑フ餘地ナシ二百十正論二曰

三　刑法第三百十五條第二號ニ規定スル危急防衛ハ刑法第三百十五條第二號ニ規定シテ曰ク盜犯ヲ防止シ又ハ盜賊ヲ取還セントシ已ムコトヲ得サルニ出テ人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ論セスト即チ此種ノ危急防衛ノ成立スルニハ盜犯ヲ防止セントスルコト又ハ盜賊ヲ取還セントスルコトヲ以テ足レリトス盜犯トハ單ニ强盜竊盜スルヲ指稱シテ盜賊トハ單ニ强盜竊盜ニ依リ取得セル贓物ヲ指稱ス蓋シ盜犯ノ行ハルルトキ又ハ盜賊ノ奪取セラレタルトキハ即チ現在違法ノ攻擊ヲ受クルトキニシテ此場合ニ於テ已ムコトヲ得サル防衛行爲ヲ爲シタル者ハ其罪ヲ論セラルルコトナキナリ

四　刑法第三百十五條第三號ニ規定スル危急防衛　刑法第三百十五條第三號ニ規定シテ曰ク夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入リ若クハ門戸墻壁ヲ踰越損壞スル者ヲ防止セントシ已ムコトヲ得スシテ人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ論セスト即チ此種ノ危急防衛ハ(1)夜間人ノ住居シタル邸宅ニ入ル者アルコト又ハ夜間門戸墻壁ヲ踰越損壞スル者アルコト(2)違法ニ侵入又ハ踰越損

境ナルコトヲ必要トス而シテ此等ノ要件ハ何タルヤハ上來ノ說明ヲ參酌シテ自ラ知悉シ得ベシト信ス

此ノ如ク刑法ハ煩鎖ナル規定ヲ設ケ危急防衛權ヲ生スヘキ場合ヲ定メタト雖モ要スルニ其危急防衛權ヲ生スヘキ攻擊ヲ自己又ハ他人ノ生命又ハ身體(第三一四條)財產(第三一五條第一號第二號)及ヒ家宅安(第三一五條第三號)ニ對スルモノニ限定シタルノミナラス其用語モ亦法律的明確ヲ缺クカ如シ到底不當ノ立法タルヲ免レス刑法改正案ハ廣ク晩近ノ成例ト學說トヲ參酌シ第四十六條ニ於テ規定シテ曰ク「急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ云云」ト即チ危急防衛權ハ(1)自己又ハ他人ノ法物ニ對シ攻擊ヲ受クルコト(2)不正ノ攻擊ナルコト(3)急迫ノ攻擊ナルコトノ要件ヲ具備スル場合ニ於テ生スルモノト爲シタリ即チ危急防衛權ヲ生スヘキ場合ヲ一層開張シ此等ノ場合ニ共通スル一般ノ要件ヲ規定シタルモノトスニ

第二　危急防衛權ノ範圍

刑法第三百十四條ニ曰ク「云云正當ニ防衛シ已ムコトヲ得サルニ出テ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ論セス」ト第三百十五條ニ曰ク「云云已ムコトヲ得サルニ出テ人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ論セス」ト云フ單ニ人ヲ殺傷シタル者ハト云フトキハ單ニ攻擊者ノミナラス第三者ヲモ包含スヘシト雖モ刑法ノ主義ハ第三百十五條ノ場合ニ於テモ暴行者、盜者、踰越者損壞者等ノミヲ意味スル者ト解セサルヘカラス然ラハ刑法ノ承認スル危急防衛行爲ノ範圍ハ防衛上已ムコトヲ得スシテ單ニ攻擊者ノ生命ヲ絕チ又ハ身體ヲ傷害スルコトニシテ

(1)　攻擊者以外ノ者ニ對スル行爲ハ之ヲ危急防衛行爲ト爲サス然レトモ多クノ場合ニ於テハ或危急狀況行爲タルヘシ

(2)　自由剝奪名譽毀損財產ノ毀損又ハ傷害等ノ行爲ハ暴行者ニ對シテモ之ヲ爲スコトヲ得ス予ハ何カ故ニ殺傷ノミヲ許シ此種ノ行爲ヲ禁シタルヤヲ解スルニ苦ム刑法改正案第四十六條ハ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ之ヲ罰セスト規定ス即チ身體、生命ニ對スルト名譽、自由財產ニ對スルトヲ區別セス全然其行爲ヲ罪ト爲サヽルモノトス是レ獨逸刑法其他進步セル晩近ノ刑法ノ皆採用シタル主義ニ外ナラス

防衛上已ムコトヲ得サル行爲トハ攻擊ヲ避クル爲メ必要ナルヤ否ヤニ依リテ之ヲ定ム故ニ攻擊セラルル法物ト傷害スヘキ法物トノ價値ヲ考量スルコトヲ要セスシテ攻擊力ノ强弱ニ著眼スルコトヲ要ス而シテ其攻擊力ノ强弱即チ危急防衛行爲ナリヤ否ヤハ十六條ノ規定ニ出ツルモノナルヲ以テ今爰ニ之ヲ論セス第二ノ場合ニ於テハ刑法第三百十六條ノ規定ヲ適用セサルヘカラス刑法第三百十六條ノ規定ハ一般宥恕減輕ノ事由ヲ闡スルモノニシテ罪責除却事由ニ非サルヲ以テ其說明ハ之ヲ科刑論ニ讓ルモ亦本論ニ於テ說明セリト雖モ「マ

(1) 被攻擊者ノ主觀的ニ決スヘシト爲ス者アリ

(2) 客觀的ニ決スヘシト爲ス者アリ

予ハ通說ニ從ヒ客觀的ニ決スヘシト爲スト雖モ客觀的判斷ヲ爲スニ付テハ被攻擊者ノ身分其他主觀的事情ヲモ參酌スヘキコトハ勿論ナリ而シテ此意義ニ於ケル客觀的觀察ニ依リ防衛上已ムコトヲ得サル行爲即チ攻擊ヲ避クルニ必要ナル行爲ナリシトスレハ所謂逃避スル機會又ハ當該官廳ノ救助ヲ求ムル機會アリシヤ否ヤヲ區別セスシテ危急防衛權ノ不當行使ノ問題ヲ豫想セサルヘカラス危急防衛權ノ不當行使トハ危急狀況權ノ不當行使ト同シク之ヲ危急防衛權ナキ場合ニ危急防衛行爲ヲ爲シタル場合及ヒ危急防衛行爲其程度ヲ超越シタル場合ニ區別シテ論セサルヘカラス第一ノ場合ニ於テハ危急狀況ニ說明セル如ク一般ノ理論ニ因リ斷定スヘキモノナルヲ以テ今爰ニ之ヲ論セス第二ノ場合ニ於テハ刑法第三百十六條ノ規定ヲ適用セサルヘカラス刑法第三百十六條ノ規定ハ一般宥恕減輕ノ事由ヲ闡スルモノニシテ罪責除却事由ニ非サルヲ以テ其說明ハ之ヲ科刑論ニ讓ルモ亦本論ニ於テ說明セリト雖モ「マ

## 第四目　補論

消極的罪態ノ說明ヲ終ルニ臨ミ猶ホ補論トシテ傷害ノ同意ノ刑法上ノ效力如何ヲ攻究セサルヘカラス「リストフ」如キハ法物ノ所屬者カ其法物ノ傷害ニ同意シタル場合及ヒ法物所屬者自身カ其法物ヲ傷害シタル特定ノ場合ニ限リ違法除却事由即チ犯罪不成立ノ事由ト爲シ「ベルチル」ノ如キハ人カ自ラ其權利ヲ廢棄シ得ル場合及ヒ人カ權利ノ廢棄ヲ他人ニ許與シ得ル場合ハ之ヲ權利者ノ意思ニ依ル權利ノ廢棄ノ場合ト爲シ此場合ニ於テハ罪ノ物體ハ其能力ヲ缺如スルモノト說明セリト雖モ「マ

イエルノ如キハ行爲者自身ニ對スル行爲及ヒ被害者ノ承諾ハ眞正ノ罪責除却事由ニ非スト明言シ「オルスハウゼン」ノ如キハ法物ノ唯一ノ所屬者自身ノ傷害及ヒ他人ノ法物ノ唯一ノ所屬者ノ同意ヲ得テ爲シタル傷害ハ唯外觀上法規ニ觸ルル如キモ精確ニ之ヲ解スレハ全然法規ニ抵觸セサルヲ以テ之ヲ違法ナラスト爲スヘキナリ故ニ其罪責ナキコト及ヒ其刑ヲ科セラレサルコトハ特殊ノ明文ヲ俟チテ後然ルニ非スト曰ヘリ蓋シ刑法ニ於テハ罪ハ原則トシテ他人ノ法物ニ對スルモノトシ常ニ人ヲ殺シ、人ヲ毆打創傷シ、人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入リ、人ヲ逮捕シ、人ヲ監禁シ、人ヲ死ニ致シ、人ヲ死傷ニ致シ、人ヲ脅迫シ、人ノ所有物ヲ竊取シ、人ヲ誣告シ、人ヲ誹毀シ等ノ語句ヲ用ヒテ他人ノ法物ニ對スルコトヲ各本條ニ規定スル罪ノ罪態ト爲セリ然ラハ法物ノ所屬者自身カ此等ノ罪ヲ行ヒタルトキハ是レ罪ノ全然成立セサル場合ニシテ違法除却ノ場合ニ非サルコト明瞭ナリト雖モ法物ノ所屬者ノ同意ヲ得テ之ヲ傷害シタル者ノ刑法上ノ處分ハ極ヲテ疑似サル問題ナリ要スルニ同意及ヒ法物ノ所屬者自身ノ行爲ノ刑法上ノ效力如何ノ問題ハ各罪ノ罪態ニ關スル問題ニシテ違法除却ニ關スル問題ニハ非ス乃チ予ハ「ヴイエルル」「オルスハウゼン」等ノ是解ニ從ヒ此等ノ問題ハ全然之ヲ各論ニ於ケル研究ニ讓ルコトヲ可ナリトス

## 第二款　罪ノ種別

### 第一　實害罪及ヒ危害罪

### 第二　公罪及ヒ私罪

罪ヲ公私ノ二ニ區別スルハ唯沿革上ノ價値アルノミニシテ理論上ヨリ言ヘハ曾ニ何等ノ實益ナキノミナラス却テ沒論理的區別ナリトノ批難ヲ免ルヘカラス或ハ曰フ若シ强テ公罪、私罪ノ如キ區別ヲ認メントセハ罪ハ之ヲ私人ノ有スル法物ニ對スル罪及ヒ私人ナラサル者ノ有スル法物ニ對スル罪ニ區別セサルヘカラスト蓋シ至言ト謂フヘシ我刑法ハ罪ヲ公益ニ對スル罪、身體財產ニ對スル罪ノ二ニ區別セリ其趣旨タル公罪、私罪ヲ區別スル法制ヲ模倣スルニ在リシ

ナルヘシト雖モ其區別ハ失當ナルコトハ因リ論ヲ俟タス

## 第三　刑事的不法及ヒ警察的不法

或ハ曰ク權利ヲ傷害スル罪ハ刑事的不法ニシテ權利ヲ傷害セサル罪ハ警察的不法ナリト或ハ曰ク事物ヲ傷害スル罪ハ刑事的不法ニシテ事物ニ危險ヲ生セシムル罪ハ警察的不法ナリト或ハ曰ク警察的不法ハ警察規則ニ違背スルニ因リテ罰セラルヘキモノニシテ刑事的不法ハ其不法自體ニ因リテ罰セラルヘキモノナリト或ハ曰ク警察的不法ハ即決例ニ因リ處分スルコトヲ得ルモノニシテ刑事的不法ハ裁判所ノミニ依リ裁判セラルヘキモノナリト要スルニ此種ノ定義ハ皆刑事上ノ不法ト警察上ノ不法トノ眞正ノ區別ヲ指示スルモノニ非ス夫レ二者ノ區別タルヤ其性質上極メテ曖昧ナルモノニシテ殆ト之ヲ明確ニ區別シ難キノミナラス之ヲ區別スルモ現行刑法ノ下ニ於テ何等實益アルニ非スト雖モ此區別ヲ知ルニ非ヅレハ事實上ノ不便少シトセス是レ學者カ二者ノ區別シ難キニ拘ハラス其區別ヲ明確ナラシメンコトヲ努ムル所以ナリ或ハ曰ク刑事的不法ハ重要ナル法制ヲ傷害スルモノニシテ警察的不法ハ重要ナラサル法制ヲ傷害スルモノナリト或ハ曰ク刑事的不法ハ法律上ノ效用ヲ有スルモノニシテ警察的不法ハ形式的效用ヲ有スルモノ即チ單純ナル規則違反ナリト此等ノ學說ハ稍ヤ事物ノ正鵠ヲ得タルモノト謂フヘク二者ノ眞正ノ區別ハ刑事的不法ハ主トシテ實質的ノ效用ヲ有シ警察的不法ハ第一次ニ形式的ノ效用第二次ニ實質的ノ效用ヲ有スト云フニ在ルカ如シ

## 第四　通常罪及ヒ結果罪

結果罪ニ廣狹ノ二義アリ狹義ノ結果罪トハ上述シタル結果罪ニシテ間接ノ結果ヲ無條件ニ即チ絕對ニ罰スル罪ヲ謂ヒ廣義ノ結果罪トハ總テ間接ノ結果ヲ罰スル罪即チ過失罪及ヒ狹義ノ結果罪ヲ謂フ而シテ通常罪過失罪及ヒ狹義ノ結果罪ノ何タルヤニ付テハ前ニ述ヘタルヲ以テ再ヒ之ヲ贅セス

## 第五　所謂身分罪

所謂身分罪トハ特別ノ身分ヲ有スル者ノミ犯シ得ヘキ罪ヲ謂ヒ一般人民ノ犯シ得ヘキ罪ニ相對ス

## 第六　特別ノ情狀ノ存スル罪

特別ノ情狀ノ存スル罪ト同二罪ト同種ナルニ拘ハラス情狀ノ輕キ罪又ハ情狀ノ重キ罪ヲ謂フ

## 第七　複雜罪又ハ結合犯

數箇ノ罪ト爲リ又ハ爲ラサル行爲ヨリ成ル罪之ヲ複雜罪ト謂ヒ單ニ一箇ノ行爲ヨリ成ル罪ニ相對ス

## 第八　刑法典ニ規定セル法規ニ違背スル罪及ヒ單行刑法規ニ違背スル罪

刑法第五條ニ曰ク「此刑法ニ正條ナクシテ他ノ法律規則ニ刑名アル者ハ各其法律規則ニ從フ若シ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケサル者ハ此刑法ノ規則ニ從フ」ト又明治十四年十二月第七十二號布告諸罰例處斷方第六條ニ曰ク「法律規則中罰令アリト雖モ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依リテ處斷ス」ト然ラハ我刑法ノ主義ハ新法ヲ以テ同一ノ事項ニ關スル舊法ヲ廢止セシムルニ在リテ刑法典ニ規定セル法規ヲ以テ刑法施行前ニ存在セル單行刑法規ニシテ刑法典ニ規定セル法規ト同一ノ事項ヲ規定セルモノヲ廢止シ刑法施行後ニ發生セル單行刑法規ヲ以テ同一ノ事項ヲ規定セル刑法規ニシテ刑法典中ニ在ルモノヲ廢止スヘキナリ換言スレハ我刑法ハ

第一　刑法施行前ニ存在セシ刑法規カ刑法典ニ規定セル法規ト同一ノ事項ニ關スルトキハ其事項ニ付テハ刑法典ニ規定セル法規ヲ適用ス

第二　刑法典ニ正條ナキ事項ニ付キ刑法ノ施行前ニ存在セシ刑法規ニ正條アルトキハ其事項ニ付テハ單行刑法規ヲ適用ス

第三　刑法ノ施行後ニ發生セル單行刑法規カ刑法典ニ規定セル法規ト同一ノ事項ニ關スルトキハ其事項ニ付テハ單行刑法規ニ規定セル法規ヲ適用ス

第四　刑法典ニ正條ナキ事項ニ付キ刑法ノ施行後ニ發生セル單行刑法規ニ正條アルトキハ其事項ニ付テハ勿論單行刑法規ヲ適用スベキモノニ屬ス

第五　單行刑法規ニ特別ノ規定ナキトキハ其刑法規カ刑法施行前ニ存在セルモノナルト然ラサルモノナルトヲ問ハス總テ刑法典ニ規定セル總則ニ從フ

但刑法施行前ニ存在セシ單行刑法規ニ特別ノ規定ナキトキト雖モ再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ハ之ヲ適用セスト雖モ其典ニ規定セル罰金ハ同一ノ事項ニ付テハ之ヲ適用スナリ罪ヲ刑法典ニ規定セル法規ニ違背スルモノ及ヒ單行刑法ニ規定セル法規ニ違背スルモノトノ二ニ區別スルニ要スルニ以上ノ實益アルニ因ルナリ

## 第九　國事罪及ヒ常事罪

國事罪及ヒ常事罪ノ區別ニ要スルニ罪ノ性質カ政治的意義ヲ有スルト然ラサルトニ在リ然レトモ學者ハ各其見ル所ヲ異ニシ其大綱ニ於テハ一致スルニ拘ハラス定義ヲ異ニセリ

## 第十　有意罪及ヒ無意罪

## 第十一　即成罪及ヒ繼續罪

即成罪トハ一ノ行爲ヲ爲スト同時ニ成立スル罪ヲ謂ヒ繼續罪トハ一ノ行爲ヲ爲シタル後多少ノ日時内其行爲ヨリ生シタル狀況ヲ存續セシムルコトニ因リテ成立スル罪ヲ謂フ刑法ハ即成罪ヲ規定スルコト多ク繼續罪ヲ規定スルコト少シ而シテ監禁スル行爲ヲ爲シタル後多少ノ日時内其監禁ナル狀況ヲ存續セシムルニ因リ成立スル第二百七十八條及ヒ第三百二十二條ノ罪ノ如キハ所謂繼續罪ナリトス

## 第十二　作爲罪及ヒ不作爲罪

不作爲罪ハ或ハ純不作爲犯又ハ固有ノ不作爲犯ト稱ス

## 第十三　重罪及ヒ違警罪

刑法第一條ニ曰ク「凡ソ法律ニ於テ罰スヘキ罪別テ三種ト爲ス」一、重罪二、輕罪三、違警罪」ト同第七條ニ曰ク「左ニ記載シタル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス」一、死刑二、無期徒刑三、有期徒刑四、無期流刑五、有期流刑六、重懲役七、輕懲役八、重禁獄九、輕禁獄」ト又同第八條ニ曰ク「左ニ記載シタル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス」一、重禁錮二、輕禁錮三、罰金」ト又同第九條ニ曰ク「左ニ記載シタル者ヲ以テ違警罪ノ主刑ト爲ス」一、拘留二、科料」ト而シテ刑法ハ此規定以外別ニ重罪、輕罪及ヒ違警罪ヲ區別スル標準ヲ定メサルヲ以テ重罪トハ第七條ニ記載シタル主刑ヲ科セラルヘキ行爲ヲ謂ヒ輕罪トハ第八條ニ記載シタル主刑ヲ科セラルヘキ行爲ヲ謂ヒ又違警罪トハ第九條ニ記載シタル主刑ヲ科セラルヘキ行爲ノ謂ナリト解セサルヘカラス或ハ曰ク罪アリテ而シテ刑アリ罪ノ重輕先ツ定マリテ而シテ後刑ノ重輕ノ區別アルヘシ罪ノ重輕及ヒ違警ヲ區別スルニ其標準ヲ刑名又ハ刑度ニ求ムルハ疑問ヲ以テ疑問ニ答フルノ嫌ナキニ非スヤト予ハ論者ノ說ノ正當ナルコトヲ信ス即チ立法論トシテハ若シ此種ノ區別ヲ爲ス必要アリトセハ其區別ノ標準ハ必ス之ヲ刑名又ハ刑ノ分量ニ採ラサルコトヲ期セサルヘカラス然レトモ刑法ノ解釋トシテ刑法ノ法制ヲ辯護セントセハ尙ホ此批難ヲ辯解スルニ足ルヘキ餘ナキニ苦マス蓋シ立法者ノ刑ノ重輕ヲ定ムルニ當リテハ其心裡ニ於テ罪ノ重輕ヲ區別セルコト疑ヲ容レス立法者カ先ツ其心裡ニ於テ罪ノ重輕ヲ區別シ其重輕ニ應シテ別異ノ刑名又ハ分量ヲ有スル刑ヲ科セリトス然ラハ後ニ刑法ヲ研究スル者ハ其重罪輕罪及ヒ違警罪ヲ區別スルニ刑名又ハ刑ノ分量ヲ標準トスルモ何ノ不可カ之アラン然レトモ是レ唯以テ現行ノ法制ニ對スル批難ヲ免レシムルニ足ルノミ畢竟其惡立法タルコトヲ表白スルニ過キス然リ刑法ハ其科セラルヘキ主刑ニ依リテ重罪輕罪違警罪ヲ區別ス然レトモ刑法ハ同時ニ種種ノ加重減輕ノ法制ヲ認メ刑法各本條ノ規定トシテハ一定ノ主刑ヲ科セラルヘキ行爲ト雖モ裁判ノ際其主刑ヲ加重輕減セラルルコトアリ然ラハ上ニ述ヘタル主刑ヲ科セラルヘキ行爲トハ刑法各本條ニ定メタル主刑ヲ科セラルヘキ行爲ナリヤ又ハ刑法各本條ニ定メタル主刑ヲ加重減輕シタルモノヲ科セラルヘキ行爲ナリヤニ疑ナキ能ハス或ハ曰ク刑法第九十九條ニ「犯罪ノ情狀ニ因リ總則ニ照シ同時ニ本刑ヲ加重減輕スヘキ時ハ左ノ順序ニ從テ其刑名

ヲ定ム但從犯及ヒ未遂犯罪ノ減等其他各本條ニ記載スル特別ノ加重減輕ハ其加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス」ト即チ云云ノ主刑ヲ科セラル可キ行爲トハ各本條ノ主刑ニ從犯及ヒ未遂犯罪ニ原因スル減等ヲ爲シ且各本條ニ記載スル特別ノ加重減輕ヲ爲シタルモノヲ科セラルヘキ行爲ナリト而シテ是レ現時ノ通說ナリ蓋シ刑法ハ上述ノ如ク重罪、輕罪及ヒ違警罪ヲ區別スルモ其區別ノ標準ヲ法定セス隨テ嚴格ナル解釋ヲ下ストキハ遂ニ重罪、輕罪、違警罪ノ區別ヲ爲スコト能ハサルヘシト雖モ論者ノ如ク第九十九條ノ規定ヲ援用シテ其標準ヲ附會スルハ甚シキ誤認ナリ蓋シ(一)第九十九條ノ眞意義ハ本刑ヲ加減スル順序ヲ定ムルニ在リテ本刑ノ何タルヤヲ定ムルニ在ラサルノミナラス又(二)縱令其規定ハ同時ニ本刑ノ何タルヤヲモ定メタルモノトスルモ他ニ重罪、輕罪、違警罪トハ本刑トシテ第七條乃至第九條ニ記載シタル主刑ヲ科セラルヘキ行爲ヲ謂フトノ別段ノ規定アルニ非スンハ直チニ其科セラルヘキ本刑ニ依リテ罪ノ重、輕、違警ヲ區別スルコトヲ得ス要スルニ予ハ重罪輕罪及ヒ違警罪ヲ區別スヘキ主刑ノ意義ハ唯條理ニ依リテノミ之ヲ論定スルコトヲ得ヘク刑法ノ成文ノ上ニ於テハ到底何等ノ根據ヲモ發見シ難キモノト信ス其國ニ於テ[illegible]然ラハ條理ニ依リテ論斷セル罪ノ重、輕及ヒ違警ヲ區別スヘキ主刑トハ之ヲ刑法ノ各本條ニ付テ決定スヘキカ將タ又之ヲ加重減輕シタルモノニ付テ判斷スヘキモノナルカ曰ク罪ノ重輕及ヒ違警ハ罪ノ客觀的事實ニ付テ之ヲ定ムヘシ即チ各本條ニ定メタル主刑ニ付キ法律上ノ客觀的加重減輕ヲ爲シタルモノカ第七條第八條又ハ第九條ニ記載シタル主刑ナリヤ否ヤニ依リテ罪ノ重、輕及ヒ違警ヲ區別スヘシト夫レ罪ノ客觀的事實ニ付キ其行爲者ヲ律スヘキ主刑ニ依リテ罪ノ重、輕、違警ヲ區別スヘシト爲スハ上述ノ如ク刑法上別段ノ根據ヲ有セサルヲ以テ隨テ編斷的ノ斷案タル嫌ナキニ非スト雖モ罪ノ重輕、違警ノ如キハ事物ノ本質上其客觀的事實ヨリ之ヲ觀察スヘキ主觀的事實ノ如キハ精密ナル裁判ヲ經テ始メテ定マルヘキモノ、若シ主觀的事實ヲモ參酌シテ罪ノ重、輕ヲ定メントセハ勢ヒ裁判ヲ受クタル後ニ非サレハ之ヲ區別シ難キニ至ルヘシ是レ予カ條理上罪ノ客觀的事實ニ付キ其重輕及ヒ違警ヲ定ムヘシト謂フ所以ナリ而シテ罪ノ客觀的事實トハ行爲自體ニ屬スル具體的事實ヲ謂ヒ各本條ニ定メ

タル主刑ニ法律上ノ客觀的加重減輕ニ屬スル加減ヲ爲シタルモノトハ各本條ニ定メタル主刑ニ從犯未遂犯ノ重輕及ヒ各本條ニ記載スル特別ノ減輕及ヒ各本條ニ記載シタル特別ノ加重ヲ爲シタルモノ(特別ノ加重減輕ハ總テ客觀的加重減輕ナリ)ニ外ナラサルヲ以テ予ノ立論ノ結果ハ事實上本刑トシテ科セラルヘキ主刑ヲ以テ罪ヲ重輕違警ニ區別スル說ト同一ニ歸著スト雖モ本刑トシテ科セラルヘキ主刑ニ依リテ罪ヲ重輕違警ニ區別スヘシトノ明文ナキ以上ハ此說モ亦此點ニ於テ獨斷的ナル譏ヲ免ルヘカラス然ラハ寧ロ其立論ヲ明快ナシテ初ヨリ獨斷的ノ前提ヲ揭ケテ以テ刑法ノ缺點ヲ明カニスルノ利便ナルニ若カンヤ乃チ予ハ斷案ヲ同シクスルニ拘ハラス論者ト異ナリタル論理ニ依リテ重罪輕罪違警罪ヲ區別シ第九十九條ノ如キハ之ヲ解釋ノ間接ノ資料ト爲スニ止ム罪ヲ重輕及ヒ違警ニ區別スル法制ハ其源ヲ佛國刑法ニ發シ同法ニ所謂「クリーメデリ」及ヒ「コントラバンシヨン」ハ漸次普魯西白耳義伊太利及ヒ獨逸等ノ刑法ニ輸入セラレタルモノニシテ素ト佛國裁判所構成法ノ重罪裁判所輕罪裁判所及ヒ違警罪裁判所ノ區別ニ應當スルモノナリ我國ニ於テモ舊治罪法ハ裁判所ヲ重罪輕罪及ヒ違警罪ノ裁判所ノ三ニ區別シタリト雖モ現行裁判所構成法ノ發布ト共ニ此制度ヲ全廢シタリ

## 第十四　親告罪及ヒ非親告罪

親告罪トハ罪タル行爲ヲ訴追スルニ法定セル者ノ告訴アルコトヲ要スルモノニシテ非親告罪トハ通常罪即チ檢事カ其職權ヲ以テ直チニ訴追シ得ヘキ罪ヲ謂フ而シテ告訴ノ何タルヤハ上述ノ如ク本編ノ終末ニ於テ之ヲ詳述スヘシ

## 第十五　現行犯罪及ヒ非現行犯罪

刑事訴訟法第五十六條ニ曰ク「現行犯罪トハ現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺シタル罪ヲ謂フ」ト然ラハ現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺シタル罪ハ之ヲ現行犯罪ト謂ヒ現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル以外ノ場合ニ於テ發覺シタル罪ハ之ヲ非現行犯罪ト謂フヘキナリ[illegible]然レトモ刑事訴訟法ハ尙ホ第五十七條ニ於テ「重罪輕罪ニ付キ現ニ行

犯ニ准スト規定シ第一號乃至第三號ノ場合ヲ列擧セリ然ルハ同條第一號乃至第三號ノ場合ニ該當スルトキハ所謂非現行犯罪ト雖モ之ヲ現行犯罪ニ準シ法律上同一ノ取扱ヲ爲ス特例ヲ認メタルナリ即チ性質上罪ノ現行犯ナリヤ又ハ非現行犯ナリヤヲ區別スルニハ唯刑事訴訟法第五十六條ノ規定ニ依ルヲ以テ足レリト爲スモ刑事訴訟法上罪ノ現行犯ナリヤ又非現行犯ナリヤヲ區別スルニハ刑事訴訟法第五十六條及ヒ第五十七條ノ規定ヲ標準ト爲サザルヘカラス

## 第三款　罪ノ體樣

罪ノ體樣トハ罪ノ現出スル體樣ヲ謂フ蓋シ罪ハ種種ノ體樣ニ於テ現出ス故ニ其體樣ノ全部ヲ掲記センコトハ不要且不能ニ屬スルヲ以テ左ニ其主要ナル體樣ノミニ付キ說明セントス

### 第一項　作爲犯及ヒ不作爲犯

不作爲犯ハ或ハ準不作爲犯又ハ固有ナラサル不作爲犯ト稱ス作爲不作爲ノ何タルヤハ既ニ述ヘタル所ニシテ法律上事實ヲ惹起スルコトヲ罪トスル場合即チ作爲罪ノ場合ト事實ノ發生ヲ防止セサルコトヲ罪トスル場合即チ不作爲罪トノ二アルコトモ亦上述シタル所ナリ玆ニ作爲犯不作爲犯ト云フハ作爲罪不作爲罪ノ如ク罪ノ種類トシテノ區別ニ非ス罪ノ體樣トシテノ區別ナリ換言スレハ罪ニ事實ヲ惹起スルコトヲ罰セラルルモノト事實ノ發生ヲ防止セサリシコトヲ罰セラルルモノトノ區別アルコトヲ謂フニ非スシテ罪ハ其事實ヲ惹起スルコトヲ罰セラルルモノナルト又ハ事實ノ發生ヲ防止セサリシコトヲ罰セラルルモノタルトヲ論セス事實ヲ惹起スル動作又ハ事實ノ發生ヲ防止セサル動作ニ依リテ之ヲ犯シ得ヘキコトヲ謂フナリ

第一　作爲犯　事實ヲ惹起スル動作ニ依リテ犯シ得ヘキ罪ハ唯作爲罪即チ法律カ事實ヲ惹起スルコトヲ罰スル罪ノミナリトスヒニイニ出ス

作爲罪ノ作爲犯　作爲ノ動作ヲ以テ作爲罪ヲ犯シ得ヘキコトハ物ノ本質上當然ノコトニ屬ス例ヘハ殺人ナル動作ニ依リ謀故殺罪ヲ犯ス場合ノ如シ

二　不作爲罪ノ作爲犯　不作爲罪トハ上述ノ如ク事實ノ發生ヲ防止セサル罪ナルヲ以テ若シ作爲ヲ嚴格ニ其防止スヘカリシ事實ヲ發生セシメタル動作ナリト解スルトキハ固ヨリ何ノ場合ト雖モ作爲ノ動作ニ依リ之ヲ犯シ得ヘキニ非ス但不作爲ニモ亦間接行爲者アリ得ヘキコトニ注意スヘシ

第三　不作爲犯

一　作爲罪ノ不作爲犯　不作爲ノ動作ヲ以テ作爲罪ヲ犯シ得ルヤ否ヤハ刑法上ノ一疑問ニシテ學者ノ見解一途ニ出テスト雖モ予ハ特別ノ條件ヲ具備スルトキハ不作爲ノ動作ヲ以テ作爲罪ヲ犯シ得ヘキコトヲ上述セリ然ラハ作爲罪ノ不作爲犯アリ得ルコトハ復タ玆ニ之ヲ詳述スルノ必要ナシト信ス』

二　不作爲罪ノ不作爲犯　不作爲ヲ以テ不作爲罪ヲ犯シ得ヘキコトハ恰モ作爲ヲ以テ作爲罪ヲ犯シ得ヘキ如ク罪自體ノ本然ノ性質ヨリ判明スルヲ特ニ之ヲ詳述スル價値ナシト信ス

## 第二項　間接行爲犯



夫レ人ノ動作カ事實ヲ發生セシムルヤ概チ道具又ハ器械ノ協力ニ依ルコトヲ通常トス棒ヲ以テ人ヲ毆打セリトセハ其棒ハ即チ道具ナリ鐵砲ヲ以テ人ヲ殺セリトセハ其鐵砲ハ即チ器械ナリ道具又ハ器械ノ協力ニ依リテ事實ヲ發生セシメタル者ハ固ヨリ之ヲ行爲者ナリト謂ハサルヘカラス而シテ生物ノ協力ニ依リテ事實ヲ發生セシメタル場合ニ於テモ刑法上特別ノ規定ナキ限ハ其生物ヲ道具又ハ器械トシテ使用シタリト謂ハサルヘカラス

第一　人類ノ協力ナル場合ニ於テハ左ノ區別ヲ爲ササルヘカラス

一　動作ト謂フヘカラサル行動ニ依ル協力ナル場合　例ヘハ有形的又ハ或場合ニ於テハ無形的ニ他人ヲ强制シテ行動セシメタル場合ノ如クニシテ其他人ハ之ヲ道具又ハ器械ト同一視スヘキコト勿論ナリ

二　動作ニ依ル協力ナル場合

(イ)　刑法上罪ノ主體タル能力ナキ者及ヒ刑法上犯意ノ罪責ナキ者ノ動作ニ依ル協力ナル場合ニ於テモ亦其他人ハ之ヲ道具或ハ器械ト同一視スヘキナリ

(ロ)刑法上罪ノ主體タル能力アル者及ヒ刑法上犯意ノ罪責アル者ノ動作ニ依ル協力ナル場合ニ於テハ上述セル如ク其因果關係ハ刑法上中斷スヘキヲ以テ其他人ハ之ヲ獨立ノ行爲者ト爲スヘクシテ道具又ハ器械ト同一ニ視スヘキニ非ス

(ハ)刑法上違法ヲ除却セラレサル動作ニ依ル協力アル場合ニ於テハ其上違シタル(イ)ノ場合ニ該當スルカ又ハ(ロ)ノ場合ニ當スルカニ依リテ斷定ス

異ニスヘク刑法上違法ヲ除却セラルル動作ニ依ル協力ナル場合ニ於テハ要スルニ義務又ハ權利タル動作ニ依ル協力ナルヲ以テ其(イ)ノ場合ニ該當スルカ又ハ(ロ)ノ場合ニ該當スルカヲ區別セス其ニ適法行爲ノ共犯行爲トス爲スヘクシテ其動作ヲ爲シタル者ヲ道具又ハ器械ト爲スヘカラス

第二人類以外ノ生物ノ協力ナル場合ニ於テハ例ヘハ犬ヲ使嗾シテ人ヲ傷害セシメタル場合ノ如ク固ヨリ其犬ハ之ヲ犯行ノ道具又ハ器械ト謂ハサルヘカラス

所謂間接行爲犯ニ於テ道具又ハ器械ト同一ニ視スヘキ狀況ニ於テハ人類ノ協力ニ

タ若クハ其支拂ヲ約定セシメテ捕獲ヲ免除シ得ヘキ此場合ニハ賠償證書二通ヲ作リ其一通ヲ拿捕者ニ與ヘ他ノ一通ハ船長所持シテ通航券ノ代用トシ其證書ニ指定ノ航路ニ依リ指定ノ時日間ニ歸航シ得ヘキ其約定ノ航路及ヒ期限ヲ故意又ハ怠慢ニ因リ誤マルトキハ重キテ拿捕セラルルモノトス但拿捕物ノ賠償ハ拿捕者本國ニ取リ利益ニ非サルカ故ニ歐洲諸國ハ國法ヲ以テ之ヲ禁止スト雖モ尚モ其禁止ナキ以上ハ之ヲ行ヒ得ヘキモノトス

海上ニ於テ二艘以上ノ軍艦カ共同ニ同一船舶ヲ拿捕シ若クハ陸軍ト軍艦ト共同シテ同一ノ拿捕ヲ爲スヲ共同拿捕ト稱ス此問題ハ歐米諸國ニ於テ軍艦ノ艦員カ拿捕物ノ分配ヲ受クルカ故ニ其拿捕ニ手ヲ下シタル者並ニ拿捕ヲ助ケタル者ハ分配金又ハ救助料トシテ拿捕物ノ價格ノ幾分ヲ取得スルカ故ニ例ヘハ我國軍艦ト英國軍艦トカ共同ニ敵國ノ商船ヲ拿捕スルトキハ其分配ノ問題ヲ生スヘク英國及ヒ佛國ニ於テハ其雙方乘組員ノ人數ニ應シ均一ニ分配スルコトトシ米國ニ於テハ軍艦間ノ共同拿捕ハ大砲及ヒ艦員ノ數ヲ其分配ノ標準トセリ

更ニ又再拿捕トハ交戰國一方ノ軍艦カ敵國若クハ中立國ノ艦船、載貨ヲ拿捕シタル後其拿捕物ヲ對敵國又ハ其同盟國ノ艦船カ取戻スコトヲ意味シ再拿捕ノ場合ニハ其艦船又ハ載貨カ原所有者ノ爲メニ所有ヲ回復セラルヘキヤ又ハ再拿捕者ノ所有ニ歸スヘキヤノ問題ヲ生シ現今一般ノ慣例ニ於テハ所有者カ再拿捕者ニ對シ其取戻ノ勞力ニ對スル救助料ヲ與ヘテ物品ヲ回復セラルルモノトス但其復權ハ同一戰爭中ニ再拿捕アル場合ニ限リ又敵國ニ所有權ノ移轉シテ其國家ノ使用ニ供セラレ居ル場合ニハ原所有者ニ復權スルコトナキノミナラス敵國ニ於テ正當ニ沒收シ其物件カ第三國人ノ所有ト爲リタルトキハ再拿捕ニ依リ原所有者ニ復權セス

拿捕物カ如何ナル時期ニ於テ捕獲者ニ所有權ノ移轉スルヤハ再拿捕ニ於テ最モ重要ノ關係ヲ有シ第十七八世紀ニ於テハ拿捕者カ二十四時間平穏ニ占有シタルトキニ所有權ノ移轉スルモノト爲シタルコト殆ト一般ニシテ此場合ニハ復權ヲ許ササリシカ佛國ニ於テハ千七百七十九年ノ勅令ニテ官艦カ再拿捕ヲ爲シタル場合ニ二十四時間内ナルトキハ拿捕物ノ價格三十分ノ一ヲ救助料トシ其以後ナルトキハ十分ノ一ト規定シ英國ニ於テハ縱令敵國ノ捕獲審檢所ニ於テ沒收サレタル場合ト雖モ第三國人ノ手ニ渡ラサル間ハ再拿捕ニ依リ復權ヲ許シ千八百六十四年ノ法律ニテ軍艦カ再拿捕ヲ爲シタルトキ價格ノ八分ノ一ヲ救助料トシ米國モ同一ニシテ其他諸國ニ於ケル救助料ノ割合ハ一定シタルコトナシ

## 第四節　捕獲審檢所

捕獲審檢所ノ性質ニ付キ英國法廷ノ見解ニテハ其法廷カ敵國ニ在ルト自國ニ在ルトヲ問ハス其ニ國際公法ノ法則及ヒ慣例ニ依ヤヘキカ故ニ自國ノ法律規則カ國際公法ニ矛盾スルトキハ法廷ハ決シテ國法ニ拘束セラルルコトナシトシ大陸諸國ニ於テハ捕獲審檢所ノ裁判ハ國法ニ準據シ國法ニ規定ナキ場合ニ於テノミ國際公法上ノ慣例及ヒ法則ニ依ルヘキモノトセリ然レトモ何レノ國ニ於テモ交戰國ノ義務トシテ戰爭中此裁判所ヲ開設スヘク自國ノ艦船カ海上捕獲ヲ爲シタル毎ニ必ス之ニ提出シテ其捕獲ノ正當ト否トヲ裁判スヘク總テ

拿捕物ノ裁判ハ拿捕本國ノ法廷ニ限リ之ヲ行ヒ中立國ノ法廷又ハ同盟國ニ於テ之ヲ爲スコトナク又交戰國ヨリ委任シ能ハサルモノトス自國法律ヲ以テ現行法上文明國ハ戰爭中ニ限リ必ス捕獲審檢所ヲ開設スベク其法廷ノ組織ハ各國ニ於テ任意ニ之ヲ規定シ中立國又ハ敵國ハ其裁判ノ結果カ國際公法ニ違反スル場合ニ於テノミ之ニ抗議シ得ヘキモノトス然レトモ一般ノ法則トシテ同法廷ハ戰爭ノ繼續中ニ非サレハ審判ヲ行フコト能ハス又他國ノ法廷ニ其裁判ヲ委任シ能ハサルト同時ニ中立國ノ版圖内ニ開廷スルカ若クハ同國ニ駐在スル領事官其他ノ官吏ヲシテ拿捕物ヲ裁判セシムルコト能ハサルノミナラス中立國ニ滯在スル軍艦内ニ於テモ之ヲ開廷スルコトヲ許サス必ス交戰國ノ版圖内ニ開設スヘク其國ノ殖民地又ハ征服ニ係ル敵地ニ開クモ妨ナシ又捕獲審檢所ハ之ヲ始審及ヒ終審ノ二種ニ分ツヲ普通トシ佛國ニ於テ其始審廷ノ裁判官ニハ司法省、海軍省及ヒ陸軍省ノ官吏ヲ以テシ終審ヲ元老院トシ英國ニ於テハ高等海軍裁判所カ戰爭中勅命ニ依リテ捕獲審檢所ノ職務ヲ行ヒ終審ハ樞密院ニ於テス米國ニ於テハ地方裁判所及ヒ控訴院カ始審ヲ爲シ終審ハ高等法院



ニ於テシ我國ハ明治二十七年八月二十日勅令第百七十九號捕獲審檢令ニ依リ始審及ヒ終審ノ二種ヲ置キ歐洲大陸諸國ト同シク樞密顧問官、裁判官、海軍士官竝ニ法制局及ヒ外務省官吏ヲ以テ其評定官ニ充テタリ

捕獲審檢所ノ裁判管轄ハ戰爭中自國ニ屬スル戰闘巡洋ノ艦船カ行ヒタル拿捕物ヲ悉ク審理裁判シ其拿捕ハ軍艦カ單獨ニ海上ニ於テ行ヒタルトキ沿岸ノ陸上ニ於テ取得シタルトキ又陸軍ト共同ニ爲シタルトキ間ハス戰爭中公海又ハ敵國若クハ自國ノ領海、港灣、河流ニ於テ拿捕シ又ハ敵船降服ニ依リテ取得シタル船舶、載貨竝ニ戰爭前ニ當リ報仇船舶抑留ニ因ル拿捕物ヲ審判シ再拿捕、共同拿捕、賠償證書其他之ニ附帶スル救助料及ヒ巡洋行爲ニ關スル箇人ノ損害等總テ交戰國カ海上ニ於ケル戰爭關係ノ事項ヲ悉ク裁判スルト同時ニ斯ル事項ハ他國ニ於テ之ヲ裁判スルノ權ナシ但其唯一ノ例外ハ交戰國ノ艦船カ中立國ノ領海内ニ於テ拿捕ヲ行ヒ又ハ中立國版圖内ニ於テ艤裝シタル艦船カ公海其他ニ於テ敵船ヲ拿捕シタルトキハ其國權ヲ侵サレタル中立國ニ於テ之ヲ差押ヘテ裁判シ得ヘキモノトス

捕獲審檢所ノ判決ハ拿捕ニ關スル最終裁判ニシテ拿捕者ト拿捕物所有者間ニ在リテハ其效力ハ絶對的ノモノトス隨テ其裁判ニ係ル事件ニ付キ拿捕者ハ現所有者ニ對シ他國ニ於テ何等ノ責任ヲ有スルコトナク他國モ亦同一事件ヲ再審又ハ覆審スルコト能ハス然レトモ其判決カ國際公法上不當ナルトキハ其責任ハ裁判所本國ニ屬シ被害人民ノ本國政府ニ對シテ其責ニ任スヘク此場合ニ於テ內國法ノ規定ハ抗辯ノ理由ト爲ラス又捕獲審檢所ノ裁判手續ハ各國ノ法令ヲ以テ規定スル所ナレトモ拿捕者ハ其拿捕物ノ提供ト共ニ拿捕ノ事由及ヒ其正當ヲ證スヘキ一切ノ事項ヲ記載シタル供述書ヲ證據書類ト共ニ法廷ニ出シ法廷ハ被捕船ノ艦長及ヒ海員ノ口述ヲ聞取リテ調査書ヲ作リ其審判ニ於テハ拿捕ノ正當ヲ推測セラレ拿捕物ノ所有者又ハ關係者ニ於テ其反證ヲ擧クヘク捕獲審檢所ニ於ケル審判ノ結果ニシテ若シ罰スヘキモノトスルトキハ船舶又ハ載貨ヲ沒收シ之ニ反シテ相當ノ嫌疑アリテ拿捕セラレタルモ沒收スヘカラサルモノト決定スルトキハ之ヲ放免シテ其費用ハ船舶所有者ニ於テ負擔スヘク若シ又拿捕ノ理由ナクシテ引致セラレタルモノハ拿捕者本國ニ於テ航海ノ遲延其他ノ費用ヲ負擔スヘク拿捕ノ理由アル場合ニ於テハ拿捕者ノ怠慢又ハ過失ナキ被害ニ付テハ其賠償ノ義務アルコトナシ

## 第五章　戰鬪ニ關スル法則

### 第一節　總則

交戰國ハ海陸ノ戰鬪ニ於テ敵國ニ加ヘ得ヘキ暴力ノ程度ニ付キ戰爭ノ目的ヲ達スルニ不必要ナル慘酷ヲ制限シ其兵力抵抗ヲ減殺スルニ不必要ノ苦痛ヲ與フヘキコトヲ禁セラレ戰爭ノ目的ニ反シ若クハ之ニ比例セサル暴力ノ濫用ヲ許ササルモノトス加之交戰國ハ全ク敵對ノ地位ニ立ツモノナレトモ其間ニ於テ幾分カ好誼ノ關係存スヘキハ人類社會ニ伴ヒタルノ現象ニテ古來戰爭ニ於テ必ス其形跡ノ存シ來リタルモノトス然レトモ其好誼ノ關係タル固ヨリ平和的ノモノニ非ス單ニ交戰者間ニ一時暴力ヲ中止スルニ止マルモノニシテ其好誼ヲ實行セントスルノ時期ハ雙方ノ希望ニ於テハ其便宜ニ基タニ因リ一戰爭中ニ於テ其事情ニ由リ之ヲ實行スルト否トハ交戰者ノ任意ニ在リト雖モ之ヲ

行フニ當リ其方法ニ付テハ一定ノ慣例存在シ交戰國ハ誠實ニ其實行ニ努ムヘク違反アルニ於テハ對手國ハ復仇ノ手段ニ出テ得ヘキモノトス此慣例ヲ名ケテ交戰國間ノ平和ノ交通又ハ非敵意ノ關係ト謂フヘシ

## 第二節　敵人ニ對スル加害ノ程度

平和會議ノ陸戰例規ニ於テモ交戰者ノ窘的手段ハ規律上無限ノ權力ヲ有スルコトナシト規定セル如ク敵國戰鬪者ニ對シテ加害ノ程度ハ慣例上一定セラレ居ルモノトス今戰鬪中不法トシテ國際公法上嚴禁スルモノヲ列擧セハ左ノ五種トス

第一　暗殺　戰爭ノ勝敗ハ往往敵國ノ君主若クハ敵軍ノ將帥等ノ存否ニ關スルコトアルヲ以テ昔時戰爭ニ於テ暗殺行ハレ羅馬ニ於テモ暗殺ノ種類ニ由リテハ其擧ヲ賞贊シ「グロチュース」モ暗殺ニ付キ信用ヲ害スルモノト然ラサルモノトヲ區別シ其當否ヲ論シタルモ今日ニ於テハ全ク之ヲ嚴禁シ「ブルッセル」宣言ニモ敵國又ハ軍隊ニ屬スル箇人ヲ詐術ヲ以テ殺害スルヲ禁スルトノ規定アリ



性ナルカ故ニ利息ヲ生スルノ理アラスト爲シ又中古時代ノ歐洲諸國ハ耶蘇教ニ基キテ利息ノ獲得ヲ禁セリ是レ蓋シ經典ニ利息禁止ノ章句アルト共ニ當時産業發達セス信用取引ハ主トシテ消費取引ニ屬シ利率甚タ高クシテ借主ノ負擔重カリシヲ以テ利息ヲ收ムルハ人ノ不幸ニ乘シテ暴利ヲ貪ルカ如キ觀アリシヲ以テナリ而シテ爾來世論大第ニ變移シ今日ハ敢テ利息ヲ以テ不當ト爲ス者アラスト雖モ利息ヲ以テ正當ナリト爲ス理由ニ至リテハ諸說一ナラス其最モ普通ナルモノヲ述フヘシ

抑モ資本ハ生産ヲ容易ナラシメ又ハ生産額ヲ增加スルモノタリ例ヘハ一ノ田地ニ肥料ヲ施シ灌漑ノ便ヲ設クルトキハ收獲必ス增加セン又諸種ノ工業ニ於テ强力ノ機械ヲ應用セハ製造物ノ産額增加スルニ至ラン而シテ此增加ノ主タル原因ハ之ヲ資本ニ歸セサルヲ得サルナリ此資本ヲ自ラ使用スルトキハ右ニ述ヘタル利益ハ自己ノ所得ト爲ルモ他人ニ之ヲ貸與スルトキハ己ハ其間之ヲ使用スルノ機會ヲ失フモノナルカ故ニ此犧牲ニ對シテ相當ノ報酬ヲ求ムルモ敢テ不可ナク且借主ハ資本ノ使用ヨリ生スル利益ノ全部ヲ資本所有主ニ與フ

ルモ損失ヲ招ク所以ニ非ス況ンヤ其一部ヲ於テヲヤ今日若シ利息ノ收得ヲ禁止セハ其結果ハ果シテ如何思フニ新ニ資本ヲ造出スル者減少スルノミナラス現在成立スル資本ハ能フ限リ其用途ヲ變シテ直接目前ノ欲望ヲ滿タスノ具ト爲リ而シテ現今ノ社會ニ於テハ借入資本ヲ以テ經營セラルル企業甚タ多キカ故ニ生産ハ殆ト其進行ヲ止ムルニ至ルヘキナリ

## 第二節　利息ノ高低スル理由

資本ノ種類ハ一ニシテ足ラス皆之ヲ他人ニ貸與スルコトヲ得ルモノナレトモ實際最モ多ク貸借セラルルハ貨幣ナリトス而シテ借入レタル貨幣ヲ永ク貨幣トシテ使用スル者ハ銀行業者等ニ過キス他ノ企業者ハ機械原料等ノ買入ニ之ヲ用フルモノナルカ故ニ結局機械原料等ノ資本ヲ借入レタルニ同シク隨テ他ノ資本ハ貨幣ノ媒介ヲ以テ貸借セラルルト謂フモ不可ナキナリ故ニ主トシテ貨幣ノ利息即チ金利ニ付テ述ヘント欲スルナリ

貨幣ノ貸借ハ金屬貨幣又ハ之ヲ代表スル銀行券等ノ授受ニ依リテ行ハルルノミナラス信用制度發達スルニ及ヒテハ無形的ニ存在スル貨幣ノ貸借甚タ多シトス例ヘハ甲ナル者銀行ニ就テ手形ノ割引ヲ依頼スルヤ銀行ハ直チニ之ヲ預金ト爲シ甲ハ之ニ對シ小切手ヲ振出シ以テ諸種ノ支拂ヲ爲スヲ得ルカ故ニ銀行ハ甲ニ無形ノ貨幣ヲ貸與スルモノニシテ英國等ニ於テ銀行ノ預金カ貨幣ノ存在額ヨリ遙ニ多キハ此ノ如キ原因ニ基クモノトス

貨幣ノ貸借ハ長期ナルモノト短期ナルモノトアリ長期ナルモノハ公債社債土地抵當貸付等ニシテ短期ナルモノハ手形ノ割引動産擔保貸付ノ如キ是ナリ此區別ヲ爲ス所以ハ他ナシ利息ノ割合及ヒ其變動ノ狀態異ナレハナリ

先ニ述ヘタルカ如ク利息ハ資本使用ノ代價ニ外ナラサルヲ以テ其割合即チ利率ハ資本ノ需要供給ノ關係ニテ高低スルモノトス而シテ利率ハ多クハ年分ヲ以テ表示シ我國ニ於テハ日歩ヲ用フル場合少カラストス

先ツ長期貸借ノ利率ニ付キ之ヲ觀ルニ資本ノ供給者ハ自ラ其資本ヲ使用スル意思又ハ能力ナキ人ニシテ需要者ハ國家市町村會社農業者等ナリトス需要者カ世人ヨリ受クル信用大ナルニ於テハ此種ノ貸借ニ附帶スル利息ハ所謂保險

料ノ含蓄スルコト甚タ少タ或場合ニハ殆ト純利息ト謂フモ不可ナキナリ其實例ハ財政鞏固ナル諸國ノ公債ニシテ英國政府ノ公債ノ如キ其最モ顯著ナルモノトス其他市町村ノ公債モ政府ノ公債ニ比スレハ其利率多少高タ社債ニ至リテハ殊ニ然リトス是レ純利息以外ニ所謂保險料ヲ含蓄スルヲ以テナリ又土地ハ長期貸借ノ擔保ニ適スルモノニシテ隨テ土地貸借ニ對スル利率ハ保險料ヲ含蓄スルコト少タ其變動モ亦激シカラストス[illegible]又其總合[illegible]次ニ短期貸借ノ利率ヲ觀ルニ其高低ハ短期ノ放下ヲ要スル資本ノ供給ト手形ノ割引等短期ナル資本ノ需要トノ關係ニ依リテ定マルモノトス即チ此種ノ資本增加シテ需要之ニ伴ハサルトキハ利率低落シ割引等ノ需要增加スルモ資本ノ增加之ニ應セサレハ利率ハ上騰スルモノナリ又割引等ノ需要增加セサルモ流通資本減少スレハ利率上騰シ資本增加セサルモ割引等ノ需要減少スレハ利率ハ低落セサルヲ得サルモノナリ而シテ資本ノ需要供給ハ種種ナル原因ニ依リテ增減スト雖モ要スルニ一定ノ市場ニ於テ一定ノ時期ニ當リ利率ヲ定ムルモノハ流通資本ノ供給ト需要トノ關係ナリス而トシテ其關係ノ變遷ニ依リ利



率ハ如何ニ上騰シ如何ニ低落スルカヲ觀ルニ結局利率ハ借主カ其借入レタル資本ヲ使用シテ獲得スル利益以上ニ永タ止マルコトヲ得サルモノナリ又短期貸借ノ利率ニシテ非常ニ低落スルトキハ資本ノ一部ハ轉シテ長期ノ貸借ニ用ヒラレ又ハ外國ニ流通シテ以テ供給ヲ減シ而シテ他ノ一方ニ於テハ利率低落ノ爲メニ企業ノ勃興ヲ來シ資本ノ需要自ラ增加スルヲ以テ利率ハ再ヒ上騰スヘキナリ短期ノ貸借モ其利率ニ差異アリ而シテ優等ナル手形ノ割引歩合最モ低ク動產擔保貸付ハ少シク高率ナルハ保險料ヲ含蓄スルノ多少ニ由ルナリ資本ハ利息ノ低キ地ヲ去リ其高キ地ニ赴クノ傾向ヲ有スルハ理論上疑ナシト雖モ實際ニ於テハ種種ノ障害アリテ十分ニ行ハレサルモノトス例ヘハ露國ニ於ケル長期貸借ノ利率ハ遙ニ他ノ歐洲諸國ニ於ケルヨリ高タ北米合衆國ノ東部ニ於テハ利率低キモ西部ニ於テハ甚タ高シト云フ又獨逸ノ割引歩合ハ英國ノ割引歩合ヨリモ高タ又露國ノ割引歩合ハ獨逸ノ割合歩合ヨリモ高シト云フ翻テ我國ノ利率ヲ觀ルニ公債ノ利率年五分ヲ下ラス割引歩合ハ通常日本銀行ノ公示歩合最モ低シト雖モ之ヲ倫敦等ニ於ケル利率ニ比スレハ非常ノ差異ア

リトス是レ全ク長期ノ放下ヲ希望スル資本及ヒ短期ノ借出ニ供給セラルル資本共ニ豐富ナラサルニ職由セスンハ非ス長期貸借ノ利率ト短期貸借ノ利率トヲ比較スルニ前者ハ其變動緩慢ニシテ後者ハ激甚ナリトス是レ蓋シ短期貸借ニ用ヒラルル資本ハ需要供給共ニ其變動急速ナルニ反シ長期貸借ニ用ヒラルル資本ハ需要供給ノ變移徐徐タレハナリ

## 第三節　利息低落ノ趨勢

以上述ヘタルカ如ク利息ハ需要供給ノ關係ニ依リテ時時變動スルモノナレトモ社會ノ進歩ニ伴ヒテ次第ニ低落スルノ傾向アルモノトス蓋シ經濟上ノ發達尚ホ低キ時代ニ於テハ資本ノ增殖緩慢ニシテ一般ニ資本ノ少キノミナラス法律未タ完備セス信用制度未タ發達セサルヲ以テ資本ヲ貸與スル念慮微弱ニシテ且之ヲ行フ場合ニ乏シク隨テ資本ノ貸與ハ少カラサルヲ得サルナリ之ニ反シテ社會進歩スルトキハ資本ノ增殖ト共ニ右ニ述ヘタルカ如キ障害除去セラルルヲ以テ貸借ニ供セラルル資本次第ニ增加シ利息モ亦之ニ從ヒテ低落スルモノトス然リト雖モ利息ノ低落ヲ抑留スル原因ナキニ非ス例ヘハ利潤多キ資本ノ用途俄ニ生シテ資本ノ需要增加スルカ如キ是ナリ近時諸國ニテ國家ヲ始トシテ市町村ニ至ルマテ多額ノ公債ヲ募集セルコト又利息ノ低落ヲ妨クル一原因ト爲レリ又交通ノ發達ニ依リテ外國ニ資本ヲ放下スル機會增加シ資本ノ豐富ナル國ハ皆之ヲ行フカ故ニ是レ亦利息ニ影響ヲ及ホスヤ必セリ然レトモ利息ノ低落スルハ自然ノ大勢ニシテ之ヲ歐洲ノ歷史ニ徵スルニ其然ルヲ見ルナリ

利息低落ノ趨勢ハ今後猶ホ持續スルモノトセハ果シテ如何ナル程度マテ行ハルルモノナルヤ或ハ曰ク利息ノ非常ナル低落ハ資本ノ蓄積ヲ妨クルカ故ニ利息ノ低落ニモ自ラ制限アリトスト利率ノ高キハ多少貯蓄ヲ奬勵スルコト疑ナシト雖モ將來ニ對スル念慮發達スルニ於テハ利率ノ如何ニ拘ハラス依然貯蓄ヲ廢止セサルノミナラス利率ノ低落スルニ當リテ從來ト同一ノ所得ヲ得ントスルトキハ從來ヨリモ多額ノ資本ヲ要スルカ故ニ利率ノ低落ハ消極的ニ貯蓄ヲ促ス所以ナリトス而シテ利率ノ低落ハ資本ニ依賴シテ座食スル者ノ所得ヲ

減スレトモ企業者ヲシテ容易ニ他人ノ資本ヲ使用スルコトヲ得セシメ以テ產業ノ發達ヲ促シ且財貨分配ノ甚ハキ不平均ヲ矯正スル效アルカ故ニ利息ノ低落ハ社會全般ノ爲メニ喜ブヘキモノナリトスル

## 第五章　利潤

### 第一節　利潤ノ意義

企業者カ企業ヲ爲スヤ多クハ他人ノ土地資本、勞働ヲ用フルモノニシテ大規模ノ企業ハ殊ニ然リトス而シテ生產結了ノ際生產ノ結果即チ生產物ノ賣上高ヨリ土地ノ所有者ニ支拂ヒタル地代、資本主ニ支拂ヒタル利息、勞働者ニ支拂ヒタル賃銀其他原料運搬等ニ要セル諸種ノ費用ヲ控除シタル後ニ殘留スルモノハ即チ企業者ノ所得ニ歸スルモノニシテ是レ即チ總利潤ナルモノナリ此總利潤ハ左ニ揭クル原素ノ全部若クハ一部ヲ包含スルモノトス

第一　地代　他人ノ土地ヲ使用スルノ有無ヲ問ハス苟モ企業者カ自己ノ土地ヲ使用スルトキハ總利潤ノ一部ハ地代ノ性質ヲ帶フルモノトス

第二　利息　企業者カ自己ノ資本ヲ使用セルトキハ之ニ對シテ利息ヲ得サルヘカラス株式會社ノ株主カ獲得スル利益配當金ノ如キハ此原素ヲ含ムコト甚タ多シトス

第三　賃銀　企業者自ラ勞働スルトキハ己モ亦相當ノ賃銀(廣義)ヲ領收スヘキモノトス而シテ小企業ニ於テハ企業者ハ其雇入レタル勞働者ト殆ト同一ノ勞働ニ從事スルカ故ニ此種ノ企業者ノ總利潤ハ賃銀ノ性質ヲ有スル部分甚タ多シ之ニ反シテ株式會社ノ株主ノ獲得スル利益配當金ノ如キハ全ク此原素ヲ缺クト謂フモ不可ナキナリ

第四　純利潤　世上普通ノ割合ヲ以テ以上列記セル地代、利息及ヒ賃銀ヲ計算シテ之ヲ總利潤ヨリ控除シテ殘留スル部分ヲ純利潤ト稱ス是レ即チ企業者カ企業者トシテ受クル報酬ナリ之ヲ換言スレハ企業者カ損失ノ危險ヲ冒シ生產ノ三要素ヲ結合スルコトニ對シテ受クル報酬ナリトス

總利潤ニ包含セラルル地代、利息、賃銀タルヘキ部分ハ普通ノ地代、利息、賃銀ト全ク同一ナルモノニ非ス即チ普通ノ地代、利息、賃銀ハ多クハ生產ノ半途又ハ著手

前ニ支拂ハルルモノニシテ企業成敗ノ影響ヲ直接ニ蒙ルコトナキニ反シ總利潤ニ包含セラルル地代利息賃銀ハ生產結了ノ後始メテ企業者ノ取得スル所ニシテ企業失敗スルトキハ純利潤ヲ得サルノミナラス地代利息賃銀タルヘキ部分モ亦蠶食セラレテ皆無ニ歸スルコトアルヘシ純利潤ハ次節ニ於テ之ヲ說明セン

## 第二節　純利潤

抑モ人ノ企業ヲ爲スヤ其主タル目的ハ純利潤ヲ得ント欲スルニ在リ若シ夫レ純利潤ヲ得ルノ希望ナクンハ其土地資本勞働ヲ他人ノ使用ニ供シテ普通ノ地代利息賃銀ヲ得ルニ如カサルナリ然レトモ企業ハ必スシモ成功スルモノニ非ス佛國ノ經濟學者「ボーリュー」曰ク十人ノ企業者アリトセハ非常ノ窮境ニ陷リ甚シキハ遂ニ破產スルニ至ル者二三其資產ヲ守リテ失ハサル者又ハ僅ニ之ヲ增殖スル者ハ五六而シテ巨萬ノ富ヲ積ムニ至ル者ハ甚タ稀ニシテ多クモ一二人ニ過キサルナリト而シテ企業中他ノ同業者ニ比シ多大ノ純利潤ヲ得ル者アル所以ハ何ソヤ左ニ主タル原因ヲ述ヘン

第一　企業者ノ才能　同種ノ企業ヲ行フニ當リ之カ經營ニ要スル才能ハ略ホ相等シキカ故ニ普通ノ利潤ヲ得ント欲セハ普通ノ才能ニシテ足レリ然レトモ才能ノ超絕スル者ニ至リテハ或ハ機械ヲ發明シ或ハ企業經營ノ方法ヲ改良シ或ハ廉價ナル原料ヲ買入ルル等一方ニ於テ生產費ノ減少ヲ圖リ他ノ一方ニ於テ或ハ販路ヲ擴張シ或ハ時運ヲ利用スル等賣上金額ノ大ナルヲ致スカ故ニ他ノ同業者ニ比シテ其利潤必ス大ナリトス之ヲ喩フレハ豐饒ナル土地カ多大ノ地代ヲ生スルカ如キヲ以テ此原因ヨリ生スル利潤ヲ或ハ才能ノ「レント」ト稱スルナリ而シテ此才能ハ或ハ敎育ニ因リ或ハ天賦ニ基クト雖モ多クハ後者ニ屬スルモノトス曩ニ企業ヲ說クニ當リ大企業者ハ經濟社會ノ將帥ナリト言ヒタリシカ才能ノ卓超セル企業者ハ實ニ才略絕倫ノ良將ニ髣髴タリ

第二　時運　企業ノ成敗ハ時運ニ關スルコト少カラス幸ニ時運ニ投スレハ凡庸ノ企業者モ巨利ヲ博シ之ニ反スルトキハ非凡ノ企業者モ失敗ヲ免レサルナリ而シテ時運ハ之ヲ豫知スルコト甚タ難ク隨テ時運ノ爲メニ成功シ之ニ依リ

ヲ獲得セル利潤ハ猶ホ都會ノ地代カ偶然ノ原因ニ依リテ暴騰セルニ酷似スルモノトス

第三　獨占　自由競爭ノ行ハルル企業ニシテ利潤ノ多大ナルモノアラシニハ忽チ多數ノ同業者ヲ生シ競爭ノ結果利潤減少スヘキモ獨占ノ場合ニハ然ラス例ヘハ專賣特許ヲ有スル物品ノ代價ハ遙ニ生產費ヲ超ユルモノ多ク隨テ其專賣權ノ所有者ハ多大ノ利潤ヲ得ルナリ鐵道ノ如キ所謂自然的獨占業ニシテ全然之ヲ私人ノ利己心ニ放任スルトキハ鐵道會社ハ其賃金ヲ高メテ以テ利潤ノ增加ヲ圖ルヘキナリ又近時特ニ米國ニ流行スル「トラスト」アルモノハ多額ノ利潤ヲ獲得スル者少カラス是レ亦連合ノ力ヲ以テ市場ヲ制シ自ラ獨占ノ形勢ヲ來スニ因ルモノトス

或ハ利潤ヲ以テ不當ト爲ス者アリト雖モ要スルニ謬說タルヲ免レス蓋シ獨占ヨリ生スル利潤ニ付テハ批難スヘキ場合ナキニ非ス例ヘハ「トラスト」カ其生產品ノ代價ヲ引上ケ鐵道會社カ賃金ヲ高ムルカ如キハ一部ノ少數者之ニ依リテ利益ヲ得レトモ社會全般ハ損害ヲ被ルモノトス專賣特許ノ場合ハ之ト異ナリ

## 雜報

○不法ノ原因ニ基ク給付物返還ノ契約　給付者ノ不法原因ニ基キテ給付シタルモノハ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得サルコトハ民法第七百八條ノ規定セル所ナリ然ラハ當事者カ其給付シタルモノノ返還ヲ約スルコトアルモ若シ給付ヲ受ケタル者ニシテ其約束ヲ守ラサルトキハ給付者ハ均シク返還ヲ請求スルコト能ハサルカ大審院ハ其約束ヲ無效ト認メ原判決(大阪控訴院)ヲ破毀シテ曰ク「不法ノ原因ノ爲メ或給付ヲ爲シタル者カ其給付シタルモノノ返還ヲ求メ得サルコトハ民法第七百八條ノ規定スル所ナリ而シテ此規定ノ因テ生シタル理由ハ自己ノ不法行爲ヲ主張シ以テ法律ノ保護ヲ求ムルハ公義ノ許スヘキ所ニアラスト云フニ在ルヲ以テ該規定ハ公益規定ナルヤ勿論ナリ故ニ此規定ニ違反シ不法ノ原因ノ爲メニ給付シタルモノノ返還ヲ約スル如キハ公益規定ニ反スル法律行爲ニシテ其無效タルヘキコト疑ヲ容レス然レトモ若シ夫レ其給付ノ返還ヲ約スルニアラスシテ其給付シタルモノヲ賣買贈與等ノ如キ法律行

爲ニ基キ其給付ヲ爲シタル者ニ更ニ給付スルハ毫モ不法ニアラスト（大審院明治三十六年（オ）第百六號債權辨濟請求事件明治三十六年五月十二日第十民事部判決）

○第一學年試驗問題　去月二十二日ヨリ三十日ヲ期ニ施行シ了リタル第一學年試驗問題左ノ如シ

## 法學通論（中村博士）

一　公法私法區別ノ標準如何

二　ハスト流行中當分風ノ買上ヲ行フトノ法律昨年十二月發布セラレタリ而シテ本年三月ニ至リハスト患者ハ絶エタリ然ルニ六月更ニハスト患者五人發生セリ風買上法ハ此時命ヲ有效ナリヤ

## 民法總則（自第一章至第三章）（鈴木學士）

一　失踪宣告ノ取消ノ效力如何

二　法人ノ定義ヲ下シ之ヲ說明スヘシ

## 民法總則（自第四章至第六章）（塚田學士）

一　時效中斷ノ效力ヲ說明スヘシ

二　辨濟受領ノ權限ヲ有スル甲カ其權限ヲ行使セサルニ先キタチ本人ノ死亡セシ場合ニ於テ本人ノ相續人丙ハ直チニ本人ノ死亡セシ旨ヲ其地方ノ新聞紙ニ廣告セリ然ルニ甲ハ乙カ本人ノ死亡セル事實ヲ知ラサルヲ奇貨トシテ代理委任狀ヲ乙ニ示シテ辨濟ヲ受領シ之ヲ消費セリ甲乙丙間ノ法律關係如何

## 民法物權（自第一章至第六章）（中山學士）

一　死者ノ遺言ニ依リ遺族ヨリ死體ノ解剖ヲ願出テタルモノアリ醫師ハ之ニ依リ解剖ヲ行ヒタルニ醫學上參考トシテ最モ價値アルコトヲ發見シテ非常ノ苦心ト勞力トヲ費シテ其部分ヨリ一箇ノ標本ヲ製作セリ右ノ標本ハ何人ノ所有ト認ムヘキヤ

二　地上權、地役權、永小作權ノ區別ヲ擧グヨ

三　相隣者ノ利益ノ爲メニ土地ノ所有者カ負擔スル義務ヲ列擧セヨ

四　準占有ノ意義ヲ說明セヨ

五　所有權ト占有權トノ區別ヲ擧ケヨ

右一問ノ外二問以下ニ付キ自由ニ一問ヲ選ミ答案ヲ提出スヘシ

## 刑法總論（谷野學士）

一　過失犯ト所謂結果犯トノ區別ヲ略述セヨ

二　所謂因果關係ハ如何ナル場合ニ於テ中斷スルヤ

三　重犯ノ實行ニ著手シ風聲ヲ聞キシ官ノ至レルモノト認識シテ逃走シ因リテ其事ヲ遂ケサリシ者ノ處分如何

## 憲法（清水學士）

一　憲法第二十三條ノ所謂ノ範圍ヲ說クヘシ

二　衆議院ハ貴族院ノ議算ノ款項ヲ新設シ又ハ金額ヲ增加スルコトヲ得ルヤ

## 國際公法（平時）（中村博士）

一　最惠國約款ヲ論セヨ

二　ダーダネルス海峽ニ軍艦ヲ進過セシムヘカラストノ條約アリ露國ハ自國軍艦ニ武裝ヲ解キ商船旗ヲ掲ヘサシメテ右海峽ヲ通過セシメたリ此行爲ハ條約違反ナリヤ

## 國際公法（戰時）（秋山學士）

一　俘虜ノ逃走ニ關スル現行法如何

二　敵國私有財產ノ海上捕獲ニ關シテ英米主義・大陸主義ノ差異ヲ略說セヨ

## 經濟學（山崎學士）

一　輸出稅減ノ法則ト何ソヤ

二　貨幣ノ職務ヲ擧ケヨ

三　爲替相場ノ順逆トハ何ソヤ

四　銀行券ノ發行ヲ一大中央銀行ニ集中スル理由ヲ述ヘヨ

五　仕出高ニ應シテ支拂フ賃銀ノ利害ヲ述ヘヨ

（右五題ノ中三題ヲ選ンテ答フルモノトス）

# 高等科講義錄

第十二號

六月廿七日發行

目次


民法

○質權ニ付テノ講演……法學士　板倉松太郎

○船長ノ法律上ノ地位（商法）、航海中船舶ヲ讓渡シタル場合ニ於ケル新舊所有者ト船長トノ關係ニ關スル推問（行政法）……法學士　加藤正治

○營造物ニ付テノ推問……法學士　松浦鎭次郎

○現行犯ノ處分、證人訊問、鑑定ノ囑託及ヒ抗告ノ審級等ニ關スル推問（刑事訴訟法）（民事訴訟法）（國際公法）……法律學士　鶴見守義

○「トレント」號事件ニ關スル講演並ニ推問……法學士　秋山雅之介

答案批評

○憲法答案批評……法學士　清水澄

○羅馬法（自一七七頁至一九二頁）……ドクトル・ローマ　田中遞

雜報　○最近例領要旨彙報


三十六年七月　和佛法律學校

# 特別法講義錄

第四號
七月一日發行

本講義錄ハ○府縣制、郡制、市制、町村制（松浦學士）○租稅法（若槻學士）○戸籍法（烏田學士）○人事訴訟手續法（松岡學士）○特許法、意匠法、商標法（杉本學士）○著作權法（水野博士）○供託法（塚田學士）○非訟事件手續法（横田學士）○不動産登記法（鈴木學士）○競賣法（吾孫子學士）○公證人規則（松岡學士）○執達吏規則（仁井田博士）ヲ掲載ス

○毎月一回發行○月謝金十五錢

發行所　和佛法律學校

（明治二十二年十二月九日內務省許可）
（明治三十五年十一月四日郵三補郵便物認可　毎月十九回一日五日六日八日十日十一日十二日十三日十五日十六日廿日廿一日廿三日廿五日廿六日廿七日廿八日廿九日三十日發行）

明治三十六年七月五日印刷
明治三十六年七月六日發行
（定價金貳拾五錢）

東京市牛込區牛込北町十番地
編輯兼發行者　萩原敬之

東京市牛込區矢來町三番地
印刷者　小宮山信好

東京市芝區四ノ久保明舍町十一番地
印刷所　金子活版所

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地
發行所　司法省指定　和佛法律學校
（電話番町百七十四番）